

# Desktop On-Call<sup>®</sup> Version 5

## 「PC リモコン」

## ユーザーズ・ガイド

第1.0版 2001年11月

このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。

©Copyright IBM Corp. 2001. All rights reserved.

CT0RWJA

SC88-0440-00

## 目次

<b>第1章 はじめに</b> .....	8
本書の構成 .....	8
本書の読者 .....	8
Desktop On-Call(デスクトップ・オン・コール)とは、 .....	9
Desktop On-Call の各プラットフォームでの使用例.....	10
Windows XP から Linux をリモート・コントロール .....	10
OS/2 から Windows XP をリモート・コントロール .....	10
Windows 2000 から MacOS をリモート・コントロール .....	11
Pocket PC から Linux をリモート・コントロール .....	11
Palm から Windows XP をリモート・コントロール .....	12
携帯電話から監視カメラ画像を見る .....	12
Desktop On-Call Version 5.0 新機能 .....	13
PDA からリモート・コントロール .....	13
カメラ・サポート(簡易リモート監視).....	14
携帯電話からアクセス .....	15
セキュリティー強化 .....	15
稼動環境 .....	16
ホスト PC (コントロールされる側) .....	16
ゲスト PC(コントロールする側) .....	17
ゲスト PDA デバイス.....	17
携帯電話 .....	18
カメラ.....	18
<b>第2章 インストール</b> .....	19
Desktop On-Call をホスト PC にインストールする.....	20
Windows PC へインストール .....	20
英語版 Windows PC へインストール .....	27
Windows 版の変更・削除方法 .....	32
Mac へインストール .....	33

Mac 版の削除方法 .....	34
OS/2 PC へインストール .....	35
OS/2 版の削除方法 .....	38
Linux PC へインストール .....	39
その他のユーティリティをインストールする .....	46
DirectX8のインストール .....	46
<b>第3章 接続 .....</b>	<b>47</b>
WindowsXP での設定 .....	48
モデムを利用し直接着信して利用する場合 .....	48
ネットワークを利用する場合 .....	50
Windows 2000 での設定 .....	52
モデムを利用し直接着信して利用する場合 .....	52
ネットワークを利用する場合 .....	53
Windows 98SE/Me での設定 .....	54
モデムを利用し直接着信して利用する場合 .....	54
ネットワークを利用する場合 .....	55
Windows NT 4.0 での設定 .....	57
モデムを利用し直接着信して利用する場合 .....	57
ネットワークを利用する場合 .....	63
MacOS での設定 .....	64
モデムを利用し直接着信して利用する場合 .....	64
ネットワークを利用する場合 .....	66
OS/2 での設定 .....	67
Linux について .....	72
Linux 版の操作方法 .....	73
Capture Engine の使い方 .....	76
コンフィグレーション・ファイルについて .....	76
ネットワーク環境 .....	87
Windows XP インターネット接続ファイアウォールの設定 .....	87

ホーム PC 用セキュリティー製品といっしょに使う。.....	91
ホームルータ経由で使う.....	96
ping を用いた TCP/IP のチェック .....	99
<b>第 4 章 PDA から使う.....</b>	<b>100</b>
Pocket PC から使う.....	100
Pocket PC へインストール.....	100
Pocket PC からの接続方法.....	101
Desktop On-Call Pocket PC Client の使用方法.....	101
Palm から使う.....	103
Palm へインストール.....	103
Palm からの接続設定方法.....	103
Desktop On-Call Palm Client の使用方法.....	104
Sharp Zaurus から使う.....	105
Sharp Zaurus へインストール.....	105
ホストネーム、ユーザ ID、パスワードの設定.....	105
ザウルスからの接続方法.....	106
Desktop On-Call Zaurus Client の使用方法.....	107
<b>第 5 章 監視カメラを使う.....</b>	<b>108</b>
カメラ画像を Web ブラウザーから見る.....	109
「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」を起動する.....	109
Web ブラウザーからアクセスする.....	110
リフレッシュ・レートを変更する.....	112
ホスト PC のスクリーンを見る.....	113
ホスト PC で「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」を起動する.....	113
Desktop On-Call キャプチャー・エンジンをバックグラウンドで動かす.....	114
Web ブラウザーからアクセスする.....	114
リフレッシュ・レートを変更する.....	116
<b>第 6 章 携帯電話から使う.....</b>	<b>117</b>
ホスト PC で「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」を起動する.....	117

携帯電話からアクセスしカメラ画像を見る .....	118
携帯電話でホスト PC の画面を見る .....	118
ホスト PC で「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」を起動する.....	120
携帯電話からアクセスしホスト PC スクリーンを見る.....	120
<b>第 7 章 PC から使う .....</b>	<b>123</b>
リモート・コントロール機能 .....	123
ブラウザからの接続.....	123
Desktop On-Call 接続モード .....	126
エミュレーションボタン .....	128
機能制限オプション .....	129
ファイル転送.....	130
サインド・アップレット認証パネル.....	130
ファイルをホスト PC からゲスト PC に転送する。 .....	131
ファイルをゲスト PC からホスト PC に転送する。 .....	131
ホスト PC からゲスト PC にディレクトリーごと転送する。 .....	132
ゲスト PC からホスト PC にディレクトリーごと転送する。 .....	132
新しいディレクトリーを作る(ホストPC・ゲストPC) .....	132
セキュリティ機能 .....	133
ユーザーIDごとのプロパティの設定 .....	133
グリーンティング・テキスト・チャット.....	138
ラウンチ・マップ .....	139
ラウンチ・マップへの PC の登録方法.....	139
オート・ラウンチ・マップ .....	140
オリジナル・ラウンチ・マップ .....	144
新規作成した HTML をラウンチ・マップに割り当てる.....	149
リモートブラウジング専用版 .....	150
ゲスト PC から入力可能なイベント .....	151
マウス.....	151
キーボード .....	151

出力可能な画面モード .....	152
ディスプレイ .....	152
機能一覧 .....	153
<b>第 8 章 設定パネル .....</b>	<b>154</b>
メインパネル .....	154
プロパティ・パネル .....	155
ホスト PC 設定 .....	155
サーバー機能 .....	156
ラUNCHマップ .....	162
アクセスログ .....	162
<b>第 9 章 注意事項 .....</b>	<b>163</b>
技術情報 .....	163
Windows2000 SP1/2 でログオンパネルのとき表示されない .....	163
WindowsXP で簡易ログオンが使用できなくなります。 .....	163
Netscape 6.1 で使用すると不安定 .....	163
Conqueror Browser (Turbo Linux 7.0J)/ Opera 5.12 で動作しない .....	163
OS/2 で削除したとき、不完全で再インストールできない場合 .....	164
ActiveDesktop が On の場合、壁紙自動解除が効かない。 .....	164
Redhat 6.2J でのカメラサポート .....	164
削除中ののパネル .....	164
OS/2 の場合のバージョンアップ .....	165
携帯電話から監視カメラ履歴を見る場合 .....	165
デジタル・ビデオ・カメラを監視カメラとして使う場合 .....	165
Linux でインストールする場合、kpackage を使わない。 .....	165
Webcam Extension Pak .....	165
CDE 環境で起動時に Desktop On-Call を自動始動する方法 .....	166
Desktop On-Call Linux 版を X-Window 起動時に自動始動する方法 .....	167
Linux 版の技術情報 .....	169
Linux 版での制限事項 .....	169

Mac 版IE5から AIX Host PC をリモート・コントロールする場合 .....	170
ゲストPCが Mac OS で使用するとき .....	170
マルチ・ディスプレイについて .....	170
全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法 .....	171
ゲストPCから日本語入力をする .....	171
DOS プロンプトに DBCS 入力に関する制限 .....	171
リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける .....	172
ブラウザーに表示される画面に縦横の色むらが表示される .....	172
「既にユーザーXXXX にコントロールされています」と表示される .....	172
「TCP/IP がインストールされていません」と表示される .....	172
「DHCP サーバーと接続できない」「IP Address を取得できない」と表示される .....	172
ブラウザーに URL を指定しても反応がない .....	173
指示ポインタの背景が実際の背景色とマッチしていない場合がある .....	173
ネットスケープでアプレットが反応しなくなる。IE でブラウザー自体が停止 .....	173
「Java.Lang.OutOfMemoryError」と表示して止まる .....	174
IE 使用時、スクロール・バーを使用すると画面表示が乱れることがある .....	174
動画再生ウィンドウが正しく表示されないことがある .....	174
DirectX について .....	174
スクリーン・ビューのちらつき .....	175
メルコ キャプチャーボード CBP-AV ご使用の場合 .....	176
i モード使用時のパケット料金について .....	176
Desktop On-Call Linux 版エラーメッセージ .....	177
用語集 .....	178
商標 .....	179
特記事項 .....	180

# 第1章 はじめに

本書は、Desktop On-Call™ Version 5.0 「PCリモコン™」〔以降 Desktop On-Call〕を使用するためのマニュアルです。Desktop On-Call を使って、コンピュータをリモート・コントロール（遠隔操作）するための手順や操作方法について説明します。

## 本書の構成

本書は、次のように構成されています。

第1章、「はじめに」では、Desktop On-Call の紹介、新機能の説明と稼働環境について説明します。

第2章、「インストール」では、Desktop On-Call を、各プラットフォームにインストールする方法と、英語版をインストールする方法を説明します。

第3章、「接続」では、Desktop On-Call のネットワーク接続の方法を説明します。

第4章、「PDA から使う」では、各 PDA 用 Desktop On-Call クライアントのインストール方法と使用方法について説明します。

第5章、「監視カメラを使う」では、Desktop On-Call の監視カメラ機能を説明します。

第6章、「携帯電話から使う」では、携帯電話からの使用方法を説明します。

第7章、「PC から使う」では、Web ブラウザーからの使用方法を説明します。

第8章、「設定パネル」では、Desktop On-Call が持っているパネルを説明します。

第7章、「注意事項」では、Desktop On-Call を使用する上で、注意すべき技術情報や、トラブルの対処の仕方を説明します。

## 本書の読者

本書は、読者が次の操作を行えることを想定して記述しています。

- 使用するオペレーティング・システムの基本操作を理解していること。
- 使用するWebブラウザーの基本操作を理解していること。
- インターネット、あるいはTCP/IPの基本について理解していること。



---

## Desktop On-Call(デスクトップ・オン・コール)とは、

Web ブラウザーを使って操作できるリモート・コントロール・ソフトです。

Desktop On-Call と従来の製品には、ひとつの大きな違いがあります。従来の製品は、手元のコンピュータと遠隔地にある操作される側のコンピュータ(ホスト PC)の両方にリモート・コントロール ソフトウェアをインストールする必要がありました。これに対し、Desktop On-Call は、操作される側のコンピュータ(ホスト PC)にインストールしておくだけで、Web ブラウザーさえあればリモート・コントロールが可能となります。

例えば、自分のオフィスのコンピュータを家から使いたい場合、自分のオフィスのコンピュータに Desktop On-Call をインストールしてください。そうすれば、ホームページにアクセスするような感覚で自分のオフィスのコンピュータにアクセスできます。ブラウザーの中にコンピュータの画面が現れ操作できるのです。

それを可能にしているのは、Java™です。インターネットにアクセスできるコンピュータには Web ブラウザーがインストールされています。そして、たいていの Web ブラウザーは、Java アプレットというプログラムをインターネットを通して Web ブラウザー内にダウンロードし実行する仕組みを持っています。Desktop On-Call は、これを利用しています。また、Java アプレットというプログラムは、あなたの手元のコンピュータの基本ソフト(オペレーティング・システム)が何であっても動作できるという利点を持っています。すなわち、Windows でも、MacOS でも、Linux でも、OS/2 でもかまいません。

次の3つのステップでブラウザーからリモート・コントロールできます。

1. ブラウザーにURLあるいはIPアドレスを入力する
2. Javaアプレットがブラウザーにダウンロードされ、ユーザーID、パスワードを入力する。
3. ブラウザにデスクトップのイメージが現れ、リモート・コントロールが可能になります。

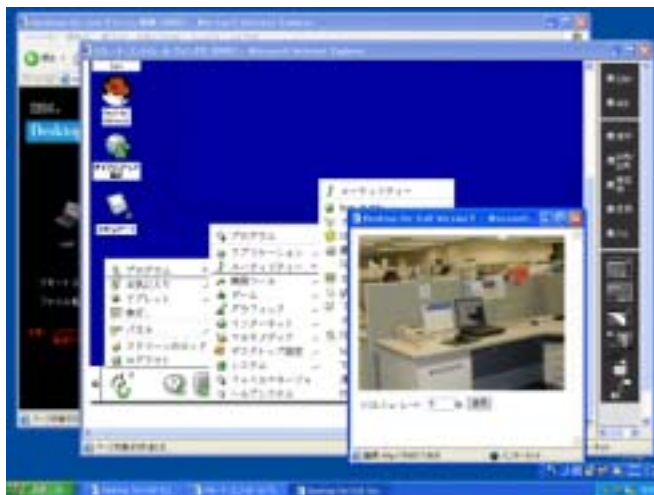
---

## Desktop On-Callの各プラットフォームでの使用例

Desktop On-Call によるリモート・コントロールの例です。Windows, Linux, MacOS と OS/2 の間でいろいろな組合せでリモート・コントロールが行えます。

### Windows XPからLinuxをリモート・コントロール

---



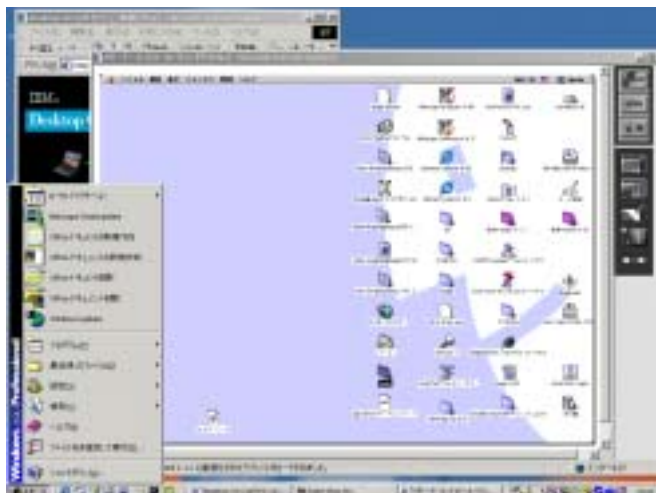
### OS/2からWindows XPをリモート・コントロール

---



## Windows 2000からMacOSをリモート・コントロール

---



## Pocket PCからLinuxをリモート・コントロール

---



## PalmからWindows XPをリモート・コントロール

---



## 携帯電話から監視カメラ画像を見る

---



---

## Desktop On-Call Version 5.0新機能

Desktop On-Call Version 5.0「PCリモコン」は、モバイルへの対応、携帯電話への対応、128ビット暗号化への対応等の機能強化を行いました。従来のPCからのアクセスに加え、モバイルから、携帯電話から使用できるようになりブロードバンド環境で十分活躍できるソフトウェアに進化しました。

---

### PDAからリモート・コントロール

Desktop On-Call Version 5.0 は、PDA ( Personal Digital Assistants )デバイスとして次の3種類をサポートします。



- **Pocket PC**  
マイクロソフト社製 Windows CE 3.0ベースのPocket PCを採用しているPDAから使用することができます。
- **Palm**  
Palm OS 3.5以上をサポートしているPalm PDAから使用することができます。
- **シャープ ザウルス MI-E1**  
Zaurus用ソフト実行環境 ( for PersonalJava™ ) が別途必要です。  
Zaurus MI-E1から使用することができます。

### Low Resource Modeのサポート

Desktop On-Call には、リモート・コントロール用コネク・モードとして、基本コネク・モードと拡張コネク・モードがありました。 Desktop On-Call Version 5 では、モバイル・デバイスをサポートするために従来のモードに加えて、低リソース・モード ( Low Resource Mode ) をサポートします。低リソース・モードでは、

デバイスに合わせてホストPCから送る画像情報を調整できます。ホストPCは画面のどの部分をデバイス側で見ているかを認識しており、デバイスのメモリー容量に応じて画像情報を送信します。

### **カメラ・サポート(簡易リモート監視)**

---

Desktop On-Call は、以下のPCに接続されているカメラを監視カメラとして利用できる機能をサポートします。

- USBポートに接続されるカメラ
- IEEE1394カードあるいは、I-link ( Firewire ) ポート接続されるデジタル・ビデオ・カメラ
- ビデオ・キャプチャーカードに接続されるデジタル・カメラ

Windows では、DirectX 8 以上がインストールされている必要があります。

### **キャプチャー・エンジン**

キャプチャー・エンジンは、Windows の場合は DirectX 経由でカメラの画像を入手します。DirectX 8 以上が必要です。Linux の場合は、Kernel 2.4 以上でなければなりません。その画像を Web ブラウザーや、携帯電話から見ることができる画像形式に変換し、ホストPC上に保存します。

### **履歴機能**

キャプチャー・エンジンが DirectX 経由で入手した画像を比較し、変化があった場合その画像を履歴画像として保存します。変化があったと判断する感度を設定することができます。

## 携帯電話からアクセス

---

ホストPCにカメラが接続されており、インターネットに接続されている(グローバルIPアドレスが割り振られている)場合、携帯電話からカメラの画像を見ることができます。また、ホストPCのスクリーンのイメージも携帯電話から見ることができます。



## DtOCLINK(ホストPCのアドレスをメールに添付し送信するツール)

ホスト PC のアドレスをメールに添付し送信するツール(DtOCLINK.exe)が Desktop On-Call のホームページ

(<http://www.ibm.com/jp/pspjinfo/javadesk>) からダウンロードできます。このツールを使うとカメラ画像を見て欲しい人の携帯電話にメールを送り、受け取った人は、メールの中のリンクを選択するだけでカメラ画像を見ることができるようになります。もちろんユーザーID とパスワードでプロテクションをかけることができます。

## セキュリティ強化

---

暗号化強度 128Bit で暗号化を行い通信することができます。

## 稼働環境

### ホストPC (コントロールされる側)

#### Desktop On-Call Version 5 「PCリモコン」日本語版

IBM 製パーソナルコンピューターおよびその互換機

Windows XP Professional 日本語版  
Windows XP Home 日本語版  
Windows 2000 Professional 日本語版  
Windows 2000 Server 日本語版  
Windows 2000 Advanced Server 日本語版  
Windows 98SE 日本語版  
Windows Me 日本語版  
Windows NT 4.0 Workstation 日本語版  
Windows NT 4.0 Server 日本語版  
OS/2 Warp 4 日本語版  
OS/2 Warp for e-business 日本語版  
Redhat Linux 7.1  
TurboLinux Workstation 日本語版 7.0

下記 OS が動作する Apple 社製コンピューター

MacOS 9.1/9.2 日本語版

メモリー: 64MB 以上  
ハードディスク: 16MB 以上の空きディスク容量が必要  
CD-ROMドライブ: 上記 OS に対応した CD-ROMドライブ  
ネットワーク接続: TCP/IP

#### Desktop On-Call Version 5 「PCリモコン」英語版

IBM 製パーソナルコンピューターおよびその互換機

Windows 98 Second Edition 英語版  
Windows Me 英語版  
Windows NT 4.0 Workstation 英語版  
Windows NT 4.0 Server 英語版  
Windows 2000 Professional 英語版  
Windows 2000 Server 英語版  
Windows 2000 Advanced Server 英語版  
Windows XP Home edition 英語版  
Windows XP Professional edition 英語版  
OS/2 Warp 4 英語版



OS/2 Warp for e-business 英語版  
Redhat Linux 7.1  
TurboLinux Workstation 英語版 7.0  
Caldera OpenLinux 3.1 英語版

メモリー: 64MB 以上  
ハードディスク: 16MB 以上の空きディスク容量が必要  
CD-ROMドライブ: 上記 OS に対応した CD-ROMドライブ  
ネットワーク接続: TCP/IP

注:104 キーボードは 101 キーボードとして機能します。

### ゲストPC(コントロールする側)

---

Java アプレット対応 Web ブラウザー

Internet Explorer 5.5/6.0  
Netscape Communicator 4.7  
Java スクリプト 1.2、LiveConnect のサポートが必要です。

### ゲストPDAデバイス

---

Microsoft Pocket PC 日本語版が動作する PDA

動作確認済み Pocket PC

TOSHIBA Pocket PC GENIO e550  
CASIO CASSIOPEIA E-750  
COMPAQ iPAQ  
HP JORNADA 548

Palm OS 3.5 以上が動作する PDA

動作確認済み Palm

SONY CLIE PEG-N600C  
SONY CLIE PEG-N750C  
Palm Computing Palm IIIc  
Palm Computing Palm m505  
IBM Workpad c505  
Handspring Visor Paltinum  
Handspring Visor Edge

シャープザウルス MI-E1+Java 環境(別売)が必要

動作確認済み Zaurus

Sharp Zaurus MI-E1

## 携帯電話

---

NTT DoCoMo i モード携帯電話

au EZweb 対応携帯電話

J-PHONE J-SKY ウェブ対応携帯電話

## カメラ

---

Windows にイメージング・デバイスとして認識されるカメラ

- USBポートに接続されるカメラ  
動作確認済み USB カメラ  
CREATIVE LAB VIDEO BLASTER WEBCAM GO Plus VBWCGOP  
INTEL PC Camera Pack USB  
IBM ThinkPad UltraPort Camera II  
CreativeLAB VideoBLASTER WEBCAM3 (LINUX)
- IEEE1394カードあるいは、I-linkポート接続されるデジタル・ビデオ・カメラ  
動作確認済みビデオ・カメラ  
SONY Digital HandyCam DCR-TRV20  
動作確認済み IEEE1394 カード  
RATOC System, Inc. IEEE1394 CardBus PC Card REX-CBFW1-L  
RATOC System, Inc. IEEE1394 PCI Board REX-PFW2WDV
- ビデオ・キャプチャーカードに接続されるデジタル・カメラ  
動作確認済みビデオ・キャプチャーカード  
IOData Video Capture Board GV-BCTV4/PCI  
IOData Video Capture GV-BCTV3/USB

## 第2章 インストール

Desktop On-Call Version 5 「PCリモコン」は、パーソナル・コンピュータをリモート・コントロールするソフトウェアです。使用される構成として、ホスト PC(コントロールされる側)とゲスト PC(コントロールする側)があります。Desktop On-Call はホスト PC(コントロールされる側)にインストールしてください。

Desktop On-Call はホスト PC の OS として、Windows, Linux, OS/2 と MacOS をサポートしています。

- Windowsにインストールする場合は、20ページに進んでください。
- MacOSにインストールする場合は、33ページに進んでください。
- Linuxにインストールする場合は、39ページに進んでください。
- OS/2にインストールする場合は、35ページに進んでください。

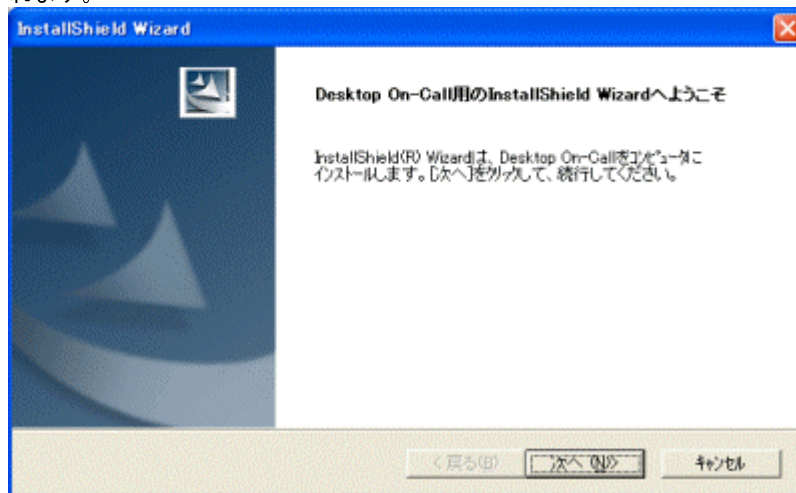
PDA 等のクライアントモジュールのインストールは100ページに進んでください。

## Desktop On-CallをホストPCにインストールする

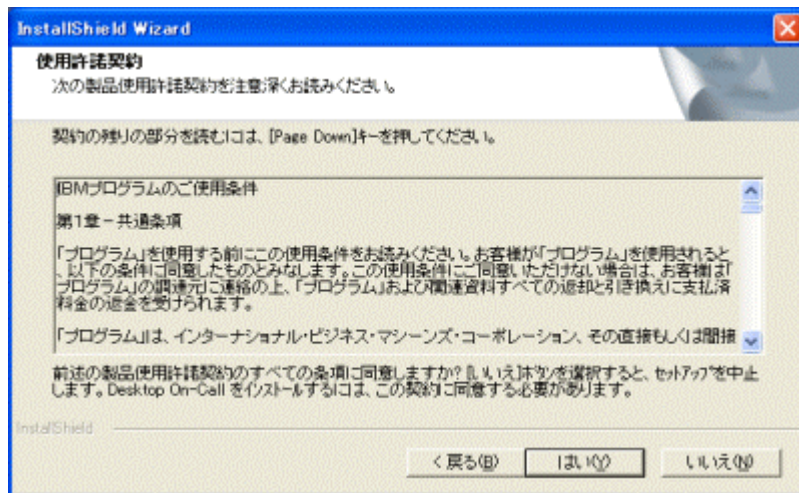
### Windows PCへインストール

1. Desktop On-Call CDをCDドライブに挿入してください。
2. 「インストール開始」を選択してください。

「Desktop On-Call用のInstallShield Wizardへようこそ」のパネルが表示されます。

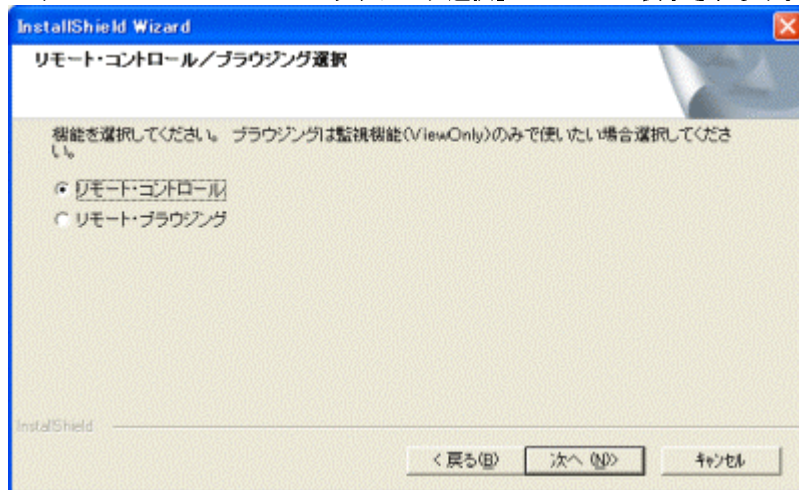


3. 「次へ」を選択してください。  
「使用許諾契約」のパネルが表示されます。ご一読ください。



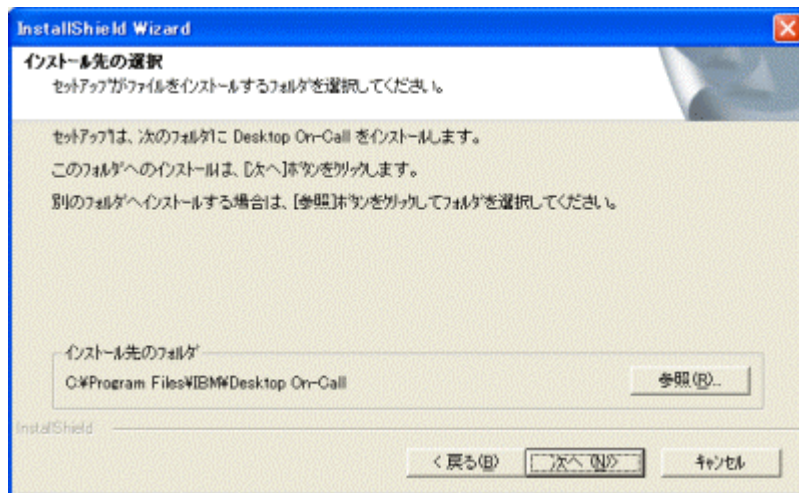
4. 同意していただける場合は、「はい(Y)」を選択してください。

「リモート・コントロール/ブラウジング選択」のパネルが表示されます。



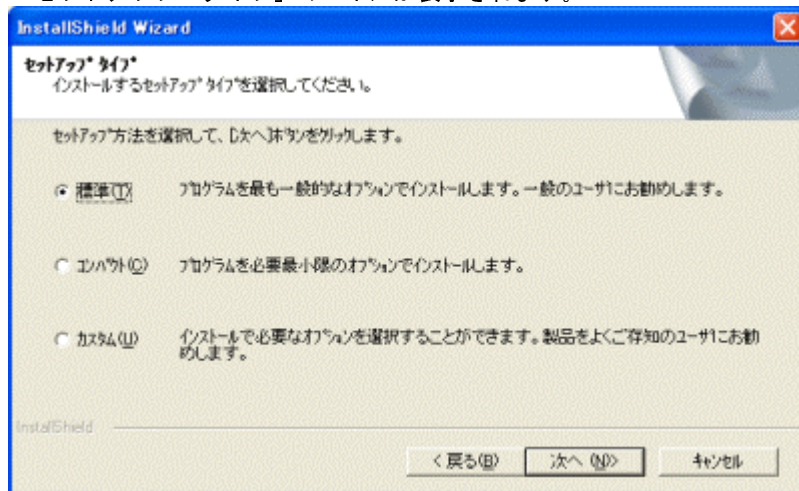
5. Desktop On-Callの全ての機能を使用する場合はリモート・コントロールを選択してください。通常はこちらを選択してください。リモート・ブラウジングは、見るだけで、操作はさせたくない場合は、こちらを選択してください。「次へ」を選択してください。

「インストール先の選択」のパネルが表示されます。



6. インストール先のフォルダーを変更する場合は「参照(R)」を選択し、インストール先のフォルダーを変更してください。「C:\Program Files\IBM\Desktop On-Call」でよければそのままにしておいてください。「次へ」を選択してください。

「セットアップ・タイプ」のパネルが表示されます。

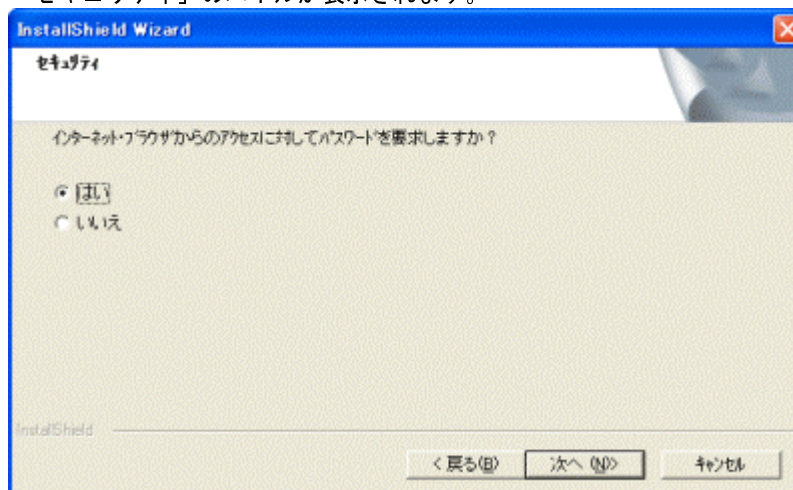


標準を選択するとすべてのコンポーネントがインストールされます。コンパクトを選択すると Program files のみがインストールされます。この場合、SSL サポート、カメラのサポートは含まれません。カスタムを選択すると、Program files (リモート・コントロール・プログラム本体)、SSL (暗号化ライブラリー)、Capture Engine(カメラサポート、携帯電話サポート)、

HELP(HTML版マニュアル)の中からインストールしたいコンポーネントを選択できます。

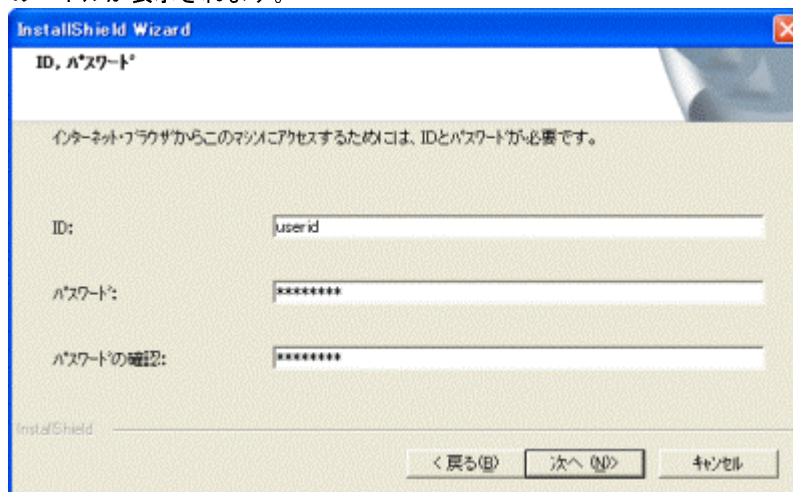
7. セットアップ・タイプを選択し「次へ」を選択してください。

「セキュリティ」のパネルが表示されます。



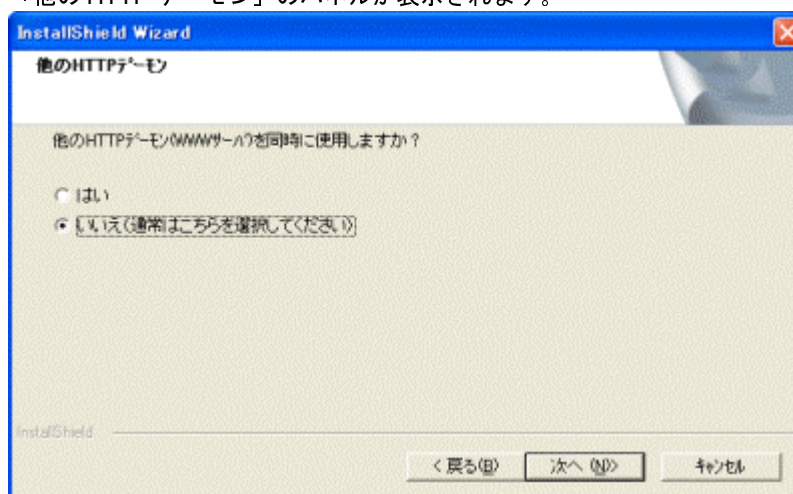
8. パスワードを要求する場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。(IBMは、「はい」を選択されることを強く推奨します。)

「セキュリティ」のパネルで「はい」を選択された場合は「ID,パスワード」のパネルが表示されます。



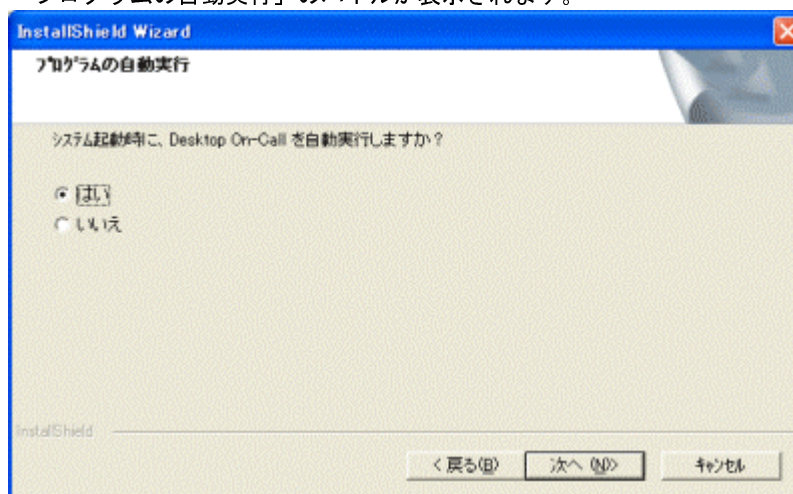
9. ID、パスワード(確認のため2回)を入力し「次へ」を選択してください。

「他のHTTP デーモン」のパネルが表示されます。



10. このPCがインターネットのサーバー等である場合はすでにポート80を使用している可能性があります。その場合は「はい」を選択してください。それ以外の場合は「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。

「プログラムの自動実行」のパネルが表示されます。

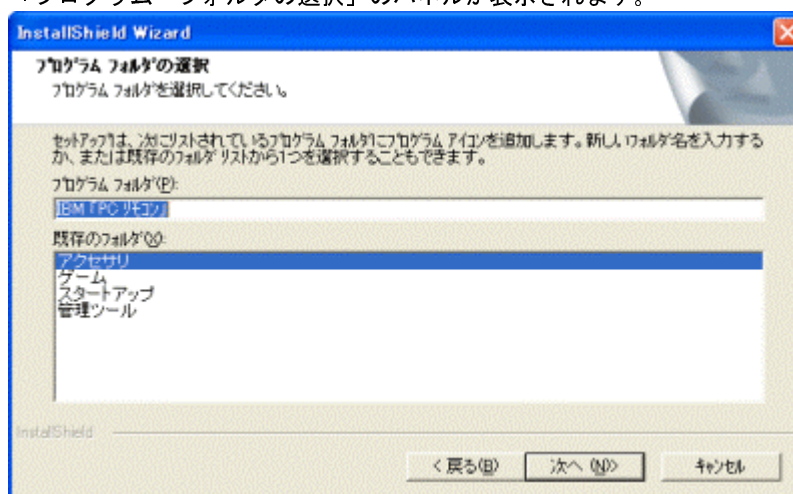


11. システム起動時にDesktop On-Call接続可状態にする場合は、「はい」を選択してください。システム起動後、手動でDesktop On-Callをスタートさせる



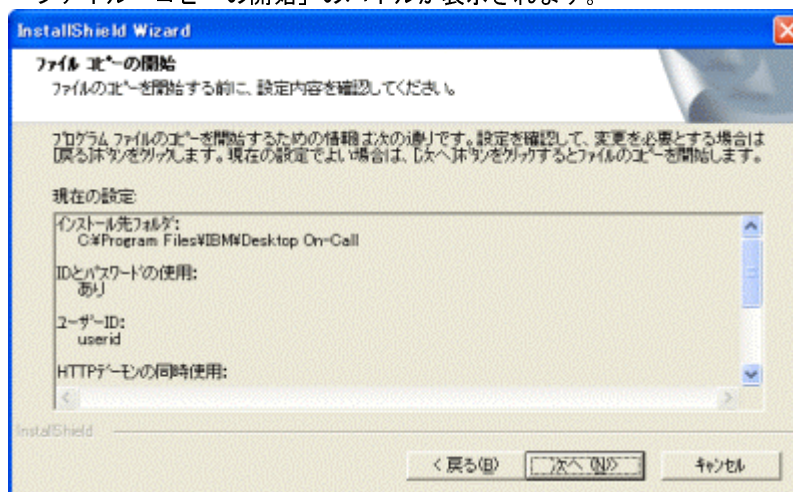
場合は、「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。

「プログラム フォルダの選択」のパネルが表示されます。



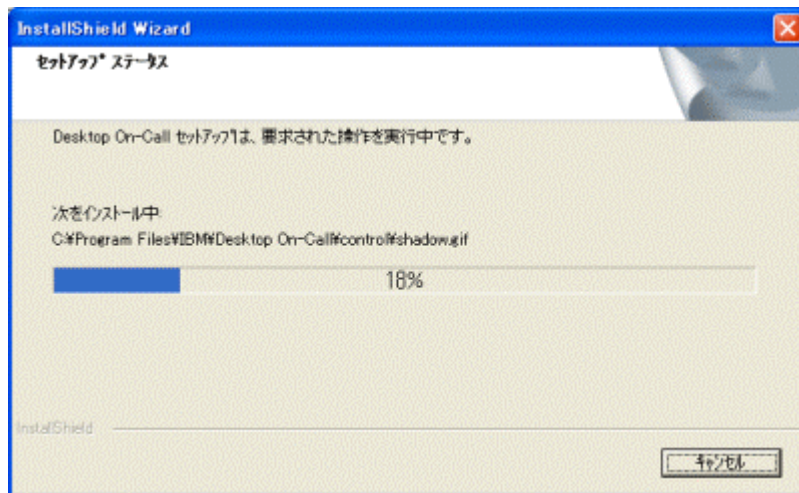
12. 「次へ」を選択してください。

「ファイル コピーの開始」のパネルが表示されます。

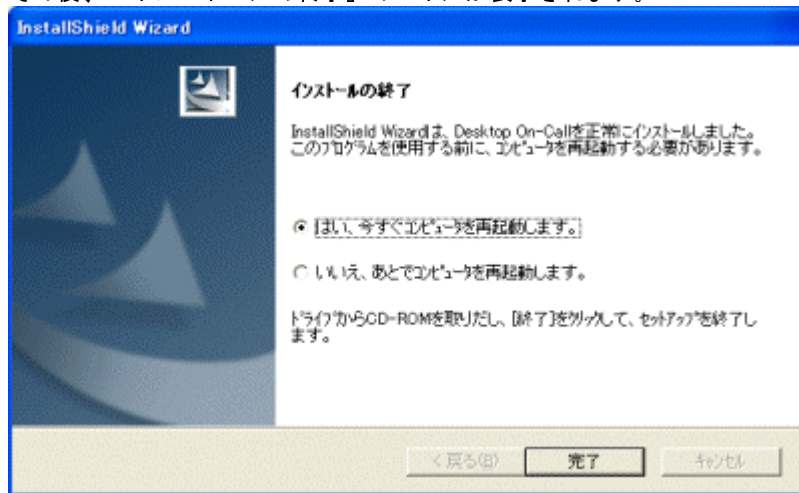


13. 「次へ」を選択してください。

ファイル コピーが開始されます。SSL ライブラリーのインストールはしばらく時間がかかります。



その後、「インストールの終了」のパネルが表示されます。



**14.** 「完了」を選択してください。

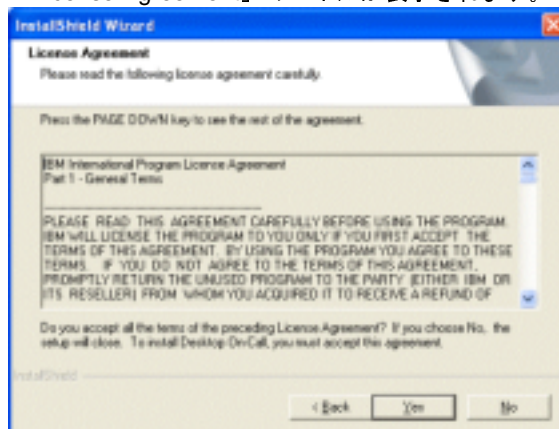
## 英語版Windows PCへインストール

---

1. Desktop On-Call CDをCDドライブに挿入してください。
2. 「インストール開始」を選択してください。  
「Welcome to the InstallShield Wizard for Desktop On-Call」パネルが表示されます。



3. 「Next」を選択してください。  
「License Agreement」のパネルが表示されます。ご一読ください。



4. 同意していただける場合は、「Yes」を選択してください。

「Selection Remote Control or View only」のパネルが表示されます。



5. Desktop On-Callの全ての機能を使用する場合は「Remote Control」を選択してください。「View Only」は、見るだけで、操作はない場合は、こちらを選択してください。「Next >」を選択してください。

「Choose Destination Location」のパネルが表示されます。



6. インストール先のフォルダーを変更する場合は「Browse」を選択し、インストール先のフォルダーを変更してください。「C:¥Program Files¥IBMDesktop On-Call」でよければそのままにしておいてください。「Next >」を選択してください。

「Setup Type」のパネルが表示されます。



「Typical」を選択するとすべてのコンポーネントがインストールされます。「Compact」を選択すると Program files のみがインストールされます。この場合、SSL サポート、カメラのサポートは含まれません。「Custom」を選択すると、Program files（リモート・コントロール・プログラム本体）、SSL（暗号化ライブラリー）、Capture Engine(カメラサポート、携帯電話サポート)、HELP(HTML 版マニュアル)の中からインストールしたいコンポーネントを選択できます。

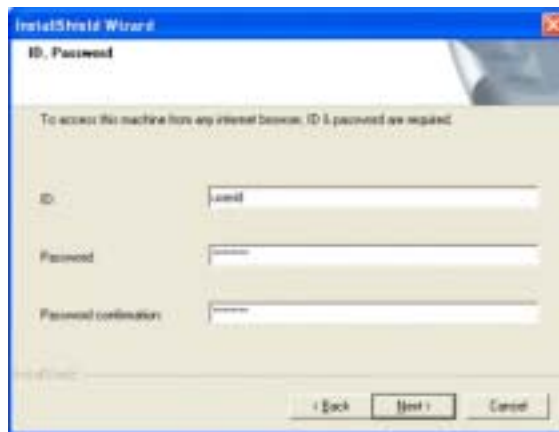
7. セットアップ・タイプを選択し「Next>」を選択してください。

「Security」のパネルが表示されます。

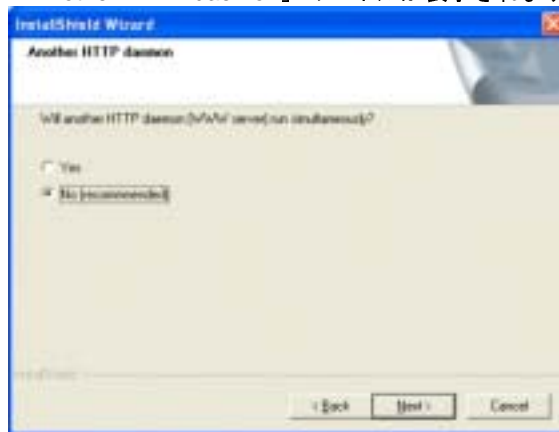


8. パスワードを要求する場合は「Yes」を、しない場合は「No」を選択しします。)

「Security」のパネルで「Yes」を選択された場合は「ID,Password」のパネルが表示されます。

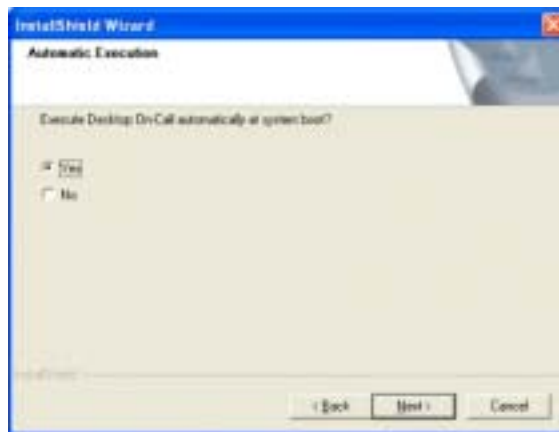


9. ID、パスワード(確認のため2回)を入力し「Next>」を選択してください。  
「Another HTTP daemon」のパネルが表示されます。



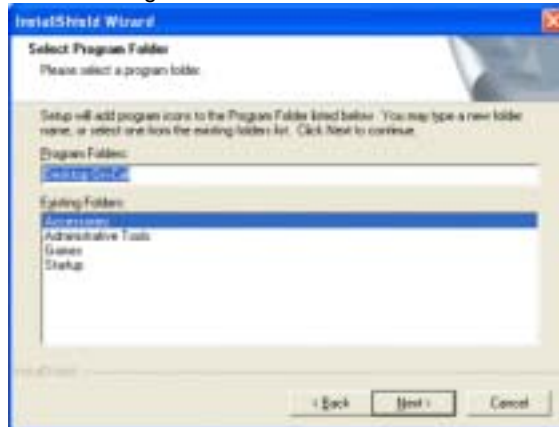
10. このPCがインターネットのサーバー等である場合はすでにポート80を使用している可能性があります。その場合は「Yes」を選択してください。それ以外の場合は「No」を選択し「Next>」を選択してください。

「Automatic Execution」のパネルが表示されます。



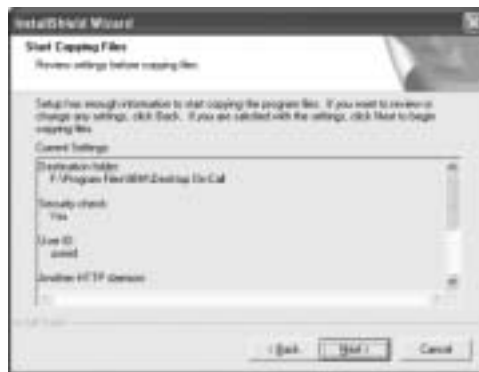
- 11.** システム起動時にDesktop On-Call接続可状態にする場合は、「Yes」を選択してください。システム起動後、手動でDesktop On-Callをスタートさせる場合は、「No」を選択し「Next>」を選択してください。

「Select Program Folder」のパネルが表示されます。



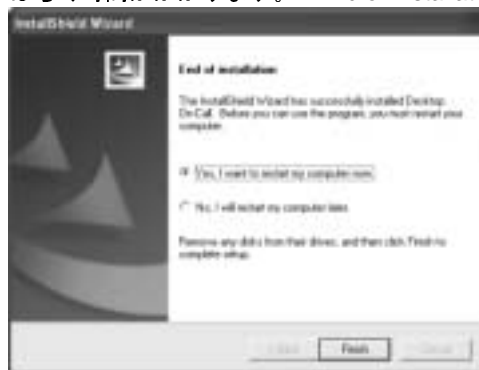
- 12.** 「Next>」を選択してください。

「Start Copying Files」のパネルが表示されます。



13. 「Next」を選択してください。

ファイルコピーが開始されます。SSL ライブラリーのインストールにはしばらく時間がかかります。「End of Installation」のパネルが表示されます。



「Finish」を選択してください。

## Windows版の変更・削除方法

1. 「スタート」－「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」を選択してください。
2. 「Desktop On-Call」を選択し「変更と削除」を選択してください。
3. 「削除」を選択し画面の指示に従ってください。

注：修正を行うと、標準の状態ですべて再インストールされます。従って、リモートブラウジング専用版をインストールしている場合は修正を行うと、通常のリモート・コントロールの状態になってしまいますので注意してください。



## Macへインストール

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2. CDのフォルダーを開いてください。
3. 「Desktop On-Callセットアップ」を実行してください。
4. 「実行」を選択してください。
5. 同梱の「プログラムのご使用条件」および「ライセンス情報」をお読みください。その上で、同意して下さる場合は、「はい」を選択してください。「いいえ」を選択した場合は、インストールは終了します。



6. インストール先フォルダーを選択してください。



7. ファイルのコピー終了後、システムを再起動してください。

これでインストールは完了しました。ユーザーID とパスワードの設定を以下の要領で行ってください。

8. インストールしたフォルダーを開いてください。
9. 「Desktop On-Call」を開いてください。
10. 「プロパティ」を選択してください。
11. ユーザー設定タブをクリックしてください。
12. 「セキュリティーをチェックする」を選択してください。
13. 「ユーザーIDの追加」を選択してください。
14. ユーザーID、およびパスワードを入力し、「OK」を選択してください。
15. 「OK」を選択してください。  
「Desktop On-Call」 パネルで「接続許可」を選択してください。

### Mac版の削除方法

---

1. Desktop On-Callのフォルダーを開いてください。
2. Desktop On-Call Uninstallを実行してください。

## OS/2 PCヘインストール

---

1. Desktop On-CallのCD-ROMを、CD-ROMドライブに挿入します。
2. OS/2コマンド・プロンプトを開いてください。
3. x:\¥setup.os2¥INSTALL.EXEと入力しOKを選択してください。(x:は、実際にメディアを挿入したドライブを指定します。)
4. ソフトウェアライセンス同意書に同意する場合は「継続」を選択します。同意しない場合は「取消」を選択します。

Desktop On-Callの導入と「ライセンス情報」ダイアログが表示されます。

「継続」を選択した場合は、セットアップが続行され、「導入－確認」パネルが表示されます。「取消」を選択した場合は、セットアップは中止されます。

5. 「了解(O)」を選択してください。  
「導入－ディレクトリー」パネルが表示されます。
6. Desktop On-Callを選択し、表示されているディレクトリーでよろしければ「導入(I)...」を選択してください。別のディレクトリーにインストールしたい場合は、導入先ディレクトリーを入力してください。

ファイルのコピーが開始されます。  
「Desktop On-Call の設定」のパネルが表示されます。



7. 「次へ(N)」を選択してください。  
「セキュリティ」パネルが表示されます。



8. ここで接続時にユーザーID、パスワードを要求するかどうかを設定できます。ユーザーID、パスワードを要求する場合は、「はい」を、要求しない場合は、「いいえ」を選択し「次へ」を選択してください。

「セキュリティ」パネルで「はい」を選択した場合は、ユーザーID、パスワードを入力するパネルが表示されます。



9. ユーザーID、パスワードを入力して「次へ」を選択してください。「他のHTTPデーモン」のパネルが表示されます。



10. 他のHTTPデーモンを使用していない場合は、「いいえ」を選んでください。

例えば、WWW サーバー（ホームページ・サーバー等）として運営している場合は、HTTP デーモンのポート番号がぶつからないよう調整する必要があります。通常の WWW サーバーのポート番号は、80 になっています。これとぶつからないよう例えば、5000～65535 のポート番号を指定してください。



11. 「次へ」を選択してください。

「プログラムの自動実行」パネルが表示されます。



12. システム起動時に、Desktop On-Call サーバーを自動始動させる場合は、「はい」にマークし「次へ」を選択してください。

「設定内容の確認」パネルが表示されます。



13. 完了を選択してください。

「導入および保守」のパネルが表示されます。

14. 「了解」を選択してください。

これでインストールは完了しました。システムを再起動させてください。

### OS/2版の削除方法

---

1. 「Desktop On-Call」フォルダーを開きます。
2. 「Desktop On-Callの削除」を起動します。
3. 「削除する構成要素を選択してください」のリストの中の「Desktop On-Call」を選択し、「削除」を選択します。

## Linux PCへインストール

Desktop On-Call Linux 版のインストール方法について説明します。インストール・パッケージとして、RPM(redhat Package Manager)形式のものと、tar.gz 形式のものを用意しています。また、英語版の Linux 用インストールパッケージも用意しています。

Linux 版をインストールするには以下の作業が必要です。

1. パッケージのインストール
2. 環境設定作業

☞ X-Windows システムがインストールされていることが前提となります。  
☞ ここで解説しているコマンドは、Terminal 上で入力するコマンドを意味します。Linux オペレーティング・システムおよび Linux の基本的な操作方法をあらかじめ習得していることを前提に解説していきます。

### パッケージのインストール

1. スーパーユーザー(root)でLinuxにログインしてください。

2. CD-ROMをマウントします。

以下のコマンドを入力してCD-ROMをマウントしてください。

```
#mount -t iso9660 -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

あるいは、

```
#mount /mnt/cdrom
```

3. インストール・コマンドを実行します。

#### ●rpmでインストールする場合

インストールパッケージはRPM形式に対応しています。

RPM コマンドを使用して、次のようにインストールします。

#### ●日本語版の場合

```
#cd /mnt/cdrom/linux
```

```
#rpm -ivh jdtoc-5.0-1.i386.rpm
```

#### ●英語版の場合

```
#cd /mnt/cdrom/linux
```

```
#rpm -ivh edtoc-5.0-1.i386.rpm
```

●tar.gz からインストールする場合

インストールパッケージは tar.gz 形式になります。

tar コマンドを使用して、次のようにインストールしてください。

●日本語版の場合

```
#cd /usr/local
```

```
#tar -xzvf /mnt/cdrom/linux/jdtoc-5.0-1.tar.gz
```

●英語版の場合

```
#cd /usr/local
```

```
#tar -xzvf /mnt/cdrom/linux/edtoc-5.0-1.tar.gz
```

Desktop On-Call Linux 版が /usr/local/jdtoc または /usr/local/edtoc にインストールされます。



## 環境設定作業

パッケージのインストールが完了したら、ユーザーごとの環境設定を行う必要があります。

### PATHの設定

普段使用しているユーザー名でログインして設定を行ってください。

起動・終了コマンドは、`/usr/local/jdtoc/bin` または `/usr/local/edtoc/bin` ディレクトリにインストールされます。したがって、これらのコマンドを実行するユーザーの環境で、環境変数PATHに `/usr/local/jdtoc/bin` または `/usr/local/edtoc/bin` が含まれている必要があります。

1. 次のechoコマンドを実行して、環境変数PATHを確認します。

```
$echo $PATH
```

結果が表示されます。

2. 環境変数PATHに `/usr/local/jdtoc/bin` (英語版の場合は、`/usr/local/edtoc/bin`) を設定する方法は、ご使用のログイン・シェルによって異なります。以下の設定例に従って設定してください。

☞ ログイン・シェルには、`bash` あるいは `csh` がその代表的なものです。 `bash` の方がより一般的であるといわれています。わからない場合は、「`echo $SHELL`」コマンドで調べてください。

同時に新しい環境変数 `DTOC_PATH` も設定してください。

#### ●/bin/bash の場合

`$HOME/.bashrc` の最後に次の行を追加します。

```
export PATH=/usr/local/jdtoc/bin:$PATH
```

```
export DTOC_PATH=/usr/local/jdtoc
```

英語版の場合は、

```
export PATH=/usr/local/edtoc/bin:$PATH
```

```
export DTOC_PATH=/usr/local/edtoc
```

#### ●/bin/csh の場合

`$HOME/.cshrc` の最後に次の行を追加します。

```
setenv PATH /usr/local/jdtoc/bin:$PATH
```

```
setenv DTOC_PATH /usr/local/jdtoc
```

英語版の場合は、

```
setenv PATH /usr/local/edtoc/bin:$PATH
```

```
setenv DTOC_PATH /usr/local/edtoc
```

### Desktop On-Callコンフィグレーション・ファイルの設定

Desktop On-Call コンフィグレーション・ファイルは、Windows 版では、プロパティ・パネルにあたります。Desktop On-Call のいろいろな設定をテキスト形式のファイルに記述してあります。Desktop On-Callコンフィグレーション・ファイルは、起動時に参照されます。

Desktop On-Call コンフィグレーション・ファイルには、以下のものがあります。

```
dtoc.conf, user, guest, acl, map, cap
```

オリジナルの Desktop On-Call コンフィグレーション・ファイルは、ディレクトリーに保存されています。

```
/usr/local/jdtoc/etc
```

(英語版の場合は、`/usr/local/edtoc/etc` )

これらのファイルを以下の要領で`$HOME/.dtoc` にコピーしてください。

ターミナルをオープンし以下の操作を行ってください。

### 3. 以下のように入力しEnterを押してください。

```
dtocuser
```

このコマンド (シェル) は以下のことを行います。

```
mkdir -p $HOME/.dtoc
```

```
cp -p $DTOC_PATH/etc/* $HOME/.dtoc
```

注; V4の設定をそのまま使用したい場合はcapファイルのみを新たにコピーし、その他の設定については、そのままお使いください。

```
cp -p $DTOC_PATH/etc/cap $HOME/.dtoc
```

### パスワードを設定する。

Desktop On-Call Linux 版で利用できるユーザーID は、Linux にログインしたユーザーID と "guest" ユーザーの 2 種類になります。パスワードは \$HOME/.dtoc にログインしているユーザーID 用の .upasswd と guest 用の .gpasswd のファイルに暗号化されて保存されます。

#### ●自分のユーザーID のパスワードの設定

```
dtocpasswd USERIDID PASSWORD
```

#### ●guest のパスワードの設定

```
dtocpasswd guest PASSWORD
```

環境設定ファイルは各自のユーザーID と guest 用に固有にカスタマイズすることができます。各自のユーザーID については \$HOME/.dtoc/user、guest については \$HOME/.dtoc/guest ファイル参照

#### ●パスワードの変更

\$HOME/.dtoc/.upasswd または .gpasswd ファイルを削除してパスワードの設定を再度行ってください。

## Desktop On-Call ユーザーズ・ガイド(HTML版)について

Desktop On-Call ユーザーズ・ガイド (HTML 版) が、  
/usr/local/jdtoc/help/manual.htm としてインストールされています。ネットスケ  
ープ等のブラウザで manual.htm をオープンしてください。

以下のように、Linux のメニューに登録しておく便利です。(これは redhat  
Linux の GNOME の場合の例です。)

### 登録方法

1. ランチャの部分で右クリックし、「新規ランチャの追加」を選択します。
2. ランチャのプロパティ パネルに以下のように入力し、OKを選択します。  
アイコンファイルは、CD-ROM 上 ( /linux/dtoc\_guide.png ) にあります。  
これで、登録は完了です。ランチャのアイコンをクリックすれば、ユーザー  
ズ・ガイドが表示されます。  
以上でインストレーション作業は終了です。

## アン・インストール(削除)について

アン・インストールは以下の要領で行ってください。

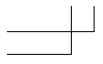
3. スーパーユーザー(root)でLinuxにログインしてください。
  4. インストール・コマンドを実行します。
- rpm でインストールした場合
    - 日本語版の場合  

```
#rpm -e jdtoc
```
    - 英語版の場合  

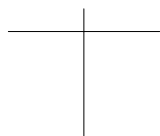
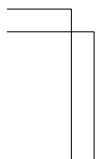
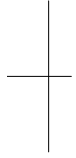
```
#rpm -e edtoc
```
  - tar.gz で Install した場合
    - 日本語版の場合(/usr/local/jdtoc ディレクトリにインストールした場合)  

```
#rm -rf /usr/local/jdtoc
```
    - 英語版の場合(/usr/local/edtoc ディレクトリにインストールをした場合)  

```
#rm -rf /usr/local/edtoc
```



以上でアン・インストレーション作業は終了です。



---

## その他のユーティリティをインストールする

### DirectX8のインストール

---

Desktop On-Call Version 5 は、カメラをサポートしていますが、Direct X はカメラをサポートするために必要です。Capture Engine というモジュールが Direct X から画像データを入手しているためです。

Microsoft は、Windows98/ME 用の DirectX と、Windows 2000 用の Direct X をホームページ上で公開しています。Desktop On-Call V5CD には、2001 年10 月現在の Direct X 8a を収録してあります。

Direct X がインストールされていない場合、あるいは以前のバージョンの場合は以下の手順でインストールしてください。

1. Desktop On-Call CDをCDドライブに挿入してください。
2. 「Toolsのインストール」を選択してください。
3. 「Direct X (Windows 98/Me用)のインストール」あるいは「Direct X (Windows 2000用)のインストール」を選択し、パネルの指示に従ってください。

## 第3章 接続

Desktop On-Call はネットワークを利用しリモート・コントロールを行います。インターネットが普及し企業や家庭で利用されるネットワーク形態は日々進歩しています。ブロードバンドという言葉がよく使われます。Desktop On-Call では、インターネットで利用している「TCP/IP」というネットワーク・プロトコルを利用していますので、基本的にイーサネットやトークンリング、ISDN や ADSL といったどんな物理的なネットワーク形態であってもその上に TCP/IP がのっており、IP アドレスがふられている状態であれば動作します。

この章では各オペレーティング・システムでのネットワーク設定、他のセキュリティー・ソフトと共に使用する場合の事例、ルーター経由で使用する場合の事例を紹介します。

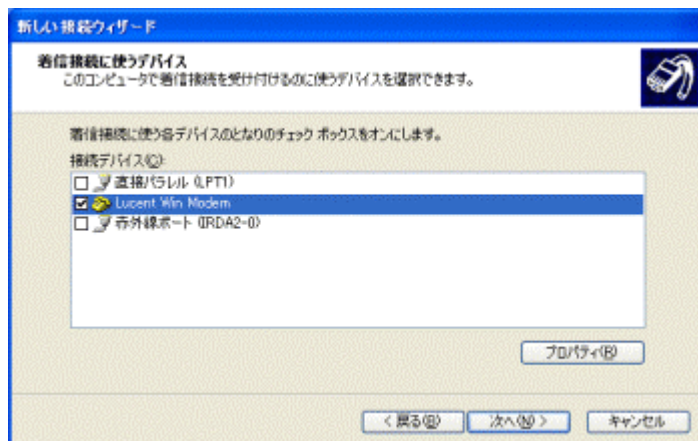
## WindowsXPでの設定

### モデムを利用し直接着信して利用する場合



「ネットワークとダイヤルアップ接続」を使用して着信接続を可能にします。

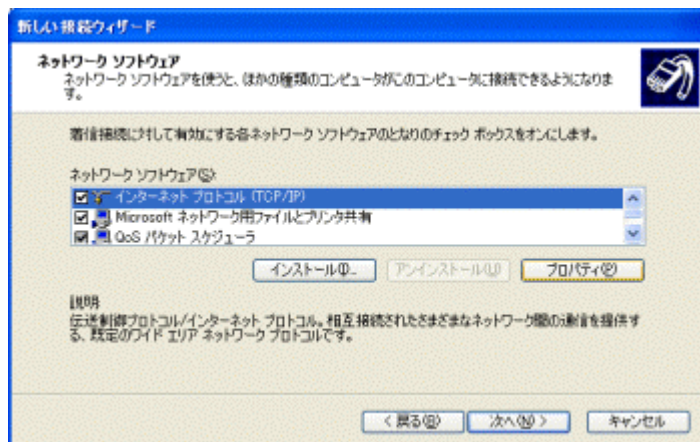
1. 「スタート」→「すべてのプログラム(P)」→「アクセサリ」→「通信」→「新しい接続ウィザード」を選択します。
2. 「次へ」を選択します。
3. 「詳細接続をセットアップする」を選択し「次へ」を選択します。
4. 「着信接続を受け付ける」を選択し「次へ」を選択します。
5. 着信接続に使うデバイスを選択し、「次へ」を選択します。



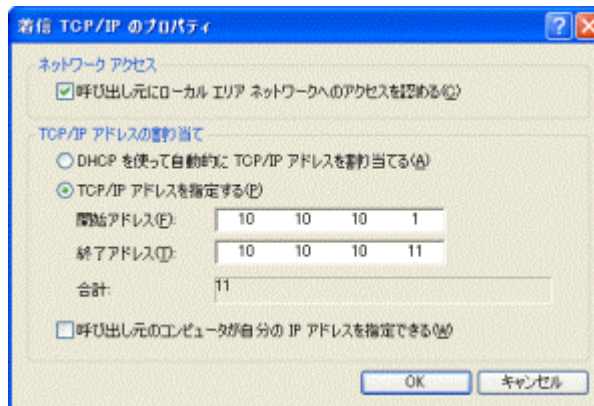
6. 「仮想プライベート接続を許可する」を選択し「次へ」を選択します。
7. 接続を許可するユーザーを選択し「次へ」を選択します。



8. ネットワークコンポーネントを選択します。「インターネット プロトコル (TCP/IP)」を選択してください。



9. 「プロパティ(P)」を選択します。



10. 「TCP/IPアドレスを指定する(P)」を選択し、割り当てるIPアドレスを入力してください。「OK」を選択してください。

注: 上図で「DHCPを使って自動的に、TCP/IPアドレスを割り当てる」を選択しても使用することができます。この場合、接続後、IPCONFIGコマンドでホストPCに割り当てられているIPアドレスを調べてからアクセスしてください。

11. 「次へ」を選択してください。

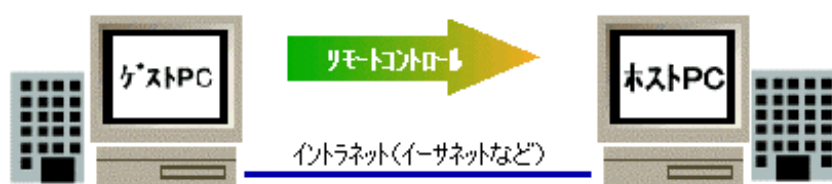
12. 「着信接続」という名前で保存します。「完了」を選択します。

これで、電話待受状態になります。ゲスト PC あるいはゲストデバイスから電話をかけます。この時、ホスト PC の IP アドレスは、10.10.10.1 が割り振られています。

コマンドプロンプトを開き、「IPCONFIG」と入力し改行<Enter>を押せば現在のアドレスが表示されます。ゲスト側で 10.10.10.1 にアクセスすれば Desktop On-Call にログインし、リモート・コントロールできます。

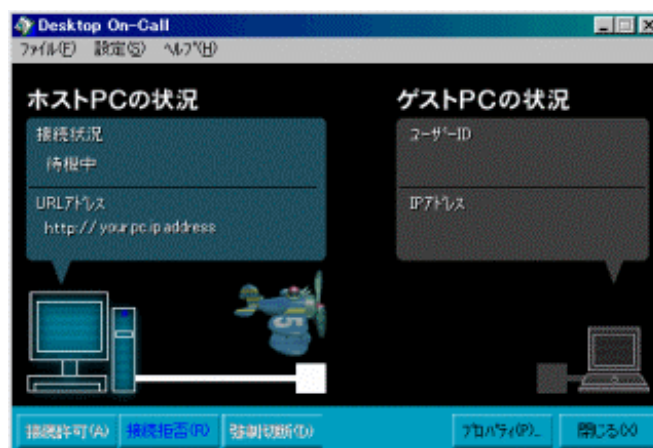
### ネットワークを利用する場合

---



ネットワークを利用して接続する場合は、WindowsXP が起動した段階、あるいは PCMCIA ネットワークを入れた段階で IP アドレスが割り振られています。以下の要領で Desktop On-Call メインパネルを開くとそのPCの URL アドレスが表示されています。

1. 「スタート」—「プログラム(P)」—「IBM PCリモコン」—「Desktop On-Call PC リモコン」を選択します。



URL アドレスに表示されているアドレスを Web ブラウザーのアドレスのフィールドに入力してください。

注:そのPCに割り振られている IP アドレスを知る他の方法として IPCONFIG コマンドを使用することができます。コマンド・プロンプトを開き IPCONFIG とタイプし Enter を押すと IP アドレスが表示されます。

## Windows 2000での設定

### モデムを利用し直接着信して利用する場合



「ネットワークとダイヤルアップ接続」を使用して着信接続を可能にします。

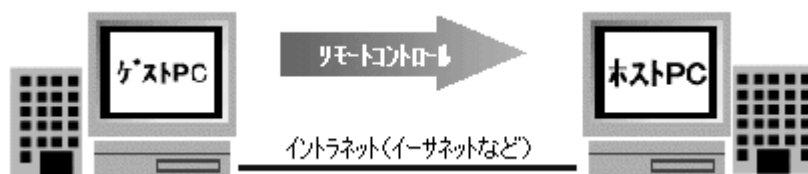
1. 「スタート」→「プログラム(P)」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」を選択します。
2. 「新しい接続の作成」を選択します。
3. 「着信接続を受け付ける」を選択し「次へ」を選択します。
4. 使用する「接続デバイス」にチェックマークを付けます。
5. 仮想プライベート接続を選択し「次へ」を選択します。
6. 接続を許可するユーザーを選択し「次へ」を選択します。
7. ネットワークコンポートネットを選択します。「インターネット プロトコル (TCP/IP)」は必ず選択してください。「次へ」を選択します。
8. 「着信接続」という名前で保存します。「完了」を選択します。

これで、電話待受状態になります。ゲスト PC あるいはゲストデバイスから電話をかけます。この時、ホスト PC の IP アドレスは、10.10.10.1 が割り振られています。

コマンドプロンプトを開き、「IPCONFIG」と入力し改行<Enter>を押せば現在のアドレスが表示されます。

ゲスト側で 10.10.10.1 にアクセスすれば Desktop On-Call にログインし、リモート・コントロールできます。

## ネットワークを利用する場合



ネットワークを利用して接続する場合は、Windows2000 が起動した段階、あるいは PCMCIA ネットワークを入れた段階で IP アドレスが割り振られています。以下の要領で Desktop On-Call メインパネルを開くとその PC の URL アドレスが表示されています。

1. 「スタート」—「プログラム(P)」—「IBM PCリモコン」—「Desktop On-Call PC リモコン」を選択します。



URL アドレスに表示されているアドレスを Web ブラウザーのアドレスのフィールドに入力してください。

注: その PC に割り振られている IP アドレスを知る他の方法として IPCONFIG コマンドを使用することができます。コマンド・プロンプトを開き IPCONFIG とタイプし Enter を押すと IP アドレスが表示されます。

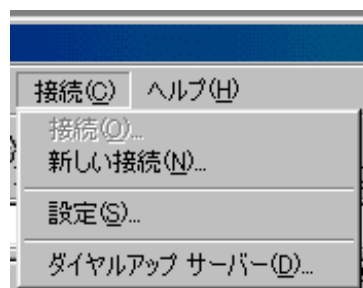
## Windows 98SE/Meでの設定

### モデムを利用し直接着信して利用する場合



次の手順でダイヤルアップ サーバーがインストールされているか調べてください。

1. 「スタート」→「プログラム(P)」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」を選択してください。
2. 「接続」を選択してください。



上図のように「ダイヤルアップ サーバー」というメニューがあればダイヤルアップサーバーがインストールされています。なければ以下の手順でインストールします。

1. 「スタート」→「設定(S)」→「コントロール パネル(C)」を選択してください。
2. 「アプリケーションの追加と削除」を選択してください。
3. 「Windows ファイル」タブを選択してください。

4. 「通信」を選択し「詳細(D)...」を選択してください。
5. 「ダイヤルアップ サーバー」を選択して「OK」を選択してください。
6. システムを再起動させてください。

再起動後、前述の方法でダイヤルアップ サーバーがインストールされているか確認してください。

ダイヤルアップサーバー待ち受け状態にするには以下の手順で行えます。

1. 「スタート」—「プログラム(P)」—「アクセサリ」—「通信」—「ダイヤルアップネットワーク」を選択してください。
2. 「接続」を選択してください。
3. 「ダイヤルアップ サーバー」を選択してください。

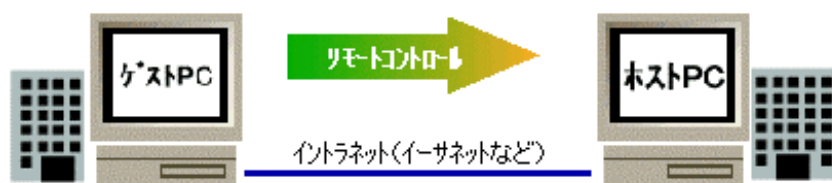
注:このときモデムがインストールされていない場合は、ポップアップが表示されます。モデムをコンピュータに接続してから指示通りモデムをインストールしてください。

1. 「着信する」を選択し「サーバーの種類(T)」を選択してください。
2. ダイヤルアップ サーバーの種類で「PPP: インターネット、Windows2000/NT、Windows Me」を選択してください。
3. 「OK」を選択してください。

これで、電話待受状態になります。

## ネットワークを利用する場合

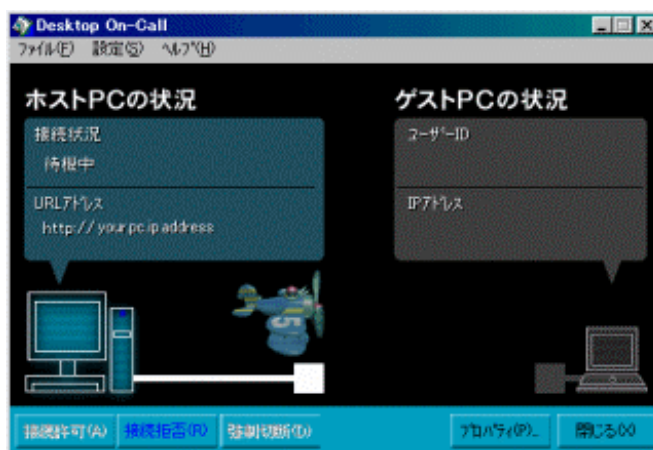
---



ネットワークを利用して接続する場合は、Windows が起動した段階、あるいは

PCMCIA ネットワークを入れた段階で IP アドレスが割り振られています。以下の要領で Desktop On-Call メインパネルを開くとそのPCの URL アドレスが表示されています。

1. 「スタート」—「プログラム(P)」—「IBM PCリモコン」—「Desktop On-Call PCリモコン」を選択します。



URL アドレスに表示されているアドレスを Web ブラウザーのアドレスのフィールドに入力してください。

注:そのPCに割り振られている IP アドレスを知る他の方法として WINIPCFG コマンドを使用することができます。コマンド・プロンプトを開き WINIPCFG とタイプし Enter を押すとパネルが表示され使用するネットワーク・デバイスを選択すると IP アドレスが表示されます。




## Windows NT 4.0での設定


### モデムを利用し直接着信して利用する場合



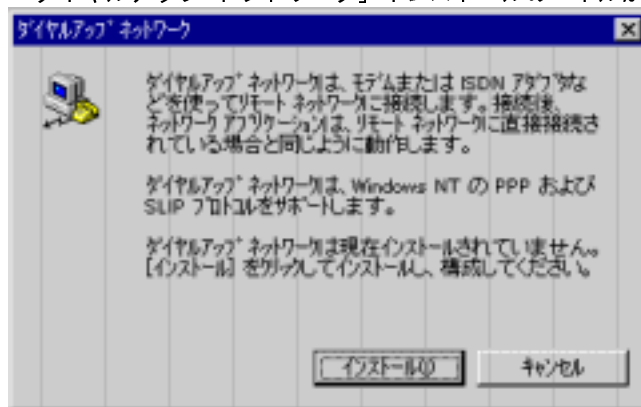
電話回線を使ってモデムを介して接続する場合は、TCP/IP ネットワークおよびダイヤルアップネットワークをインストールしておく必要があります。

1. ネットワーク・コンピュータのプロパティを開き、TCP/IPがインストールされているか、確認してください。インストールされていない場合は、「追加」を選び、「ネットワーク構成ファイルの追加」のパネルでプロトコルを選び再び、「追加」を選択して製造元MicrosoftのTCP/IPをインストールしてください。
2. ☞ 58ページ「Windows NT 4.0 ダイヤルアップ ネットワークをインストール」を参照してダイヤルアップ ネットワークをインストールしてください。
3. ☞ 59ページ「ダイヤルアップ着信可に設定」を参照してダイヤルアップ着信可に設定してください。
4. ☞ 60ページ「IPアドレスの設定-ホストPC側(Windows NT)」を参照してIPアドレス(ホストPC側)を設定してください。
5. ☞ 61ページ「ダイヤルアップのユーザー指定-ホストPC側(Windows NT)」を参照してダイヤルアップのユーザー指定を行ってください。
6.  スタート - 「プログラム(P)」 - 「管理ツール」 - 「リモートアクセス管理」を選択しリモート・アクセス・サービスを開始してください。

## Windows NT 4.0 ダイヤルアップ ネットワークをインストール


1. 「スタート」-「プログラム(P)」-「アクセサリ」-「ダイヤルアップ ネットワーク」を選択します。

「ダイヤルアップ ネットワーク」インストールのパネルが表示されます。



2. Windows NT 4.0のCD-ROMを入れて「インストール」を選択してください。
3. モデムがインストールされていない場合は、モデムのインストールが開始されますのでここでモデムを設定してください。
4. 再起動するとダイヤルアップ ネットワークが使用できる状態になります。

## ダイヤルアップ着信可に設定

1.  — 「設定(S)」 — 「コントロール パネル(C)」を選択し「ネットワーク」をオープンしてください。
2. 「サービス」タブをクリックし、「リモートアクセス サービス」を選択して、「プロパティ(P)...」を選択してください。




3. 「構成(C)...」を選択します。



4. 「着信のみ」又は「ダイヤルアウトと着信」を選択し「OK」を押してください。



## IPアドレスの設定-ホストPC側 (Windows NT)

1.  「設定(S)」-「コントロールパネル(C)」を開きます。
2. 「ネットワーク」を開きます。すると以下のパネルが表示されます。

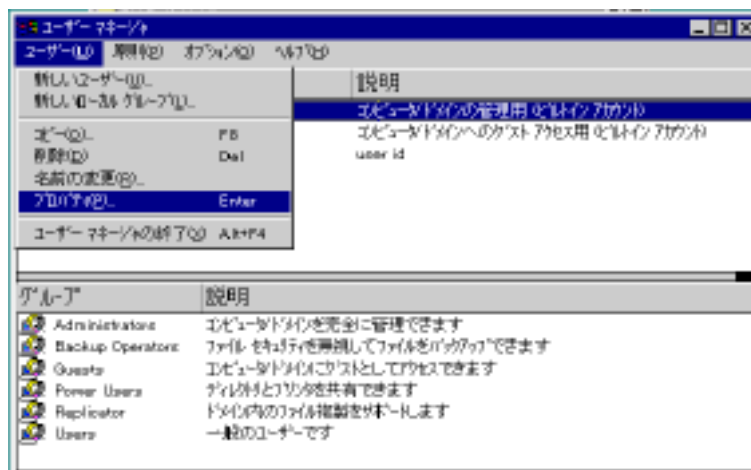


3. 「プロパティ(P)...」を選択してください。以下のIPアドレスを設定するパネルで「IPアドレスを指定する(S)」を選んでIPアドレスを入力してください。



## ダイヤルアップのユーザー指定-ホストPC側 (Windows NT)

1. スタート - 「プログラム」 - 「管理ツール(共通)」 - 「ユーザーマネージャ」を選択してください。ダイヤルアップでアクセスするユーザーを選び、プロパティを選択してください。



2. 「ダイヤルイン(I)」ボタンを押してください。

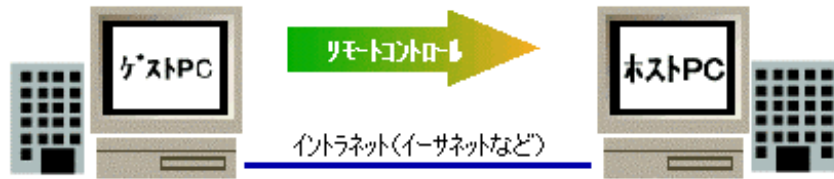


3. 「ユーザーにダイヤルインの許可を与える」にチェックマークを付けてください。



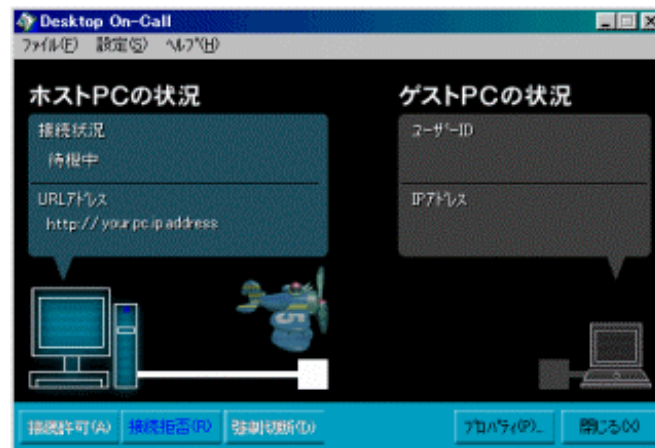
4. 「OK」を押してください。

## ネットワークを利用する場合



ネットワークを利用して接続する場合は、Windows NT が起動した段階で IP アドレスが割り振られています。以下の要領で Desktop On-Call メインパネルを開くとその PC の URL アドレスが表示されています。

1. 「スタート」—「プログラム(P)」—「IBM PCリモコン」—「Desktop On-Call PC リモコン」を選択します。

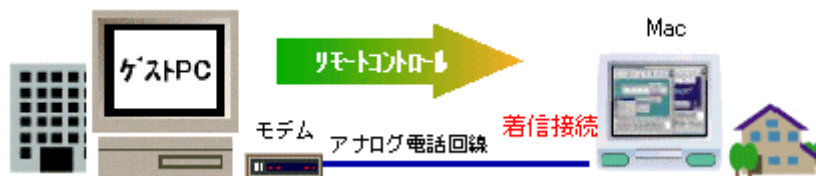


URL アドレスに表示されているアドレスを Web ブラウザーのアドレスのフィールドに入力してください。

注: その PC に割り振られている IP アドレスを知る他の方法として IPCONFIG コマンドを使用することができます。コマンド・プロンプトを開き IPCONFIG とタイプし Enter を押すと IP アドレスが表示されます。

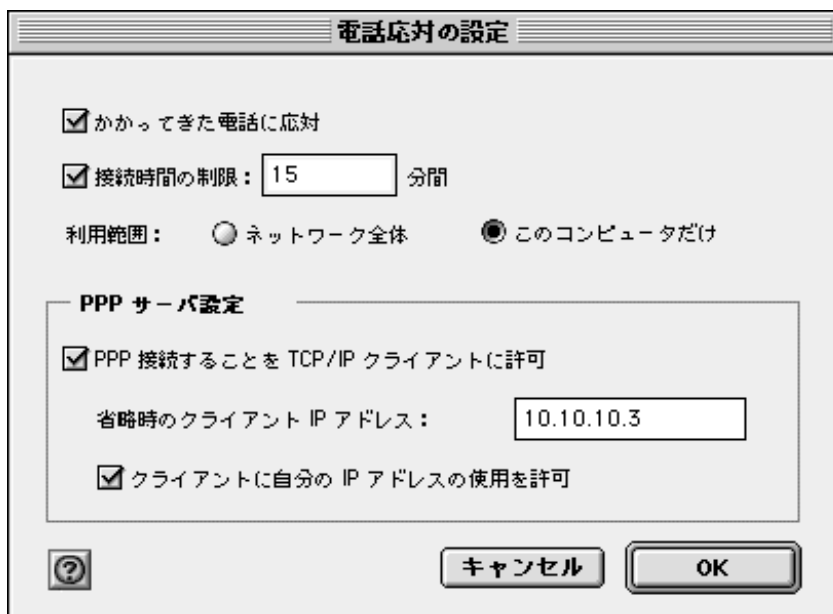
## MacOSでの設定

### モデムを利用し直接着信して利用する場合



MacOS 9 で着信待状態に設定します。

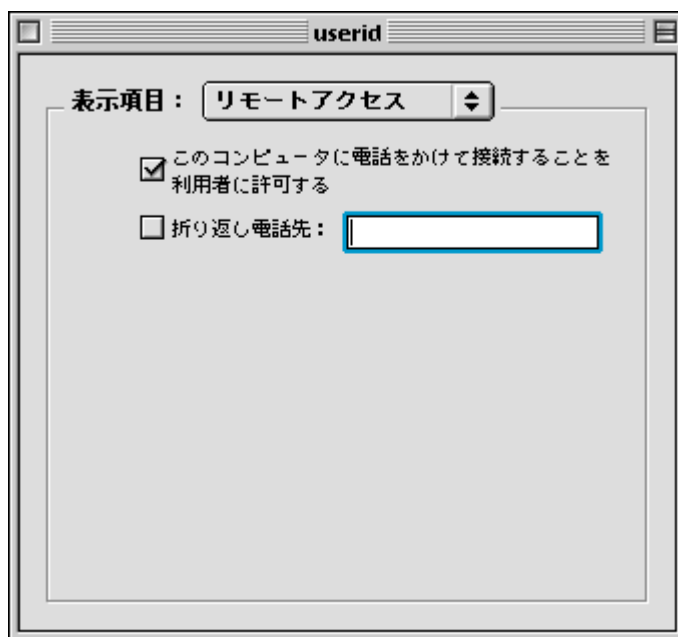
1. アップルメニュー「コントロールパネル」-「リモートアクセス」を選択します。
2. 画面中の「リモートアクセス」-「電話対応の設定」を選択します。
3. 「かかってきた電話に対応」を選択します。PPPサーバー設定を以下のように行います。



4. 「OK」を選択します。
5. 次に「リモートアクセス」-「利用者&グループ」を選択します。



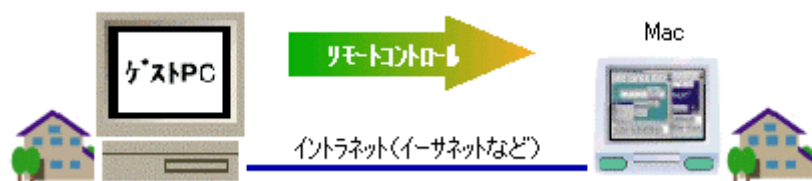
6. 使用する利用者を選択します。
7. 「開く」を選択します。
8. 「表示項目」をクリックします。
9. 「リモートアクセス」を選択します。



10. 「このコンピュータに電話をかけて接続することを利用者に許可する」を選択します。
11. パネルを閉じ設定を保存すると、リモートアクセスは待機状態になります。

## ネットワークを利用する場合

---



ネットワークで利用する場合は、特に設定は必要ありません。以下の手順でTCP/IP が正しく設定されているか確認してください。

1. アップルメニュー「コントロールパネル」-「TCP/IP」
2. 経路先が「Ethernet」であることを確認してください。IPアドレスの設定はネットワーク環境により異なります。DHCPサーバーからIPアドレスを割り振ってもらうか、固定アドレスを使用しているかはネットワーク管理者にお問い合わせください。

## OS/2での設定

本格的な PPP サーバーとしてダイヤルアップ サーバーを構築するには、Warp Server が必要ですが、1対1接続でよい場合は、OS/2 Warp で、PPP での Peer to Peer 接続が利用できます。ここでは、PPP での Peer to Peer 接続方法を説明します。

OS/2 Warp の場合は、TCP/IP ネットワークがインストールされていれば、「他インターネット・プロバイダーへのダイヤル」で電話回線を使ってモデムを介して接続することができます。

1. 「プログラム」フォルダーを開いてください。TCP/IPがインストールされていれば「インターネット(モデム)」アイコンがあります。「インターネット(モデム)」を開くと「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」というオブジェクトがあります。ダブルクリックしてオープンしてください。



2. 次ページ「OS/2 Warp「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定」を参照してホストPC側/ゲストPC側の設定をしてください。
3. 「ダイヤル」を選択し、接続してください。



4. TCP/IPレベルで接続できるか、☞ 99ページを参照して確認してみましょう。

### OS/2 Warp「他のインターネット・プロバイダーへのダイヤル」設定

ホストPC(コントロールされる側)、ゲストPC(コントロールする側)とも同様の設定をします。ゲストPC(コントロールする側)の設定で注意が必要な項目は注意事項として示します。

1. 「項目の追加」を選択します。  
「入力項目の修正」のパネルが表示されます。

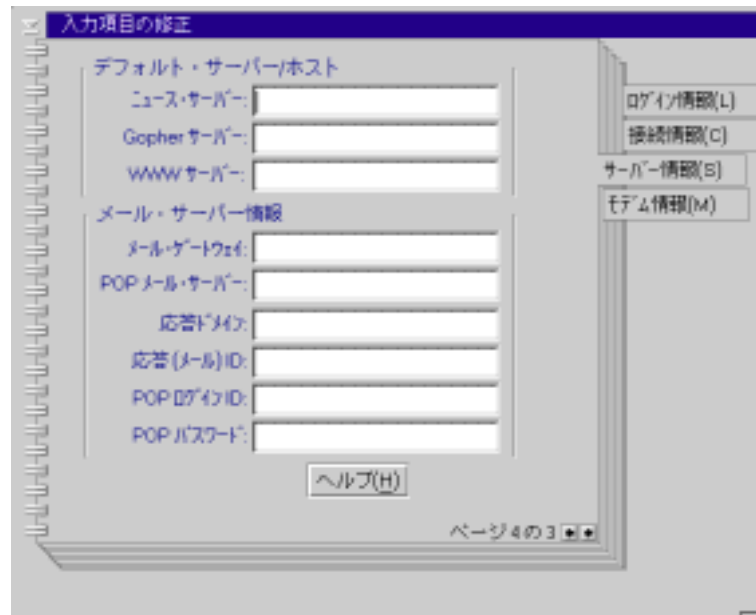
2. \*名前、説明、ログインID、(パスワード)、電話番号(ホストPC側の電話番号を入力)を入力し、接続タイプ PPPを選択します。
3. 接続情報タブをクリックしてください。

4. (ホストPC側)IPアドレス、宛先IPアドレス、ネットマスクを入力します。\*MRU

サイズは、1500のままにしておきます。「VJ圧縮」を選択して下さい。ドメイン・ネーム・サーバーは、サーバーのIPアドレスを入力してください。

注：ゲスト PC 側の設定では、ホスト PC 側で設定した、IP アドレス、宛先 IP アドレスが逆になります。

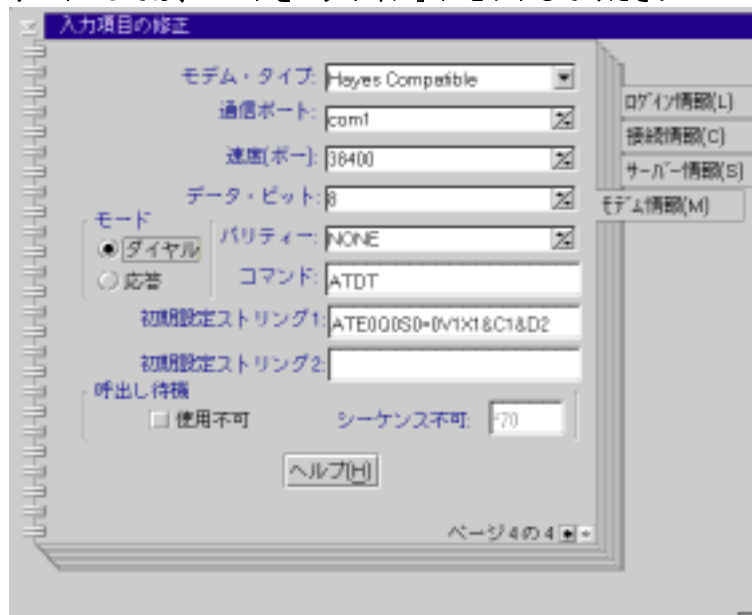
5. サーバー情報のパネルでは特に入力しなければならない項目はありません。ブランクのままでもかまいません。



6. モデム情報のパネルでは、モデム・タイプ、通信ポート、速度を入力して下さい。ホストPC側では、モードを「応答」にセットして下さい。



ゲスト PC では、モードを「ダイヤル」にセットしてください



---

## Linuxについて

### Linux版の特徴

- インストールは、RPM(Redhat Package Manager)で行います。RPMがサポートされていないLinuxでは、tar.zipファイルを解凍することによりインストールできます。
- Desktop On-Call Linux版では、LinuxにログインしたユーザーIDと、「guest」というユーザーIDの2つのユーザーIDが使用できます。ログインしたユーザーのユーザーIDはリモート・コントロール機能が使用できるように、コンフィグレーション・ファイルのデフォルト値がセットされています。guest IDは、ブラウジング専用コンフィグレーション・ファイルのデフォルト値がセットされています。「guest」ユーザーIDは、LinuxのユーザーIDを意味しません。Desktop On-Callにログインする場合に「guest」というユーザーIDを使うことができますということです。
- Desktop On-Callを使ってリモート・コントロールを行う場合は、X-Terminalでリモートからログインする場合と異なり、ホストPC側の画面とブラウザーに表示されるホストPCの画面が同期した状態で表示されるので、オペレーター同士でGUIベースで画面を共有し、指導したり、情報交換する場合に便利です。
- Desktop On-Callのプロパティ設定のためGUIパネルはありません。コンフィグレーション・ファイルを編集して設定します。また、コマンドによりDesktop On-CallのホストPCの状況を問い合わせることができます。
- Linuxでは、FTPが一般的なものでファイル転送機能はサポートされていません。
- Linuxディストリビューションとしては、以下のものをサポートしています。
  - redhat Linux 7.1
  - TurboLinux Workstation 7.0 日本語版
  - Caldera OpenLinux 3.1 英語版



## Linux版の操作方法

### Desktop On-Callの起動

Terminal をオープンし以下のコマンドを実行してください。

```
dtoc
```

☞ telnet で入ってスタートさせる場合は、telnet で logon 後以下のコマンドを実行してください。

```
export DISPLAY=(Hostname):0.0
```

```
dtoc
```

☞ PATH がインストール時の環境設定ですでに設定されていれば、カレント・ディレクトリがどこであっても起動できます。

### Desktop On-Callの終了

Terminal をオープンし以下のコマンドを実行してください。

```
dtocstop
```

☞ dtocstop で終了できない場合は、dtocstop2 コマンドを実行してください。  
dtocstop2 は強制終了を試みます。

☞ kill (process number): No such process と表示されることがありますが問題ありません

### Desktop On-Callの状態をみるには

Terminal をオープンし以下のコマンドを実行してください。

```
dtocstat
```

Desktop On-Call が動いているときは以下のメッセージが表示またはログファイルに書かれます。

```
Host PC status : Desktop On-Call is running.
```

動いていないときは以下のメッセージが表示またはログファイルに書かれます。

```
Host PC status : Desktop On-Call is not running.
```

他のゲスト PC(例えばユーザーID が myuserid, IP アドレスが 10.20.30.40) と交信中のときは以下のメッセージが表示またはログファイルに書かれます。

```
Connected by UserID : myuserid / IPAddress :
```

```
10.20.30.40
```

他のゲスト PC と交信中ではないときは以下のメッセージが表示またはログファイルに書かれます。

Connected by UserID : / IPAddress :

## Desktop On-CallをX-Window起動時に自動始動する方法

Desktop On-Call を Linux の X-Window 起動時に自動始動する方法の例を示します。Linux では、ディストリビューション、バージョン、またデスクトップ環境、設定によって動作しない場合もありますのでこの方法をヒントとして実際の設定を行ってください。ここでは redhat を例に説明します。

また、Linux の X-Window の起動方法にも2通りの方法があり、それぞれ自動始動する方法が異なります。まず、第一に一端 CUI ベースのコンソールが立ち上がり、そこからログインする場合、第二に GUI インターフェースが立ち上がりそこからログインする場合の方法をそれぞれ例として示します。

### ●CUIベースのコンソールからログインする場合

1. ホーム・ディレクトリにデフォルトのX起動時スクリプト(\$HOME/.xinitrc)を用意します。オリジナルのファイル(/etc/X11/xinit/xinitrc)をコピーしてください。

```
cp /etc/X11/xinit/xinitrc $HOME/.xinitrc
```

☞ . (ドット) が付いていることにご注意ください。

2. .xinitrcファイルを編集します。“dtoc”を追加してください。

以下に編集例を示します。

```
----- (省略) -----  
# The user may have their own clients they want to run.  
# If they don't,  
# fall back to system defaults.  
dtoc  
if [ -f $HOME/.Xclients ]; then  
    exec $HOME/.Xclients  
----- (省略) -----
```

これで、startx などのコマンドにより X-Window が始動と同時に Desktop On-Call が自動始動するようになります。X-Window を終了したときには (Ctrl+Alt+Backspace など) 自動的に Desktop On-Call は終了します。

●X-Windowが立ち上がりGUIベースのログイン画面からログインする場合

1. ホーム・ディレクトリにデフォルトのX起動時スクリプト(\$HOME/.Xclients)を用意します。オリジナルのファイル(/etc/X11/xinit/Xclients)をコピーしてください。

```
cp /etc/X11/xinit/Xclients $HOME/.Xclients
```

☞ . (ドット) が付いていることにご注意ください。

2. .Xclientsファイルを編集します。“dtoc” を先頭に追加してください。

編集例を以下に示します。これはあくまでも一例です。

```
----- (省略) -----  
# The input method server will die with X  
dtoc &  
# Determine the LC_CTYPE locale category setting  
tmplang="en_US"  
if test x$LC_ALL != x ; then  
    tmplang=$LC_ALL  
elif test x$LC_CTYPE != x ; then  
    tmplang=$LC_CTYPE  
elif test x$LANG != x ; then  
    tmplang=$LANG  
fi
```

```
----- (省略) -----
```

これで、ログイン画面よりログイン後 X-Window が始動し同時に Desktop On-Call が自動起動します。X-Window を終了したときには (Ctrl+Alt+Backspace など) 自動的に Desktop On-Call は終了します。

☞ \$HOME/.xsession ファイルが存在するときは.xsession のほうに"dtoc"を付け加えてください。

## Capture Engineの使い方

---

1. Desktop On-Call を起動させる。

```
#dtoc
```

2. dtoccameraの起動方法

カメラの画像を見ながら動かしたいとき	#dtoccamera -win
カメラの画像なしで裏で動かしたいとき	#dtoccamera -nowin
止めるとき	#dtoccamera -stop

3. dtocscreenの起動方法

dtocscreen ウィンドウを表示しながら実行	#dtocscreen -win
dtocscreen ウィンドウを隠して実行	#dtocscreen -nowin
止めるとき	#dtocscreen -stop

## コンフィグレーション・ファイルについて

---

Linux 版ではプロパティ・パネルで設定している値を、コンフィグレーション・ファイルというテキスト・ベースのファイルを用いて管理します。

ここでは、Linux 版コンフィグレーション・ファイルの内容について説明します。

オリジナルの Desktop On-Call コンフィグレーション・ファイルは、以下のディレクトリーに保存させています。

```
/usr/local/jdtoc/etcまたは/usr/local/edtoc/etc  
dtoc.conf, user, guest, acl, map, cap
```

これらのファイルを\$HOME/.dtoc にコピーしそのユーザーのコンフィグレーションとして使用します。

☞ Desktop On-Call コンフィグレーション・ファイルの仕様  
空行および、#で始まる行は無視されます。  
設定項目は項目名と項目値からなり、空白またはタブで区切られます。  
ファイル内でも設定項目の順序は変えないでください。

## dtoc.confコンフィグレーション・ファイル

```
# %Z%M%           %I% %W% %G% %U%
#####
#<!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#<!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#<!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#<!--IBM Corp. -->
#<!-- -->
#<!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#<!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
# HTTP server
# Desktop On-Call is a HTTP server program.
# Desktop On-Call uses port 8880 as default.
# If you use your Host PC as a HTTP server,
# such as Personal Web Server, you should check
# port number is overlapping or not. If other
# HTTP server already uses port 8880, change
# Desktop On-Call port number. Choose a number
# between 5000 and 65535.
# http_port xxxx
#####
http_port 8880

#####
# Browser's IP address
# If you want to restrict to access from not
# allow IP address, you can specify allowed
# IP address in acl file .
# off: No IP address restriction
# on: IP address must start with. IP address must be in "acl" file
# addr_restriction off/on
#####
addr_restriction off

#####
# User
# To activate security checking based on a user ID and password:
# Setup security checking. You can control users only when you select "on".
# security_check on/off
#####
security_check on

#####
# Automap access from other clinet
# Your host computer will be listed on other client's automap list when you
# select "on".
# automap_from_other_client off/on
#####
automap_from_other_client off
```

## http\_port

http\_port は、http サーバーのポート番号です。Linux 版の Default は 8880 です。ポート番号を指定してください。

## addr\_restriction

アクセスする IP アドレスを限定したい場合は、on と記述してください。IP アドレスを限定するには acl コンフィグレーション・ファイルに記述します。(acl コンフィグレーション・ファイル参照)。

## security\_check

Desktop On-Call にログオンする際に、ユーザーID、パスワードのパネルを表示する場合は、on にしてください。Default は on です。

## automap\_from\_other\_client

Desktop On-Call には、オート・ラウンチ・マップという、Desktop On-Call を使っている PC をブロードキャストしてリストアップする機能があります。このパラメーターを on にすると、ブロードキャスト・サーチによって見つけられるようになります。Default は off です。

## applet\_port

Desktop On-Call はリモート・コントロール機能、その他の機能に 7 つの連続したポートを使用します。Default は、25345 です。

## aclコンフィグレーション・ファイル

```
# %Z%M% %I% %W% %G% %U%
#####
#!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#!--IBM Corp. -->
#!-- -->
#!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
#
# ACL
#
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Address must begin the first entry on the line.
#
# Only valid when addr_restriction item of dtoc.conf file is "on".
#
# Note: You don't have to specify the fully
# qualified IP address. Any address starting
# with the specified prefix is included. For
# example, If you specify 10.20, any address
# starting with 10.20 is included. (e.g. 10.20.30.40,
# 10.20.1.1, 10.20.255.254, etc.)
```

```
#
#####
#10.20.30.40
```

dtoc.conf コンフィグレーション・ファイルの addr\_restriction に on と記述した場合は、acl というファイルに IP アドレスを以下の要領で記述します。

例 1 : アクセスを許す IP アドレスを、10.10.10.1, 10.10.10.2,10.10.10.3 の3つに制限する。

3つの全ての IP アドレスを記述してください。1行に1つの IP アドレスを記述してください。

例 1 :

10.10.10.1

10.10.10.2

10.10.10.3

例 2 : 10.10.10.1~10.10.10.255 の IP アドレスのみアクセスを許す。

10.10.10 と記述してください。

### userコンフィグレーション・ファイル

Desktop On-Call Linux 版では、ログオンしたユーザー(ユーザーID)と、Guest というユーザーID の2つのユーザーID が使用できます。ログオンしたユーザーのユーザーID は“user”という設定ファイルを編集し機能をセットします。Guest ID は、“Guest”という設定ファイルを編集し機能をセットします。

```
# %Z%M% %I% %W% %G% %U%
#####
#<!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#<!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#<!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#<!--IBM Corp. -->
#<!-- -->
#<!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#<!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
#
# Only valid when security_checking item is "on".
#
# password_expiration yyyyymmdd/off
# session_time 0(=no limit)/15/30/60
# browser NS/IE
# color mono/color
# idel_256 on/off
# window_size 100/75/50/25
# antialiasing on/off
# browser_input on/off
# instruction_pointer on/off
#####
password_expiration off
session_time 0
browser NS
```

```
color color
idel_256 off
window_size 100
antialiasing on
browser_input on
instruction_pointer off
```

### password\_expiration

ユーザーID のパスワードの有効期限を設定できるパラメータです。Default は、off です。有効期限を設定する場合は、yyyymmdd で記述してください。

### session\_time

一回の接続時間を設定します。Default は、0 で無制限です。15,30,60 (分) のいずれかを設定してください。

### browser

ブラウザによって色が不自然になる場合があります。それを避けるために Default のブラウザを設定します。Default は、NS。Internet Explorer の場合は、IE。

### color

リモート・コントロール画面の色を設定します。Default は、color です。白黒に設定する場合は、mono と記述します。

### idel\_256

アイドル時に 256 色データを転送する場合は、on にします。Default は、off です。

### window\_size

デフォルトのウィンドウサイズを設定します。Default は 100 です。その他、75/50/25%を設定できます。

### antialiasing

Window Size を縮小表示した場合、画像圧縮の際、アンチエイリアシング処理を施すか否かを設定します。Default は、on です。

### browser\_input

リモート・コントロールの際、マウス/キーボードの入力を禁止し、見るだけにするときは、off、マウス/キーボードによる操作を許す場合は on に設定します。User の Default は on です。

### instruction\_pointer

Browser\_Input が on のとき instruction\_pointer on にしておくと、画面上に指示ポインターが表示されます。User の Default は Off です。



## guestコンフィグレーション・ファイル

これは、GUEST ユーザーID用のコンフィグレーション・ファイルです。

```
# %Z%M%      %I% %W% %G% %U%
#####
#<!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#<!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#<!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#<!--IBM Corp. -->
#<!-- -->
#<!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#<!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
#
# Only valid when security_checking item is "on".
#
# password_expiration yyyyymmdd/off
# session_time 0(=no limit)/15/30/60
# browser NS/IE
# color mono/color
# idel_256 on/off
# window_size 100/75/50/25
# antialiasing on/off
# browser_input on/off
# instruction_pointer on/off
#####
password_expiration off
session_time 0
browser NS
color color
idel_256 off
window_size 100
antialiasing on
browser_input off
instruction_pointer on
```

### password\_expiration

ユーザーIDのパスワードの有効期限を設定できるパラメータです。Defaultは、offです。有効期限を設定する場合は、yyyyymmddで記述してください。

### session\_time

一回の接続時間を設定できます。Defaultは、0で無制限です。15,30,60(分)が設定できます。

### browser

ブラウザによって色が不自然になる場合があります。それを避けるためにDefaultのブラウザを設定します。Defaultは、NS。Internet Explorerの場合は、IE。

## color

リモート・コントロール画面の色を設定します。Default は、color です。白黒に設定する場合は、mono と記述します。

## idel\_256

アイドル時に 256 色データを転送する場合は、ON にします。Default は、OFF です。

## window\_size

デフォルトのウィンドウサイズを設定します。Default は 100 です。その他、75/50/25%を設定できます。

## antialiasing

Window Size を縮小表示した場合、画像圧縮の際、アンチエイリアシング処理を施すか否かを設定します。Default は、ON です。

## browser\_input

リモート・コントロールの際、マウス・キーボードの入力を禁止し、見るだけにするときは、OFF、マウス・キーボードによる操作を許す場合は ON に設定します。Guest の Default は off です。

## instruction\_pointer

Browser\_Input が on のとき instruction\_pointer on にしておくと、画面上に指示ポインターが表示されます。Guest の Default は ON です。

## mapコンフィグレーション・ファイル

```
# %Z%M%           %I% %W% %G% %U%
#####
#<!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#<!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#<!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#<!--IBM Corp. -->
#<!-- -->
#<!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#<!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
# Launch map
# remote: Remote control
#       If you do not want to use the Launch map, set "remote".
# map:   Launch map
#       If you want to use Launch map, set "map"
# automap:Auto-Launch map
#       If you want to use the Auto-launch map, set "automap"
# original: Original Launch map
#       IF you can use any HTML file that shows the actual layout of the office
#       or classroom, set "original".
#
# host_pc_action remote/map/automap/original
#####
host_pc_action remote

#####
# Launch map
#
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#
# Only valid when host_pc_action item is "map".
#
# Input the host PC name and IP address into this file.
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
#
# You can select either "simple" or "standard" to make create HTML.
#
# Example:
# [map]
# html_created simple/standard
# hostname http://hostname.yamato.ibm.com
# [end_map]
#####
[map]
html_created simple
hostname http://localhost
[end_map]

#####
# Auto-Launch map
#
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Subnet must begin the first entry on the line.
#
# Only valid when host_pc_action item is "automap".
#
# Input the subnet into this file.
```

```

#
# Example:
# For current subnet only:
# [automap]
# [end_automap]
#
# For current and additional subnet(9.68.59):
# [automap]
# 9.68.59
# [end_automap]
#####
[automap]
[end_automap]

#####
# Original Launch map
#
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#
# Only valid when host_pc_action item is "original".
#
# Input the location of the file for html file of Original Launch map by
# relative path(/usr/local/jdtoc/html or /usr/local/edtoc/html) to
# Desktop On-Call HTML directory.
#
# Example:
# [import]
# samples/Mapsamp.htm
# [end_import]
#####
[import]
samples/Mapsamp.htm
[end_import]

```

### host\_pc\_action

httpサーバーにアクセスした際の最初の動作を以下のどれにするかを  
 決めます。Default は、remote です。

remote: リモート・コントロール  
 map: ラUNCH・マップ  
 automap: オート・ラUNCH・マップ  
 original: オリジナル・ラUNCH・マップ

### [map]

ラUNCH・マップに登録するHOST PCのIPアドレスを記述します。  
 html\_created: simple あるいは standard を記述します。Default は、simple  
 です。

hostname: 追加するHOST PCの名前を記述します。スペースを空けて、  
 IPアドレスを記述します。1行に1つのHOST PCを記述してください。  
 最後の行に[end\_map]終わりタグで囲んでください。

例: ラUNCH・マップの形式をスタンダードで、MY1STPC(192.168.1.2)、  
 MY2NDPC(192.168.1.3)とMYHOMESRV(192.168.1.10)を登録する。

[map]

html\_created standard

```
MY1STPC http://192.168.1.2
MY2NDTPC http://192.168.1.3
MYHOMESRV http://192.168.1.10

[end_map]
```

### [automap]

オート・ラウンチ・マップでブロードキャストするブロードキャストアドレスをを記述します。

何も記述されていない場合は、現サブネットでブローとキャストされます。ブロードキャストアドレスに関しては、143ページ「指定ブロードキャストアドレスの算出方法」を参照してください。

最後の行に[end\_automap]終わりタグで囲んでください。

### [import]

オリジナル・ラウンチ・マップの保存されている Desktop On-Call からの相対 PATH を記述します。Default は、samples/Mapsamp.htm です。

### capコンフィグレーション・ファイル

```
# %Z%M%           %I%  %W%  %G%  %U%
#####
#<!--Copyright IBM Corporation 1997, 2000. All rights reserved. -->
#<!--U.S. Government Users Restricted Rights - Use, duplication -->
#<!--or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with -->
#<!--IBM Corp. -->
#<!--
#<!--This page may contain other proprietary notices and copyright -->
#<!--information, the terms of which must be observed and followed. -->
#####
# Items on a line are separated by spaces or tabs.
# Comments begin with a # and continue until the end of the line.
# Name must begin the first entry on the line.
#####
#
# device           /dev/video0, dev/video1, dev/video2 (default:video0)
# width            (depned on device) (default:320)
# heith            (depend on device) (default:240)
# camera_timer    1-604800(1week) (default:5sec)
#
# screen_browser   IE/NS/cellular (default:IE)
# screen_timer     1-604800(1week) (default:60)
# screen_rotate    yes/no (default:yes)
#
#####
[camera]
device           /dev/video0
width            320
height          240
camera_timer     5
[screen]
screen_browser   IE
screen_timer     60
screen_rotate    yes
```

## [camera]

capture engine の監視カメラ用パラメータの設定項目

### device

認識される device 名。Default は、video0

### width

video デバイスが使用する画像横幅。Default は、320

### height

video デバイスが使用する画像縦幅。Default は、240

### camera\_timer

capture engine が画像を保存する秒間隔 (1-604800(1week)) Default は 5 秒

## [screen]

capture engine のスクリーン・ビュー用パラメータの設定項目

### screen\_browser

使用するブラウザを設定。IE/NS/cellular Default は、IE

### screen\_timer

capture engine が画像を保存する秒間隔 (1-604800(1week)) Default は 60 秒

### screen\_rotate

携帯電話で見る場合、画像を 90° 回転させた方が見やすい。  
screen\_browser が cellular の場合 screen\_rotate が有効となります。Default は yes

## ネットワーク環境

多くの企業では、イントラネットやローカル・エリア・ネットワークを利用し構築しています。また、必要に応じて、直接電話回線を引きダイヤル・イン・サーバーを設けている場合もあります。そしてインターネットへの接続にはファイアウォールを設け外部からの侵入を防いでいます。

家庭では、ISDN や ADSL を利用し接続している場合や、ルーター等を利用し家庭内ネットワークを構築している例も増えてきました。ケーブル TV のインターネット接続サービスを利用している地域も増えてきました。また、インターネット常時接続サービスを利用される方が増えるにつれ、セキュリティへの要求が高まっております。

この章では、Windows XP でのファイアウォール、他のファイアウォール機能を含むセキュリティ・ソフト、ダイヤルアップ・ルーター等を Desktop On-Call といっしょに使う場合の設定方法を説明します。

### Windows XPインターネット接続ファイアウォールの設定

Windows XP には「インターネット接続ファイアウォール」が標準装備されています。Windows XP でインターネット接続ファイアウォールといっしょに Desktop On-Call V5 を使用する場合の設定方法を説明します。

1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「ネットワーク接続」を選択します。



上図の状態であれば「インターネット接続ファイアウォール」は設定されていません。

2. 接続アイコン上でマウス右クリックします。「プロパティ」を選択します。
3. 「詳細設定」タブを選択します。



4. 詳細設定は下の「設定(G)」ボタンを押します。



5. Webサーバー(HTTP)にチェックマークをつけてください。



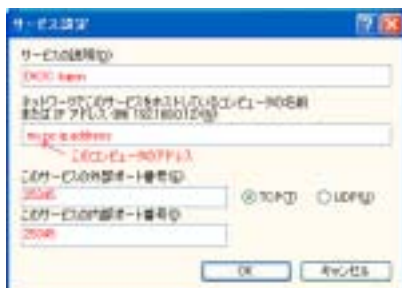


6. 「OK」を選択してください。

DesktopOnCall では、Default 設定で Install した場合以下のポートを使用するため、それぞれ追加する必要があります。

Port : 80 Protocol: TCP Name: httpd  
 Port: 25345 Protocol: TCP Name: logon  
 Port: 25346 Protocol: TCP Name: slaved  
 Port: 25347 Protocol: TCP Name: ftpd  
 Port: 25348 Protocol: TCP Name: automap  
 Port: 25349 Protocol: TCP Name: automap  
 Port: 25350 Protocol: UDP Name: automap  
 Port: 25351 Protocol: TCP Name: chat

7. 「追加(D)」を選択してください。



サービスの説明に「Dtoc logon」と入力し、アドレスを次のフィールドに入力し、外部ポート、内部ポートに「25345」と入力し「OK」を選択してください。

8. 再び「追加(D)」を選択して、以下のアイテムをすべて登録してください。

サービス説明: DtOC slaved 外部ポート: 25346 内部ポート: 25346 TCP  
 サービス説明: DtOC ftpd 外部ポート: 25347 内部ポート: 25347 TCP  
 サービス説明: DtOC automap1 外部ポート: 25348 内部ポート: 25348 TCP  
 サービス説明: DtOC automap2 外部ポート: 25349 内部ポート: 25349 TCP  
 サービス説明: DtOC automap3 外部ポート: 25350 内部ポート: 25350 UDP  
 サービス説明: DtOC chat 外部ポート: 25351 内部ポート: 25351 TCP



## ホームPC用セキュリティー製品といっしょに使う。

以下のセキュリティーソフトウェアと Desktop On-Call Version 5 をいっしょに使う場合の設定方法を説明します。

### BlackICE Defender 2.1J (Internet Security System, Inc.)

BlackICE Defender は、入ってくるパケット(インバウンド・パケット)をフィルタリングする機能を持っています。以下の防御レベルが設定されており、普通以上に設定すると Desktop On-Call は動作しなくなります。

レベル	説明
最高	TCPとUDPの全ポートに対する受信トラフィックを防御
高	TCP全ポートとUDP標準ポート(1023以下)に対する受信トラフィックを防御
普通	TCPとUDPの標準ポート(1023以下)に対する受信トラフィックを防御
なし	全ポートに対して防御しない

ただし、firewall.ini を編集(下線部)すれば動作可能になります。

firewall.ini は、C:\Program files\Network ICE\BlackICE\firewall.ini にあります。

```
; *****  
; BlackICE filter configuration file  
; DO NOT EDIT BY HAND!  
; This file contains several sections. The first section is  
; for user configured items. The second is for automatic  
; filters set by the system. These should be maintained  
; separately in the user interface  
; *****  
[PARMS]  
auto-blocking = enabled  
protection.SecurityLevel = paranoid  
protection.fileSharing = disabled  
protection.NetBIOSNeighborhood = disabled  
  
IP/port, name, whenSet, expiration  
  
[MANUAL IP ACCEPT]  
  
[MANUAL UDP low REJECT]  
REJECT, 137, NETBIOS Name Service, 1999-07-22 20:26:53, PERPETUAL  
REJECT, 138, NETBIOS Datagram Service, 1999-07-22 20:26:53, PERPETUAL  
  
[MANUAL UDP high REJECT]  
  
[MANUAL TCP low REJECT]
```

```
ACCEPT, 80, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 113, identd, 1999-07-19 20:50:26, PERPETUAL
REJECT, 139, SMB, 1999-07-19 20:50:26, PERPETUAL

[MANUAL TCP high REJECT]
ACCEPT, 25345, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 25346, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 25347, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 25348, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 25349, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown
ACCEPT, 25351, default, PERPETUAL, PERPETUAL, 1000, unknown

; *****

[auto IP xxx]

[auto UDP low xxx]

[auto UDP high xxx]

[auto TCP low xxx]

[auto TCP high xxx]
```

また、他の方法として「信頼するアドレス」を設定することにより、そのアドレスからのアクセスを無条件にする方法もあります。  
下の例では、防御レベルが何であっても、「9. 68. 35. 101」からのアクセスを許可します。(ファイアウォールの機能をさせない)



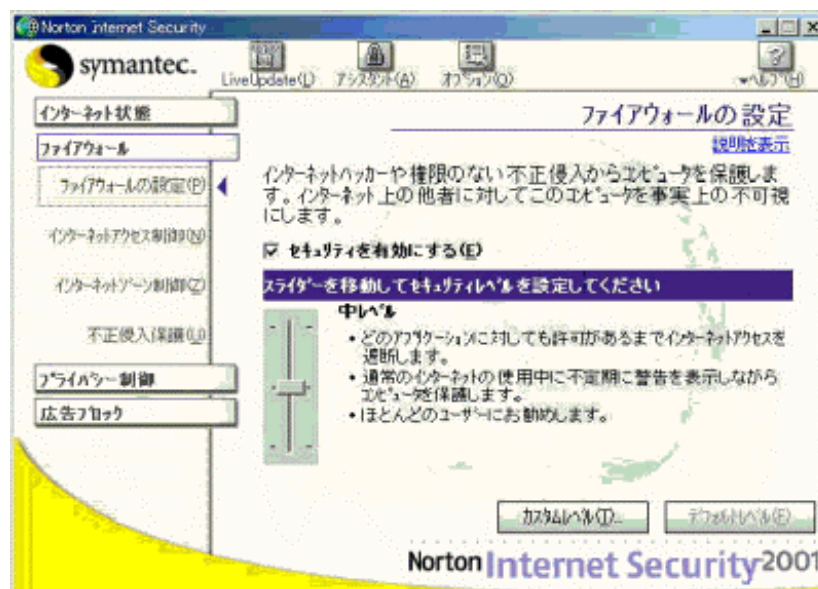
BlackICE V2.5 では、ポート毎に設定が可能になっています。Windows 2000 SP2 で使用する場合は V2.5 が必要です。

## Norton Internet Security Version 3.0 ( Symantec Corp.)

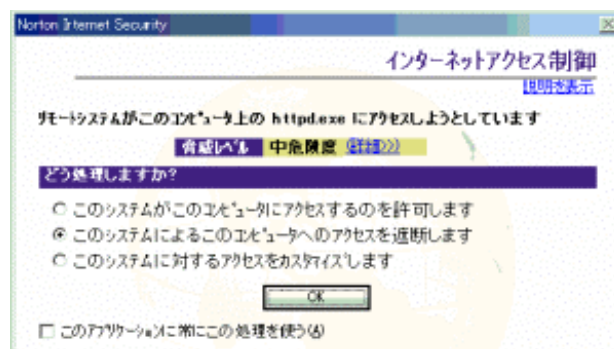
Norton Internet Security は、ファイアウォール機能を持っています。更に細かくアプリケーションごとにアクセス制御を行えるようになっており便利です。

以下の手順で設定すれば、Desktop On-Call と共存して使用できます。

「ファイアウォールの設定」で「セキュリティを有効にする」を設定しておきます。

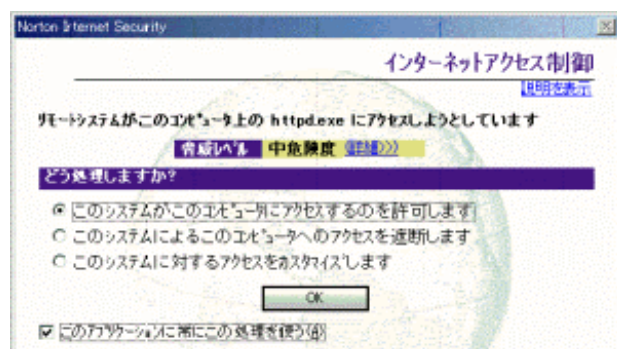


Desktop On-Call を使用すると以下の警告のパネルが表示されます。



「このシステムがこのコンピューターにアクセスするのを許可します」を選択し、

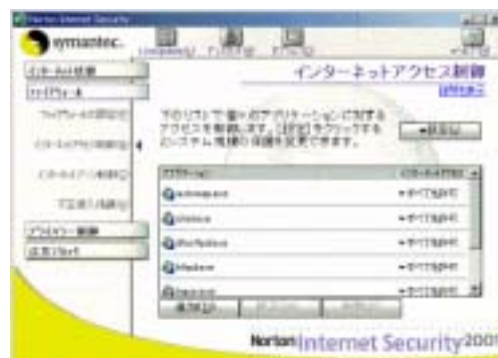
「このアプリケーションに常にこの処理を使う(A)」にチェックマークを付け、「OK」を選択します。



この様な処理を以下の全ての Desktop On-Call サブ・アプリケーションに対して行う必要があります。

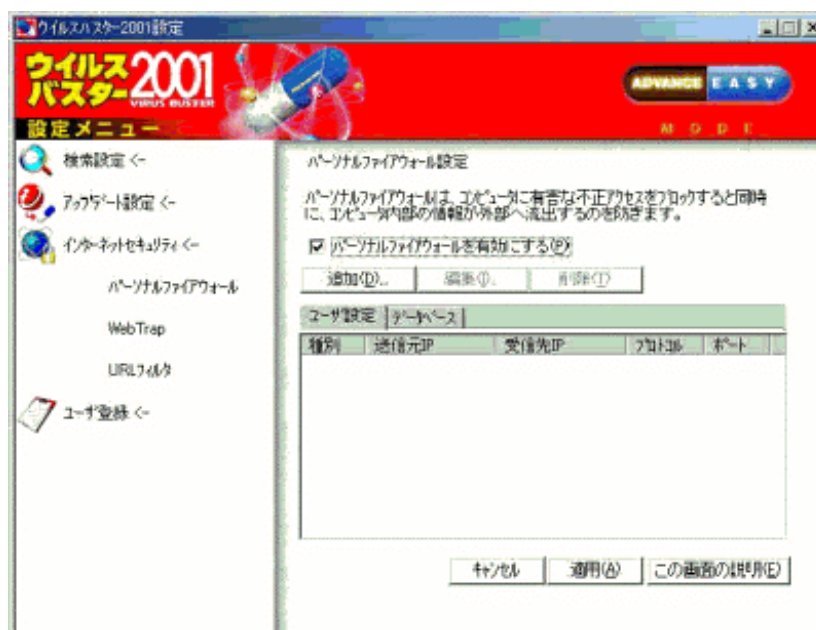
- httpd.exe
- logon.exe
- slaved.exe
- chat.exe
- dtocftpd.exe
- automap.exe

これらの全ての Desktop On-Call サブ・アプリケーションに対して許可を設定するとインターネットアクセス制御リストに以下のように表示されます。



### ウイルスバスター2001( Trend Micro Inc. )

ウイルスバスターは、パーソナル・ファイアーウォール機能を持っています。



パーソナル・ファイアウォールの設定パネルで、「パーソナル・ファイアウォールを有効にする」にチェックマークを付けてください。

「追加(D)」を選択し、アクセス制御するポートを設定していきます。

Desktop On-Call では、以下のポートを使用しますので以下のポートは閉じないように設定してください。

Port : 80 Protocol: TCP Name: httpd  
 Port: 25345 Protocol: TCP Name: logon  
 Port: 25346 Protocol: TCP Name: slaved  
 Port: 25347 Protocol: TCP Name: ftpd  
 Port: 25348 Protocol: TCP Name: automap  
 Port: 25349 Protocol: TCP Name: automap  
 Port: 25350 Protocol: UDP Name: automap  
 Port: 25351 Protocol: TCP Name: chat

## ホームルータ経由で使う



この構成は、インターネット常時接続サービスを利用してダイヤルアップルーター内のPCをリモート・コントロールしたい場合の設定方法です。

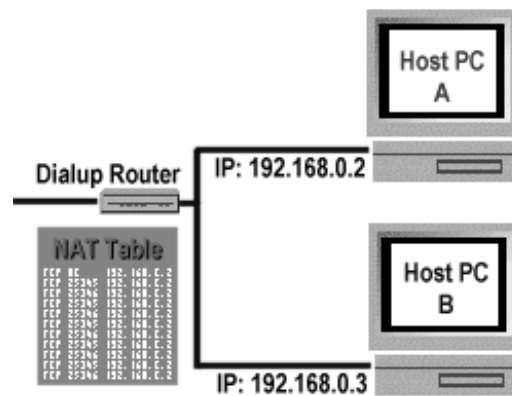
ダイヤルアップ・ルーター経由で、外部からのリモート・コントロールを可能にするにはダイヤルアップ・ルーターが静的 IP マスカレードあるいは NAT テーブルを設定することにより、外部から内部の PC に転送する機能を持っていることが必要です。

Desktop On-Call は、以下のポートを使用します。

使用するポート	プロトコル	サービス名
80	TCP	httpd
25345	TCP	logon
25346	TCP	slaved
25347	TCP	ftpd
25348	TCP	automap
25349	TCP	automap
25350	UDP	automap
25351	TCP	chat

注: 使用するポートは、Desktop On-Callのプロパティ・パネルで変更可能です。





ルーター下の2台 PC も NAT テーブルを設定すれば接続可能です。

### Desktop On-Callの使用ポートの設定

ホスト PC B のポートは、httpd ポートを 5000、先頭ポートを 25355 に変更しておきます。

サービス名	Host PC A (192.168.0.2) ポート番号	Host PC B (192.168.0.3) ポート番号
httpd	80	5000
logon	25345 (先頭の設定ポート)	25355 (先頭の設定ポート)
salved	25346	25356
ftpd	25347	25357
automap	25348	25358
automap	25349	25359
automap	25350	25360
chat	25351	25361

ルーターの設定(NAT や静的 IP マスカレードなど)

プロトコル	ポート	IPアドレス
TCP	80	192.168.0.2
TCP	25345	192.168.0.2
TCP	25346	192.168.0.2
TCP	25347	192.168.0.2
TCP	25348	192.168.0.2
TCP	25349	192.168.0.2
TCP	25351	192.168.0.2
TCP	25354	192.168.0.3
TCP	25355	192.168.0.3
TCP	25356	192.168.0.3
TCP	25357	192.168.0.3
TCP	25358	192.168.0.3
TCP	25359	192.168.0.3
TCP	25361	192.168.0.3

ご使用のルーターの機能をお確かめの上、設定を行ってください。

注:このような構成の場合は、Automap 機能は正しく動作しません。

## pingを用いたTCP/IPのチェック

OS/2、UNIX または Windows では ping というコマンドを使用してネットワーク上で正しく TCP/IP での接続ができるかを調べることができます。

注: ping は、ICMP プロトコルを使って IP 間のネットワーク接続を確認します。

Desktop On-Call で接続するゲスト PC またはホスト PC のいずれかのデスクトップ上でコマンド・プロンプトを開き、相手方の IP アドレス を ping コマンドで指定します。

下の例では、接続する相手方の IP アドレス は 192.168.1.10 です。

ping 192.168.1.10 と入力したコマンドに対し、Reply from 192.168.1.10 ....と相手方が応答し、TCP/IP で正しく接続できる状態であることが分かります。

```
Microsoft(R) Windows 95
(C)Copyright Microsoft Corp 1991-1995.

C:\WINDOWS>ping 192.168.1.10

Pinging 192.168.1.10 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=10ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32
Reply from 192.168.1.10: bytes=32 time=1ms TTL=32

C:\WINDOWS>
```

下の例では、ping 192.168.1.30 と入力したコマンドに対し、Request timed out. というメッセージが帰ってきています。

```
Microsoft(R) Windows 95
(C)Copyright Microsoft Corp 1991-1995.

C:\WINDOWS>ping 192.168.1.30

Pinging 192.168.1.30 with 32 bytes of data:

Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.
Request timed out.

C:\WINDOWS>
```

これは、お互いが正しく TCP/IP で接続できる状態ではないことを示しています。この場合には、お使いのシステムのマニュアルなどを参照して、TCP/IP ネットワークの設定を変更し、上の例のように ping コマンドで接続が確認できるようにならない限り、Desktop On-Call は機能しません。

## 第4章 PDA から使う

PDA ( Personal Digital Assistance ) デバイスは、近年、PDA 自体のメモリーの大きさ、CPU のパフォーマンス等急速に発展してきました。その結果、携帯電話にモデム接続したり、PHS カード等を利用し、ワイヤレスでインターネットに接続できるモデルが続々と発表されています。ここでは、代表的な接続方法を例として解説していきます。



Desktop On-Call Version 5 では、PDA 用の専用ゲスト側ソフトとして、Pocket PC 版、Palm 版と Zaurus 版が用意されています。

注: Desktop On-Call Version 5.0 の PDA クライアント・モジュールは、適宜最新版を Desktop On-Call ホームページに掲載する予定です。

<http://www.ibm.com/jp/pspjinfo/javadesk/>

### Pocket PC から使う



#### Pocket PC へインストール

Pocket PC 用ゲスト側リモート・コントロール・ソフトには、以下の3つの CPU 用モジュールが用意されています。

- ARM
- MIPS
- SH3

CD 内、¥wince¥japanese¥pocketpc 以下のディレクトリに格納されている、dtoc.exe と ¥wince 下に格納されている dtoc.ini をモバイルデバイス内の同一ディレクトリにコピーしてください。

## **Pocket PCからの接続方法**

---

Pocket PC は、コンパクト・フラッシュ・タイプの PHS カードや、PCMCIA PHS カード、携帯電話接続モデム等ネットワーク接続用のデバイスは非常に充実しています。以下のように接続の準備を行い、Desktop On-Call ホストPC に接続、リモート・コントロールを行って見ましょう。

1. ネットワーク接続用のデバイスをPocket PCにセットします。
2. 「スタート」-「設定」-「接続」を選択します。
3. 使用するネットワークを選択します。(ここではモデムを例にとって説明します。モデムを選択します。)
4. 「新しい接続...」を選択します。
5. お客様がお使いのインターネットプロバイダ一名を接続名に入力してください。
6. モデムの種類を選択し、「次へ」を選択してください。
7. 電話番号を入力し、「次へ」を選択してください。
8. 「完了」を選択してください。

これで接続ができあがりました。

以下の手順で接続します。

9. 「スタート」-「プログラム」-「接続」を選択します。
10. 接続するアイコンを選択します。
11. 「接続」を選択します。

これでプロバイダーへ接続されます。

## **Desktop On-Call Pocket PC Clientの使用方法**

---

接続が完了したら以下の手順でリモート・コントロールを行って見ましょう。

1. 「スタート」-「プログラム」-「ファイルエクスプローラ」を選択します。

2. 「dtoc」を選択します。
3. 「ファイル」を選択します。
4. 「接続」を選択します。
5. URL: <http://>に[接続するホストPC](#)のアドレスを入力します。一度接続したホストPCは、「使用されたホスト」の欄から選択することもできます。
6. 「接続」を選択します。
7. ユーザーID、パスワードを入力し「OK」を選択します。

ホストPCの画面の一部が表示され、リモート・コントロールが行えます。

通常は、ホストPCの全画面、スクロールが可能です。しかしこの設定では、Pocket PCのメモリーを多く使用しています。「ファイル」→「設定」を選択し、「ホストPCの全画面を一度にダウンロード」のチェックマークを外すと、現在、見ている部分だけをダウンロードするようになり、使用メモリーを節約できます。ただし、スクロールをすると新たなダウンロードが発生するため時間がかかります。

文字入力は、「ローマ字/かな」キーボードの英数半角または半角記号入力モードをしようしてください。漢字、ひらがな等の2バイト文字はサポートされません、また、一部の特殊半角文字もサポートされません。

#### Desktop On-Call Pocket PC Client の仕様

IPアドレスの制限	： サポート
チャット	： サポートなし
パスワード有効期限	： サポート
管理者・一般ユーザーの区別	： サポート
セッション時間	： サポートなし
SSL	： サポートなし
自動壁紙解除	： サポート
接続表示	： サポート
256表示色	： サポート
指示ポインター	： サポート
画面の縮小	： サポート
リモート・コントロール・アクセス要求に対する YES/NO パネル	： サポートなし

## Palmから使う



### Palmへインストール

Palm へのインストールは、Palm Desktop を利用します。

1. Palm Desktopを起動します。
2. 「インストール」を選択してください。
3. 「追加」を選択してください。
4. CD-ROMドライブの「¥palm¥japanese¥DtocPalmClient.prc」を選択してください。
5. 「終了」を選択してください。

この後、Palm をクレードルにセットし、HotSync させたときに Desktop On-Call Palm 用クライアントがインストールされます。

### Palmからの接続設定方法

Palm でのネットワーク接続は、モデムを使って接続することが一般的です。IBM Workpad では、IOData 社製の Snap Connect を使って携帯電話に接続できます。

1. ネットワーク接続用のデバイス(Snap Connectなど)をPalmにセットします。
2. 「ホーム」、「環境設定」を選択します。
3. 「環境設定」フォームのタイトルの右にあるポップアップトリガーをタップしてリストから「接続」を選択しネットワーク接続用デバイス固有の設定を行います。(設定の詳細は、デバイスのマニュアルを参照してください。)
4. 「環境設定」フォームのタイトルの右にあるポップアップトリガーをタップしてリストから「ネットワーク」を選択し、お客様がお使いのインターネット・プロバイダー名、ユーザー名、パスワード、電話番号等を入力します。

これで、接続のための設定は完了です。

## Desktop On-Call Palm Clientの使用方法

Palm は接続設定がされていると、Desktop On-Call Palm Client が起動したときに自動的に接続が開始されます。

1. ホーム、「」Desktop...」アイコンをタップします。
2. 最初に起動したときや、構成を保存していないときは「セットアップ」フォームが表示されます。ここで、ホストPC のURL、ホストPC 上で設定したユーザーID、パスワードを入力します。また、ホストPC上でサーバーの使用するポートを変更した場合、そのポート番号を入力します。(変更指定していないときは、デフォルトの25345を使用します。)入力が終わったらOKボタンをタップすると接続が開始されホストPCの画面の一部が表示されます。

上下にスクロールする場合は、スクロール・ボタンを使用してください。

左右にスクロールする場合は、メニューを出し、「右スクロール」あるいは「左スクロール」を選択してください。

グラフィティ文字を入力するとホストPC に文字が送られます。(英数文字のみ)

### Desktop On-Call Palm Client の仕様

IP アドレスの制限	: サポート
チャット	: サポートなし
パスワード有効期限	: サポート
管理者・一般ユーザーの区別	: サポート
セッション時間	: サポートなし
SSL	: サポートなし
自動壁紙解除	: サポート
接続表示	: サポート
256表示色	: サポート
指示ポインター	: サポート
画面の縮小	: サポート
リモート・コントロール・アクセス要求に対する YES/NO パネル	: サポートなし



## Sharp Zaurusから使う



### Sharp Zaurusへインストール

ザウルスは、クレードルにセットするとPCからコンパクト・フラッシュのドライブとして認識されます。ゲスト側ソフトのザウルスへのインストールは、CD-ROM の ¥zaurus¥japanese¥dtoc.jar と ¥zaurus¥japanese¥dtocid.jar をそのコンパクト・フラッシュ・ドライブにコピーします。Windows のエクスプローラー等を開き、CD-ROM からドラッグ&ドロップで複写しても OK です。また、コマンドプロンプトを開き、以下のように複写しても OK です。

```
copy d:¥zaurus¥japanese¥dtoc.jar X:¥INTENT¥USER
```

```
copy d:¥zaurus¥japanese¥dtocid.jar X:¥INTENT¥USER
```

d:は CD ドライブ、X:はコンパクト・フラッシュのドライブ。

1. "Zaurus用実行環境 (for Personaljava)"を起動してください。
2. 壁紙をタップして左上に表示されるメニューがら、installという名前の項目を選択してインストーラを実行してください。
3. 次に、表示されるファイル選択ウインドウでコンパクトフラッシュカード上に書き込んだjarファイルを選択し、「Loadボタン」を選択してください。
4. ファイル選択ウインドウが消え、画面の左上に2つのボタンが表示されますので左側の「Installボタン」を選択してください。その後、その左上のボタンが画面から消えると、作業は終了です。

dtoc.jar と dtocid.jar、二つのファイルについて行ってください。

### ホストネーム、ユーザID、パスワードの設定

1. "Zaurus用実行環境 (for Personaljava)"を"起動"で起動してください。
2. 壁紙をタップして左上に表示されるメニューがら、javaという名前の項目を選択してdtocidを実行してください。
3. ホストネーム、ユーザID、パスワードなど全てを設定した後、OKを押して

ださい。



4. この後リモートコントロールを実行する前に”Zaurus用実行環境 (for Personaljava)”を一度終了してください。

これにより/dtoc.ini というファイルができます。

```
SERVER=your.hostpc.ip.address
USERID=userid
PASSWD=xxxx(実際は入っています)
LOGON_PORT=25345           Slaved のポートではなく Logon のポート
                           (中で+1しています)
SCREEN_WIDTH=240           (変更しないでください)
SCREEN_HEIGHT=320          (変更しないでください)
OFFSCREEN_WIDTH=240        (変更しないでください)
OFFSCREEN_HEIGHT=340       (変更しないでください)
X=0                         (変更しないでください)
Y=0                         (変更しないでください)
SCROLL_X=100                X方向のスクロールの量 (ドット)
SCROLL_Y=100                Y方向のスクロールの量 (ドット)
MODE= 1                     入力モード  0 : ノーマルモード  1 : プログラマーモード
```

## ザウルスからの接続方法

MI-E1 はケーブルを使用して携帯電話に接続できます。

1. ”Zaurus用実行環境 (for Personaljava)”を”ネットワーク接続”で起動してください。
2. 壁紙をタッチして左上に表示されるメニューから、javaという名前の項目を選択してdtocを実行してください。

ウィンドウが開きリモートコントロールが可能となります。

## **Desktop On-Call Zaurus Clientの使用方法**

接続が成功すると、ホスト PC の画面の一部が表示されます。操作キーアサインは以下の通り

### ノーマルモード

拡大 -> 順送りボタン  
縮小 -> 逆送りボタン  
上画面スクロール -> ↑ ボタン  
右画面スクロール -> → ボタン  
下画面スクロール -> ↓ ボタン  
左画面スクロール -> ← ボタン

### プログラマーモード

256色 -> 順送りボタン + Shift  
アンチエイリアス -> 逆送りボタン + Shift  
Ctrl+Alt+Del -> 順送りボタン + Ctrl (@ボタン)  
上矢印キースクロール -> ↑ ボタン + Shift  
右矢印キースクロール -> → ボタン + Shift  
下矢印キースクロール -> ↓ ボタン + Shift  
左矢印キースクロール -> ← ボタン + Shift

### Desktop On-Call Zaurus Client の仕様

IP アドレスの制限	: サポート
チャット	: サポートなし
パスワード有効期限	: サポート
管理者・一般ユーザーの区別	: サポート
セッション時間	: サポートなし
SSL	: サポートなし
自動壁紙解除	: サポート
接続表示	: サポート
256表示色	: サポート
指示ポインター	: サポート
画面の縮小	: サポート
リモート・コントロール・アクセス要求に対する YES/NO パネル	: サポートなし

## 第5章 監視カメラを使う

Desktop On-Call Version 5 は、PC に接続されている以下のカメラを監視カメラとしてサポートします。



(1) USBポートに接続されているカメラ



(2) IEEE1394カード、あるいはI-LINKポートに接続されているデジタル・ビデオ・カメラ



(3) ビデオキャプチャーボードに接続されているデジタルカメラやビデオ・カメラ



いずれのカメラも Windows にイメージング・デバイスとして認識されており、DirectX 8 が動作していれば使用できます。

注: Linux の場合は、(1)と(3)がサポートされます。MacOS と OS/2 ではサポートされません。

## カメラ画像をWebブラウザから見る

Web ブラウザーからカメラ画像を見るには「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」がインストールされている必要があります。最小構成でインストールした場合はキャプチャー・エンジンを追加インストールする必要があります。

キャプチャー・エンジンは DirectX から入手した画像を Desktop On-Call フォルダー内に作成し、それを Web ブラウザーで表示しています。Desktop On-Call キャプチャー・エンジンは、タイマーにセットされた秒おきに、カメラ映像をファイルに保管します。

まず、キャプチャー・エンジンを起動し、カメラあるいは、スクリーンを選択しておく必要があります。以下の手順で「カメラ」を選択します。

### 「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を起動する

1. 「スタート」-「プログラム」-「IBM PCリモコン」-「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を選択。
2. 「ファイル」-「カメラ」を選択してください。
3. カメラが正しく接続されている場合は、しばらくすると画像が映し出されます。



注: メニューのデバイスを選択しても何もデバイスが表示されない場合は、カメラが正しく認識されていません。カメラあるいは、キャプチャー・デバイスのマニュアルを参照してカメラを正しくセットアップしてください。

4. メニューのプロパティ→カメラプロパティを選択し、リフレッシュタイマー(何秒ごとに画像を更新するか)時間を設定してください。



省略値は、5秒です。

履歴画像を保存する場合は「動作検出記録」にチェックマークをつけてください。感度を高く設定するとほんの少しの動きや明るさの変化でも画像を保存します。

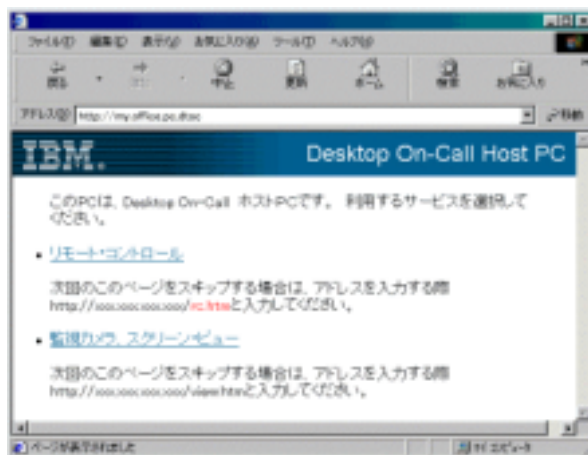
### Webブラウザからアクセスする

---

1. Webブラウザを起動します。
2. ホストPCのIPアドレスを入力します。

注:このとき、ホストPCのIPアドレスに続いて「/view.htm」と入力すれば以下のパネルをスキップして、ユーザーID、パスワードを要求するパネルが表示されます。

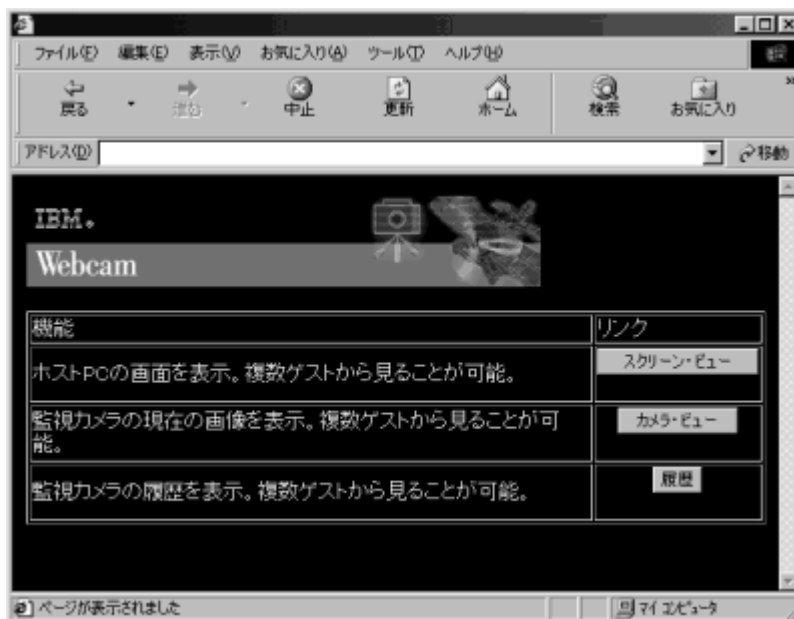
3. 「監視カメラ、スクリーンビュー」を選択してください。



4. ユーザーID、パスワード入力を求めるパネルが表示されます。Desktop On-CallのユーザーID、パスワードを入力します。



5. カメラ・ビューをクリックしてください。



6. カメラ画像ウィンドウが開き画像が映ります。



注: ネットワーク速度が遅く、画像が表示し終わる前に、次の画面の再ロードがかかってしまう場合は、リフレッシュ・レートを入力し「適用」ボタンを選択してください。

注: ホストPCキャプチャ・エンジンが停止している場合は、「停止中」画面になります。「開始」ボタンを選択すると動き出します。

### **リフレッシュ・レートを変更する**

ネットワークスピードが遅い場合は、画像が完全にダウンロードし終わらないうちに画像を更新しようとして画像が表示されない場合があります。その場合は、リフレッシュ・レートを長め(例えば、10 秒あるいは 30 秒)に以下の要領で設定してください。

1. リフレッシュ・レート入力フィールドに秒数を入力してください。
2. 「適用」を選択してください。



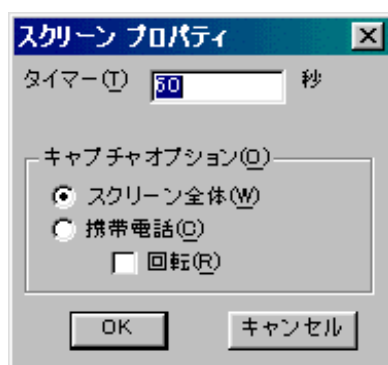
## ホストPCのスクリーンを見る

Desktop On-Call キャプチャー・エンジンは、スクリーン・プロパティのタイマーにセットされた秒おきに、ホスト PC の画面をファイルに保管します。Web ブラウザーから、保管されたホスト PC の画面ファイルを一定時間ごとにブラウザーに表示します。

まず、キャプチャー・エンジンを起動し、カメラあるいは、スクリーンを選択しておく必要があります。以下の手順で「スクリーン」を選択します。


### ホストPCで「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を起動する

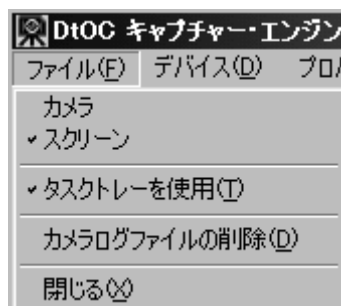
1. 「スタート」-「プログラム」-「IBM PCリモコン」-「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を選択。
2. メニューのファイル-スクリーンを選択してください。
3. メニューのプロパティ-スクリーンプロパティを選択し、リフレッシュタイマー（何秒ごとに画像を更新するか）時間とキャプチャオプションでスクリーン全対を選択してください。タイマーの省略値は、60秒です。



注: キャプチャオプションで「スクリーン全体」と「携帯電話」を同時に選択することはできません。

## Desktop On-Callキャプチャー・エンジンをバックグラウンドで動かす

キャプチャーエンジンを起動させ、「タスクトレイを使用」を選択すると、「閉じる」を選択してもバックグラウンドで動いています。この場合はトレイアイコンが表示されます。

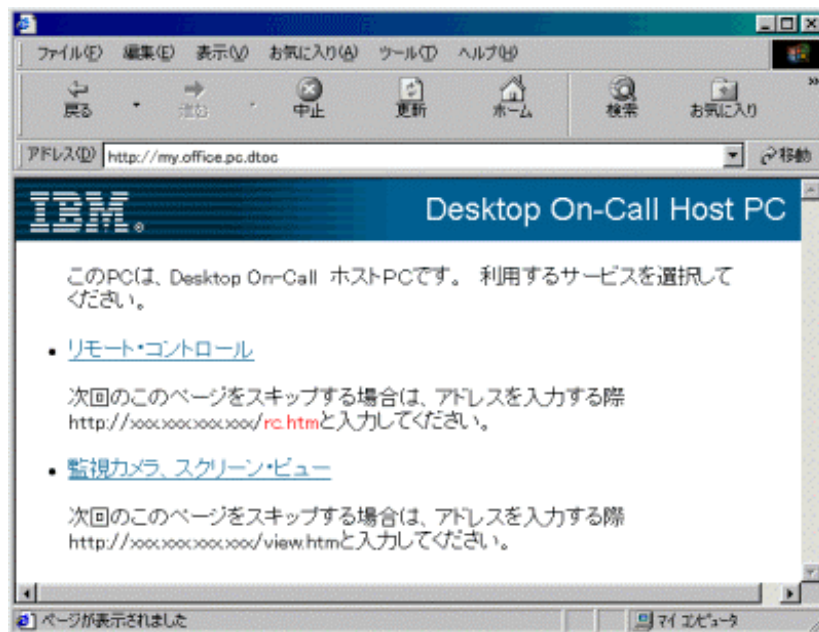


## Webブラウザからアクセスする

1. Webブラウザを起動します。
2. ホストPCのIPアドレスを入力します。

注:このとき、ホストPCのIPアドレスに続いて「/view.htm」と入力すれば以下のパネルをスキップして、ユーザーID、パスワードを要求するパネルが表示されます。

3. 「監視カメラ、スクリーンビュー」を選択してください。



4. ユーザーID、パスワード入力を求めるパネルが表示されます。Desktop On-CallのユーザーID、パスワードを入力します。



5. スクリーン・ビューをクリックしてください。スクリーン画像ウィンドウが開き画像が映ります。



注: ホストPCキャプチャー・エンジンが停止している場合は、「停止中」と表示されます。「開始」ボタンを選択すると動き出します。

注: 画面サイズは、ブラウザーによって出ないことがあります。

### リフレッシュ・レートを変更する

ネットワークスピードが遅い場合は、画像が完全にダウンロードし終わらないうちに画像を更新しようとして画像が表示されない場合があります。その場合は、リフレッシュ・レートを長め(例えば、10 秒あるいは 30 秒)に以下の要領で設定してください。

1. リフレッシュ・レート入力フィールドに秒数を入力してください。
2. 「適用」を選択してください。

## 第6章 携帯電話から使う

Desktop On-Call Version 5 は携帯電話からアクセスできます。

携帯電話のインターネット・ブラウザを使ってアクセスすると以下の機能を使用できます。

- 監視カメラの画像を見る
- 監視カメラが保存した履歴画像を見る
- PC のスクリーンを見る



ホーム PC にカメラを接続しておき、インターネット常時接続サービスを利用していれば、携帯電話から、ペットの様子や、屋内の状況など確認することができます。Desktop On-Call は、iモード、EZweb と J-Sky の3種類のインターネット携帯電話から利用することができます。

注: 携帯電話からホスト PC をアクセスするためには、iモードからアクセス可能な IP アドレス(グローバル IP アドレス)がホスト PC に割り振られている必要があります。確かめるには、ホスト PC で DOS プロンプトを開き(Windows 98/ME の場合)WINIPCFG コマンドか(Windows 2000 の場合)IPCONFIG コマンドで IP アドレスを調べます。携帯電話の URL 入力画面からその IP アドレスを入力し「Desktop On-Call 」の画面が出れば OK です。

注: J-Phone では、ユーザーID、パスワードの入力がサポートされていないため、Desktop On-Call プロパティ・パネルで「セキュリティをチェックしない」を選択しておかないと使用できません。

### ホストPCで「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を起動する

1. 「スタート」-「プログラム」-「IBM PCリモコン」-「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を選択。
2. メニューのファイル-カメラを選択してください。
3. メニューのプロパティ-カメラプロパティを選択し、リフレッシュタイマー(何秒ごとに画像を更新するか)時間を入力してください。タイマーの省略値は、5秒です。

## 携帯電話からアクセスしカメラ画像を見る

---

1. 携帯電話のURL入力画面からホストPCのアドレスを入力します。



2. 「カメラ」を選択します。
3. ユーザーID、パスワードを入力します。

携帯電話からパスワードを入力する場合、数字でないと入力しにくいので、携帯電話専用のIDをDesktop On-Callに追加しておき、パスワードを数字にしておくことをお勧めします。



更新すれば、新しい画像が表示されます。

---

## 携帯電話でホストPCの画面を見る

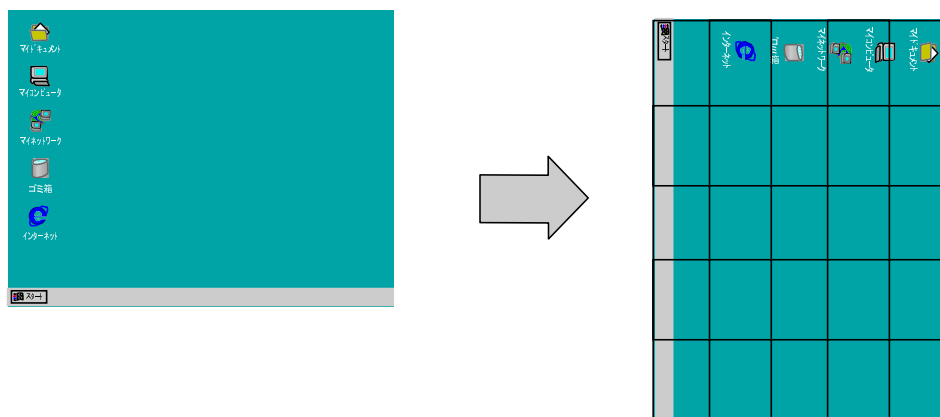
ホストPCの画面を携帯電話から見る場合も、「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」がタイマーにセットされた秒おきに保管したホストPC画面の断片画像ファイルを携帯電話のWebブラウザから見るかたちになります。

「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」のスクリーンプロパティ「キャプチャオプション(O)」で「携帯電話」を選択してください。また回転もチェックしてくださ

い。(チェックしない場合は縦スクロールになります。)

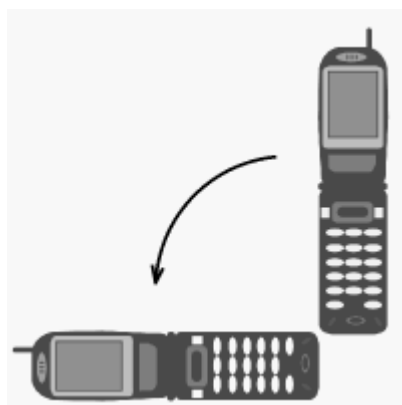


このようにプロパティを設定すると「Desktop On-Call キャプチャー・エンジン」はスクリーン画面を右90°回転させて、5x5に切った画像の断片ファイルを作成します。



一つ一つの断片は 120x160 の大きさと、スクリーンの大きさが 800x600 の場合は実寸で表示されます。スクリーンの大きさが 800x600 より大きい場合は縮小されます。

携帯電話で画面を見るときは左 90° 回転させれば見やすくなります。



注: 携帯電話からホストPCをアクセスするためには、携帯電話からアクセス可能なIPアドレス(グローバルIPアドレス)がホストPCに割り振られている必要があります。確かめるには、ホストPCでDOSプロンプトを開き(Windows 98/MEの場合)WINIPCFGコマンドか(Windows 2000の場合)IPCONFIGコマンドでIPアドレスを調べます。携帯電話のURL入力画面からそのIPアドレスを入力し「Desktop On-Call」の画面が出ればOKです。

次の手順で操作してください。

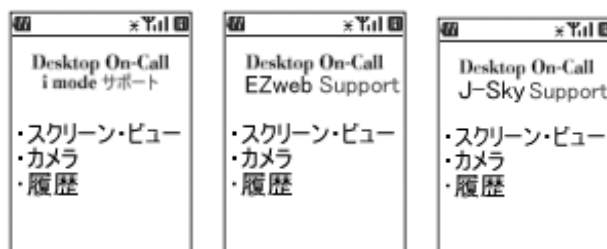
### **ホストPCで「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を起動する**

1. 「スタート」-「プログラム」-「IBM PCリモコン」-「Desktop On-Callキャプチャー・エンジン」を選択。
2. メニューのファイルスクリーンを選択してください。
3. メニューのプロパティースクリーンプロパティを選択し、リフレッシュタイマー(何秒ごとに画像を更新するか)時間とキャプチャオプションで「携帯電話」を選択してください。タイマーの省略値は、60秒です。

### **携帯電話からアクセスしホストPCスクリーンを見る**

1. 携帯電話のURL入力画面からホストPCのアドレスを入力します。





2. 「スクリーン・ビュー」を選択します。
3. ユーザーID、パスワードを入力します。

携帯電話からパスワードを入力する場合、数字でないと入力しにくいので、携帯電話専用のIDをDesktop On-Callに追加しておき、パスワードを数字にしておくことをお勧めします。



画面の下の口は、この画面全体を5分割したそれぞれの部分に相当します。みたい部分に相当する番号を選択してください。その部分が表示されます。例えば[1]を押すと以下の部分が見え、スクロールダウンすれば、右の部分が見えます。



注:ホストPCのスクリーン画面が複雑な場合、GIF/PNGファイルのサイズが大きくなり、携帯電話のブラウザの読み込み限界サイズを超えた場合、「読み込みバッファを越えました」旨のメッセージがでて横一行分読み込めないことがあります。

この場合以下の様な状態となります。

画面横一列は、5枚の画像が連なっていて、それぞれ画像1枚ずつのページにリンクが張られていますので、読み込みが不完全だった画像を選択すると、その画像1枚だけを見ることが出来ます。



## 第7章 PC から使う

### リモート・コントロール機能

Desktop On-Call でホスト PC (コントロールされる側)にアクセスする方法は、ブラウザでインターネットのホームページにアクセスするのと全く同じです。

#### ブラウザからの接続

注: ホスト PC (コントロールされる側)で、**スタート** - 「プログラム」 - 「IBM PC リモコン」 - 「Desktop On-Call PC リモコン」を選択するとメインパネルが表示されます。「PC リモコンサーバーの状況」が「待機中」であることを確認してください。

1. ゲストPC(コントロールする側)で、Netscape 4.7やInternet Explorer 5.5/6.0のJavaアプレットが動作するブラウザを起動させてください。
2. ホストPC(Desktop On-Call がインストールされているマシン)のURLアドレスを入力してください。






3. 「リモート・コントロール」を選択してください。
4. ユーザーIDとパスワードを要求するパネルが表示されます。(ユーザーIDとパスワードを要求しないに設定している場合は、表示されません。)



5. ユーザーIDとパスワードを入力してください。
6. リモート・コントロールウィンドウが開きホストPCのデスクトップイメージが現れます。



- 
- 
- 
7. まずマウスでクリックしてみてください。そしてポインターをメニューへ移動させると図のように通常、ホストPCの前に座っている通り操作できます。

注：マウス右クリックも対応しています。

注：MacがゲストPCの場合は、163ページの注意事項を参照して、ブラウザのメモリとシステムの仮想メモリを増やしてください。

## Desktop On-Call接続モード

Desktop On-Call Version 5 は次の3つの接続モードを持っています。

- 基本コネクト・モード
- 拡張コネクト・モード
- 低リソース・モード

### 基本コネクト・モード

基本コネクト・モードは、Desktop On-Call V2.5 互換のモードです。他にウィンドウを開くことはありません。現在表示中の Web ブラウザーの中でリモート・コントロールを行います。JavaScript や LiveConnect のサポートのないブラウザーを使用した場合、基本コネクト・モードが自動的に選択されます。強制的に基本コネクトモードで接続したい場合は、以下のように Web ブラウザーのアドレスを入力してください。

<http://your.host.pc.address/ictrl110.htm>

基本コネクト・モードで接続しにいくと以下のようなログオン・パネルが表示されます。

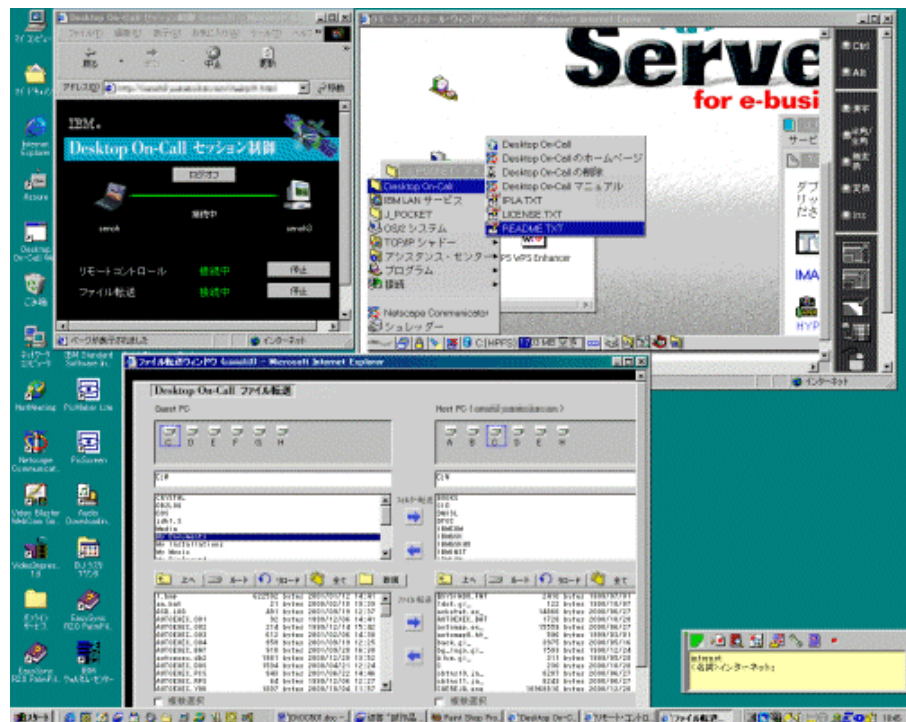


基本コネクトモードでは以下の制限事項があります。

- 使用されるブラウザーのウィンドウは1つのみです。
- 画面の縮小率は 100% に固定です。拡大縮小は利用できません。
- ファイル転送の機能が利用できません。
- SSL の機能が利用できません(自動的にオフになります)。

## 拡張コネクト・モード

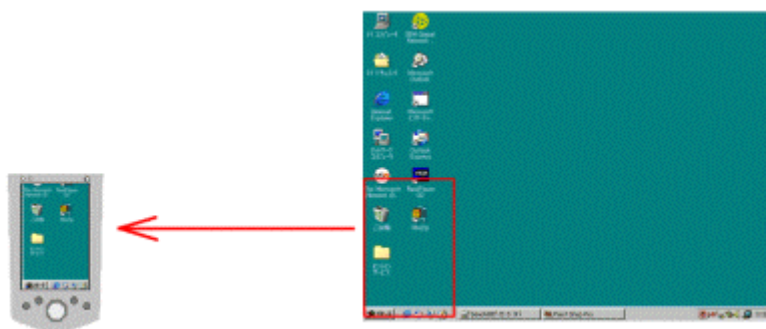
拡張コネクト・モードは、セッション制御ウィンドウ、リモート・コントロール・ウィンドウ、そしてファイル転送ウィンドウを表示します。リモート・コントロール・ウィンドウはブラウザのメニューやアイコン等を取り除き、リモート・コントロールに使うエリアをできるだけ広くとります。また、ファイル転送を行いながらリモート・コントロールすること可能です。Desktop On-Call は JavaScript と LiveConnect 1.2 の機能を使い拡張コネクト・モードをサポートしています。



## 低リソース・モード ( Low Resource Mode )

低リソース・モードは、PDA( Personal Digital Assistant )デバイスや、携帯電話など小さなデバイスでリモート・コントロールをする場合に使用するモードです。小さなデバイスではホストPCのスクリーンを全て表示する事ができません。ホストPCのスクリーンの一部を小さなデバイスに送り、メモリーの使用をできるだけ

抑制しています。



### **エミュレーションボタン**

エミュレーション・ボタンとは、Alt キーや Ctrl キーのように、ゲストPC のブラウザーに対して効いてしまうキーや、漢字キーなどのように Java によってサポートされていないキーで、リモート・コントロールに是非必要なキーを画面の傍らに配置してサポートしている操作系機能キーのことです。

マウスでクリックすることによって使用することができます。



## 機能制限オプション

機能制限オプションは、ユーザーIDごとに制限したい機能があればチェック・マークを外すことでその機能を制限することができます。

ファイル転送: チェックを外すとファイル転送機能を制限できます。

ブラウザからのキー/マウス入力: チェックを外すとリモート・コントロールを禁止できます。

指示ポインターの表示のみを選択すると、場所を指示する手の形のポインタが表示され画面上の場所を示すことができます。マウス左ボタンを押すと表示されている手の角度が変わりよりわかりやすく指し示すことができます。



プロパティ・パネルの表示: チェックを外すとリモート・コントロール中にプロパティを変更することを制限できます。

## ファイル転送

### サインド・アプレット認証パネル

Desktop On-Call は、サインド・アプレットを用いることにより、ファイルの送受信をサポートしています。従って、ファイル転送画面を開始するとJava アプレット発行者認証パネルが表示されます。「はい」を選ぶと File Transfer(ファイル転送)の画面が表示されます。

注: この機能は J D K 1.1 以上をサポートしたブラウザで、拡張コネクト・モードで接続したときのみ動作します。



このパネルは、ご使用のブラウザによって異なります。



	親ディレクトリーに戻ります。
	現行ドライブのルート・ディレクトリーに戻ります。
	再読み込みをします。
	すべて選択します。
	新しいディレクトリーを作成します。


### ファイルをホストPCからゲストPCに転送する。

1. ホストPCのファイルを1つあるいは複数選んでください。  
複数選ぶには複数選択にチェック・マークを付けた上でファイル名をクリックしてください。
2. ホストPCからゲストPCを指している矢印ボタンを押してください。


### ファイルをゲストPCからホストPCに転送する。

1. ゲストPCのファイルを1つあるいは複数選んでください。


複数選ぶには複数選択にチェック・マークを付けた上でファイル名をクリックしてください。

2. ホストPCからゲストPCを指している矢印ボタンを押してください。


### ホストPCからゲストPCにディレクトリーごと転送する。

1. ホストPCのディレクトリーを1つ選んでください。
2. 矢印ボタンを押してください。

### ゲストPCからホストPCにディレクトリーごと転送する。

1. ゲストPCのディレクトリーを1つ選んでください。
2. 矢印ボタンを押してください。

### 新しいディレクトリーを作る(ホストPC・ゲストPC)

1. 新たに作成したいディレクトリーの親ディレクトリを現行ディレクトリーにします。その上で現行ディレクトリーフィールドに新しいディレクトリー名を入力してください。
2. 新しいディレクトリーボタン **新規** を押してください。

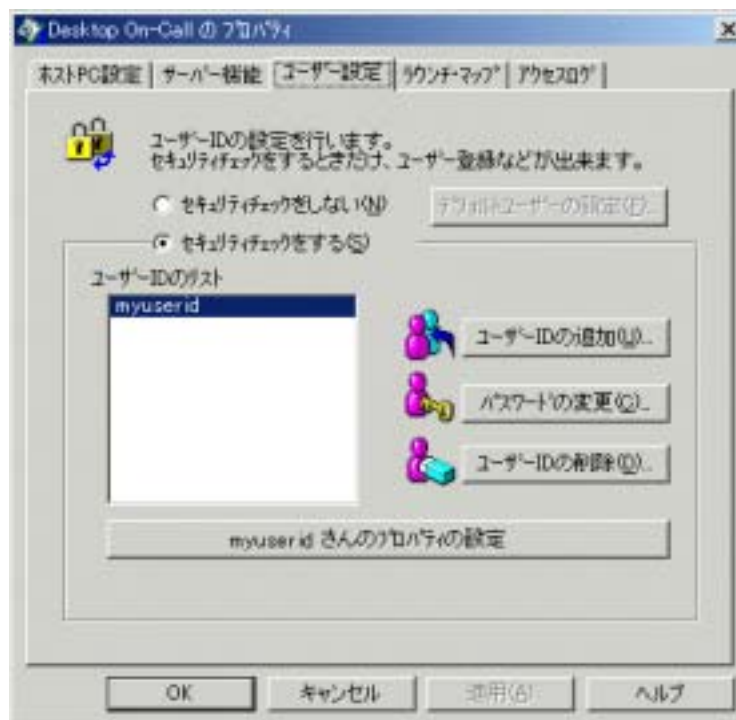
## セキュリティ機能

### ユーザーIDごとのプロパティの設定

個々のユーザーID ごと、あるいはデフォルト・ユーザーのプロパティを設定することができます。

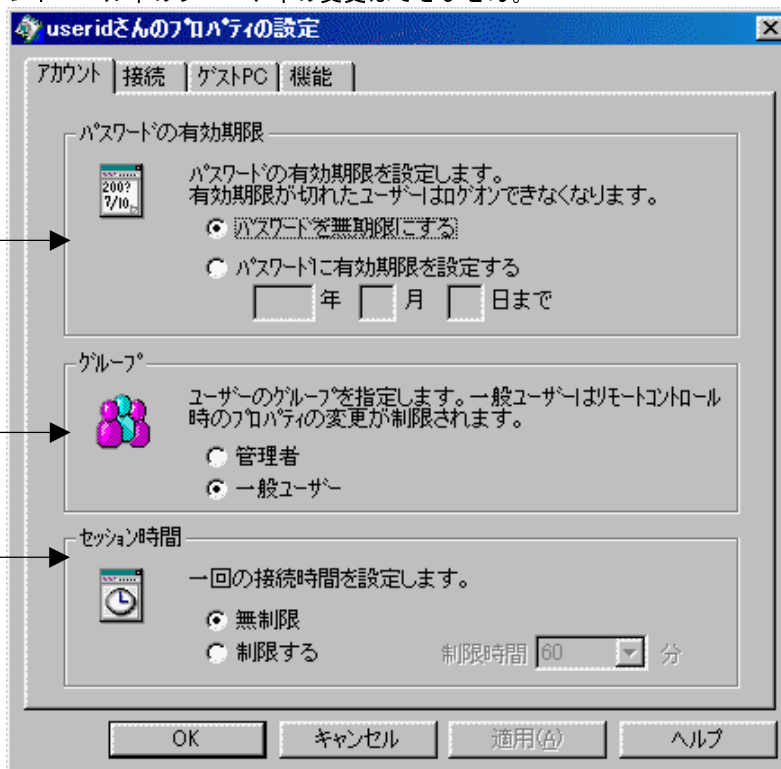
1. ホストPCで、「スタート」-「プログラム」-「IBM PCリモコン」-「Desktop On-Call PCリモコン」を選択してください。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ユーザー設定」タブを選択してください。

個々のユーザーID ごと、あるいはデフォルト・ユーザーのプロパティを設定する場合は、ユーザーID を選択し、「xxさんのプロパティの設定」を選んでください。デフォルト・ユーザーのプロパティを設定する場合は、「デフォルト・ユーザーの設定」を選択してください。



## アカウント

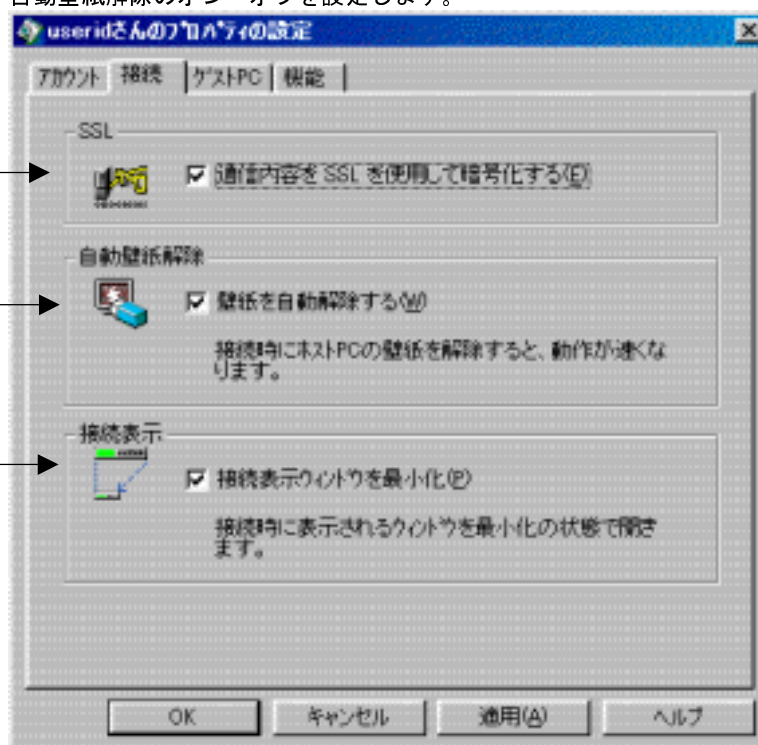
- パスワードの有効期限  
ユーザーIDごとのパスワードの有効期限を設定できます。
- グループ  
管理者か、一般ユーザーかを選びます。一般ユーザーを選ぶとリモート・コントロール中のプロパティの変更はできません。



- セッション時間  
一回あたりのセッション時間を設定できます。たとえば、通常のリモート・コントロール作業が30分で終了する場合、セッション時間を1時間に設定しておけば、万一、セッションをクローズするのを忘れた場合でも1時間でセッションはクローズするので、より安心です。

## 接続

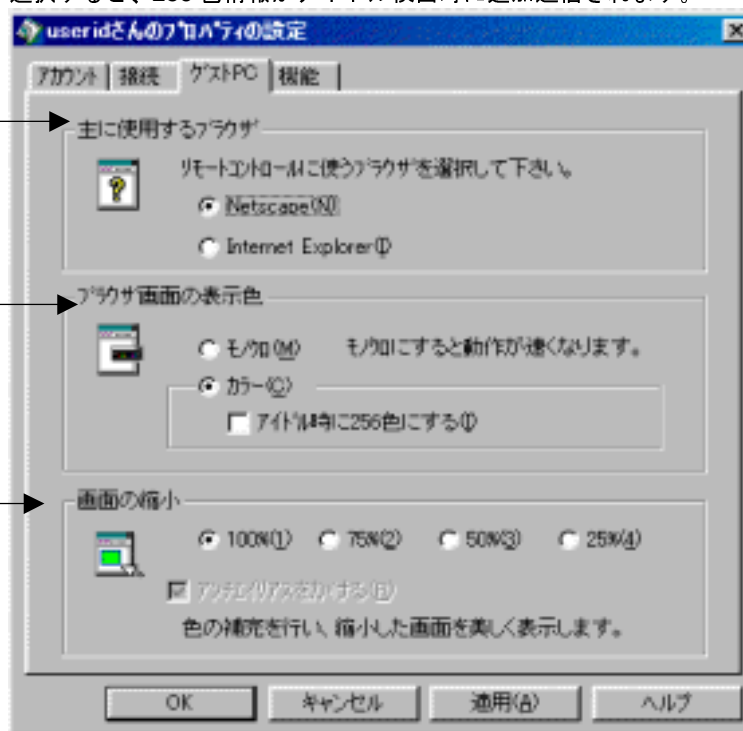
- SSL  
SSL仕様を用いてホストPC/ゲストPC間のデータの機密性を保証します。  
SSL通信のオン・オフを設定します。  
注：SSLオンにした場合、セッション確立に通常より時間がかかります。
- 自動壁紙解除  
自動壁紙解除のオン・オフを設定します。



- 接続表示  
接続表示パネルをデフォルト最小化にするかを設定します。

## ゲストPC

- 主に使用するブラウザ  
ブラウザによって色の扱いが多少異なるため、主に使用するブラウザをここで設定できます。
- ブラウザ画面の表示色  
モノクロ4階調かカラーを選択します。「アイドル時に256色にする」を選択すると、256色情報がアイドル検出時に追加送信されます。



- 画面の縮小  
画面の縮小比率をあらかじめ設定することができます。



## 機能

チェックマークを外すことで、以下の機能を制限することができます。

- ファイル転送
- ブラウザーからのキー/マウス入力  
指示ポインターの使用
- プロパティ・パネルの表示



- リモートコントロール・アクセス要求に対して、YES/NOパネルを出す。

## グリーティング・テキスト・チャット

セッションを開始する前にテキストで挨拶を交わしてからリモート・コントロールを開始できます。ヘルプデスク業務などの場合よりスムーズにリモート・コントロール・セッションを開始する事ができます。また、グリーティング・テキスト・チャットで話しかけられたくない場合は、プロパティ・パネルでオフに指定できます。(この機能は、Linux 版ではサポートされていません。)



## ラUNCH・MAP


ラUNCH・MAP機能は、複数台の Desktop On-Call がインストールされている PC をグループ管理する場合に便利な機能です。

複数台の PC を、Desktop On-Call を使ってリモート・コントロールする場合、アクセスするたびに複数の IP アドレスを覚えていて入力しなければなりませんお気に入り(Bookmark など)リストに追加しておくで簡単にアクセスできますが、いつも使っているブラウザからでなく、例えば、出張へ行って、誰かのブラウザを借りたときはどうでしょう。出先の PC には自分のお気に入りはありませんそんなとき、ラUNCH・MAP機能を利用してアクセスする PC を登録しておくで便利です。



ここで例を示します。あなたは3台の PC に Desktop On-Call をインストールし、リモート・コントロールをして管理しています。いつも、最初にアクセスする PC は「My Main PC」です。ラUNCH・MAPは、「My Main PC」の中にあり、他の PC のアドレスを保存しています。したがって、「My Main PC」を最初にアクセスすれば、ラUNCH・MAPが表示され他の PC のアドレスも表示されます。

### ラUNCH・MAPへのPCの登録方法

1. ホストPCで、「スタート」—「プログラム」—「IBM PCリモコン」—「Desktop On-Call PCリモコン」を選択するとDesktop On-Callのプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。

3. 「ラUNCH・MAP」タブを選択してください。
4. 「ホストPCの動作」の「ラUNCH・MAP」を選択してください。
5. 「追加」を選択してください。
6. ホスト名、URLを入力し「OK」を押してください。

これで登録は完了です。

### オート・ラUNCH・MAP




Desktop On-Call は、サブネット内をブロードキャストして自動的に、Desktop On-Call がインストールされているPCをラUNCH・MAPとしてリストアップします。ブロードキャストするサブネットは、現サブネット以外にも指定することが出来ます。

注：Macホストはリストされません。



### オート・ラUNCH・MAPの設定方法

1. ホストPCで、**スタート** - 「プログラム」 - 「IBM PCリモコン」 - 「Desktop On-Call PCリモコン」を選択するとDesktop On-Callのプロパティのパネルが表示されます。

- 
- 
- 
2. 「プロパティ」を選択してください。
  3. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。
  4. 「ホストPCの動作」の中から「オート・ラUNCH・マップ」を選択してください。
  5. 「OK」を押してください。これで完了です。

## 追加サブネットの指定方法



この入力フィールドに追加するブロードキャストアドレスを入力し、「追加」を押してください。

### 指定ブロードキャストアドレスの算出方法

このパネルで指定するブロードキャストアドレスは、自動ラUNCH・マップに表示したいホストPCのIPアドレスとサブネットマスクの2つより、以下の方法で算出します。

ブロードキャストアドレス= サブネットアドレス OR ブロードキャスト用ホストアドレス

サブネットアドレス= ホストPCのIPアドレス AND ホストPCのサブネットマスク

ブロードキャスト用ホストアドレス= すべてのビットが1のホストアドレス

= NOT サブネットマスク

注: AND は論理積、OR は論理和、NOT は1の補数を表します。

具体例を見てみましょう。ホストPCのIPアドレスが 192.168.3.16 でサブネットマスクが 255.255.254.0 の場合、

サブネットアドレス= 192.168.2.16 AND 255.255.254.0= 192.168.2.0

ブロードキャスト用ホストアドレス = NOT 255.255.254.0= 0.0.1.255

ブロードキャストアドレス = 192.168.2.0 OR 0.0.1.255= 192.168.3.255

となります。

## オリジナル・ラUNCH・マップ

実際のオフィスや教室などにより適合した HTML ファイルを用意し、Desktop On-Call のラUNCH・マップとして用いると、ターゲットとする PC を実環境に近い形で見つけ出しリモート・コントロールすることができます。

Desktop On-Call には、サンプルのオリジナル・ラUNCH・マップ HTML ファイルが用意されています。以下の手順で実際にサンプルのオリジナル・ラUNCH・マップ HTML ファイルを試してみることができます。

1. ホストPCで、**スタート** - 「プログラム」 - 「IBM PCリモコン」 - 「Desktop On-Call PCリモコン」を選択するとDesktop On-Callのプロパティのパネルが表示されます。
2. 「プロパティ」を選択してください。
3. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。

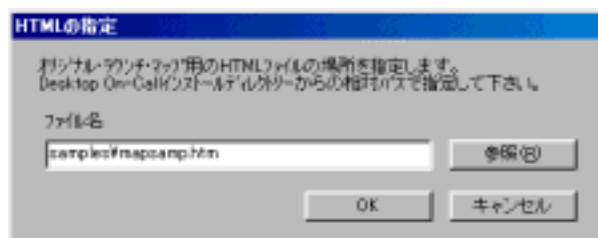


4. 「オリジナル・ラUNCH・マップ」を選択してください。
5. 「指定」を選択してください。



6. 「ファイル名」の入力フィールドに、

samples\mapsamp.htm と入力して「OK」を押してください。



7. Desktop On-Callのプロパティ・パネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。Host PCでの設定はこれで完了です。ブラウザからアクセスしてください。次のページが表示されます。



このサンプルでは、地図にレイアウトされたサイトの教室やオフィスのページを開き、そこに配置されている PC にアクセスし、リモート・コントロールを行うという

シナリオになっています。「A 事業所 教室」をクリックすると、教室サンプルのページが表示されます。



PC 上にマウスポインターを置いてクリックしてください。アプレットがダウンロードされ、ユーザーID、パスワードを入力するとリモート・コントロール画面になります。

(この例では、すべての PC の絵は、その PC 自体(この例では My Main PC)にリンクされています。)

この教室サンプルの下方に「メインマップ」ボタンがありますので、スクロールし、「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B 事業所オフィス」をクリックしてください。



これは、オフィスの例です。

各スタッフの PC や、サーバー室にあるサーバー PC にアクセスできます。

(この例でも、すべての PC の絵は、その PC 自体(この例では My Main PC)にリンクされています。)

「メインマップ」を選択し最初の地図のページに戻ってください。

次に、「B 事業所 組織図」をクリックしてください。



これは、組織図を使った例です。

(この例でも、すべての PC の絵は、その PC 自体(この例では My Main PC)にリンクされています。)

カスタマイズした HTML ファイルをラUNCH・マップとして用いるとお客様の実環境に合致したリモート・コントロール環境が臨機応変に構築できることがご理解いただけだと思います。

このサンプル HTML のリンク先を別のアドレスに割り当てるには、HTML ソースコードの以下の部分を書き換えてください。

```
<AREA shape="rect" coords="2,1,3,1"
href="/index.htm">
-->"http://2ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="3,2,1,2"
```


```
href="/index.htm">
-->"http://3ndpc.dtoc.vvv.com"
<AREA shape="rect" coords="1,2,2,2"
href="/index.htm">
-->"http://4ndpc.dtoc.vvv.com"
```

/index.htm は、その PC 自体(この例では My Main PC)を意味しています。これを、例えば、http://2ndpc.dtoc.vvv.com など、実際の URL あるいはIPアドレスに書き直してください。

### 新規作成したHTMLをラUNCH・マップに割り当てる

新規にお客様の実環境に適合したHTMLを作成するには、ホームページ作成ツール「ホームページ・ビルダー」などを使って作成してください。

以下の手順にしたがって、ラUNCH・マップ・HTML ファイルとして割り当ててください。

1. 作成した全てのファイルを、Desktop On-Callがインストールしてあるディレクトリー(通常は、C:\Program files\IBM\Desktop on-call)の下にコピーしてください。  
注：Mac 版では、Desktop On-Call フォルダ－中の programs サブフォルダ－以下にコピーしてください。
2. ホストPCで、「プログラム」－「IBM PCリモコン」－「Desktop On-Call PCリモコン」を選択するとDesktop On-Callのプロパティのパネルが表示されます。
3. 「プロパティ」を選択してください。
4. 「ラUNCH・マップ」タブを選択してください。
5. 「オリジナル・ラUNCH・マップ」を選択してください。



6. 「指定」を選択してください。
7. 「ファイル名」の入力フィールドに、作成したHTMLファイル名を入力して「OK」を押してください。
8. Desktop On-Callのプロパティ・パネルの「OK」あるいは、「適用」を選択してください。これで完了です。

---

## リモートブラウジング専用版

リモート・ブラウジング専用版とは、デスクトップの状態をブラウザで見ることのできる監視の機能だけ(View only)に絞った Desktop On-Call です。セキュリティの観点から、監視目的のみ(操作はできない)で使いたい場合にインストールしてください。なお、インストール後は、設定等一切変更できません。

リモートブラウジング専用版の場合、手の形の指示ポインタがマウスポインタとは別に表示され画面の位置を指し示すことができます。



---

## ゲストPCから入力可能なイベント

### マウス

---

2 ボタンマウスの全てのイベント

Alt キーを押しながらのマウスイベントはサポートされません。

### キーボード

---

#### 101PCキーボード

直接入力できるキー

- アルファベット(AからZ)(aからz)
- 数字(0から9)
- シンボル(!"#\$%&'()\*+,-./:;<=>@[¥]^\_`{|}~)
- Function キー (F1~F12、あるいはCtrl+1~0,-,^を使用した代用入力)
- スペシャルキー (Enter, BackSpace, Delete, Home, End, PageUp, PageDown, Left, Right, Up, Down, Esc, Tab, Space)

エミュレーション・キーによって入力できるキー

- Alt, Ctrl, Insert

#### 106PCキーボード

直接入力できるキー

- アルファベット(AからZ)(aからz)
- 数字(0から9)
- シンボル(!"#\$%&'()\*+,-./:;<=>@[¥]^\_`{|}~)
- Function キー (F1~F12、あるいはCtrl+1~0,-,^を使用した代用入力)
- スペシャルキー (Enter, BackSpace, Delete, Home, End, PageUp, PageDown, Left, Right, Up, Down, Esc, Tab, Space)

エミュレーション・キーによって入力できるキー

- Alt, Ctrl, Insert, 変換, 無変換, 半角/全角, 漢字,
-

## Macキーボード

直接入力できるキー

- アルファベット(AからZ)(aからz)
- 数字(0から9)
- シンボル(!"#\$%&'()\*+,-./:;<=>@[¥]^\_`{|}~)
- Function キー (F1~F12)
- スペシャルキー (return, delete, home, page up, page down, Left, Right, Up, Down, esc, tab, space)

エミュレーション・キーによって入力できるキー

- Option, Control, command  
(2つのキーを同時に押すコンビネーションはサポートしていません)

---

## 出力可能な画面モード

### ディスプレイ

以下のディスプレイ・モードで動作しているホストPCをリモート・コントロールできます。

- 640x480, 800x600, 1024x768, 1280x1024, 1600x1200画素
- 16色, 256色, 32K色, 64K色, 16M色

上記のモードをカラー/モノクロ4階調に色調整してゲストPC側に送られます。カラーの場合は、16色が転送されます。256色情報を追加転送するには、「強制256色転送」アイコンを押すか、プロパティ・パネル「アイドル時に256色にする」を選択してください。

Linuxでは、16色、256色はサポートなし。



## 機能一覧

リモート・コントロール	Webブラウザにダウンロードされるアプレットによりリモート・コントロール 画面縮小機能画像色モード:白黒4階調、16色(256追加転送オプションあり) ファイル転送 拡張コネクト・モード/基本コネクトモード 低リソース・モード(PDAからリモート・コントロール) 使用ポートの変更 自動壁紙解除
ファイル転送	IBM-J電子署名入りサインドアプレット(Mac, Linuxなし)
セキュリティー機能	ユーザーID、パスワード(独自暗号化) セッション開始時にYES/NOパネル*1 128 Bit SSL通信On/Off*1 ユーザーIDごとの権限設定 アクセスできるIPアドレスを制限 アクセス・ログ
グリーンティング・テキスト・チャット	グリーンティング・テキスト・チャット(接続前にテキスト・チャットで挨拶等可)(Linuxなし)
ラウンチ・マップ機能	PCマップリストをクリックすることでアクセスできる。 オート・ラウンチ・マップ(サブネット内を検索、テキストチャット可/不可を表示)(Macなし) オリジナル・ラウンチマップ(自分でマップのHTMLを編集しラウンチマップとして使用できる。)
監視カメラ スクリーン・ビュー	Webブラウザ、インターネット携帯電話からアクセス可能

\*1:PDA の場合サポートなし

## 第8章 設定パネル

この章では、ホストPCで設定可能なパネルについて簡単に説明します。

### メインパネル



休止中

接続許可を押す。

待機中

ブラウザからアクセスがあり、セッション確立。

接続中

「閉じる」を押すとこのパネルを閉じます。パネルは閉じても Desktop On-Call は終了しません。

## プロパティ・パネル

### ホストPC設定



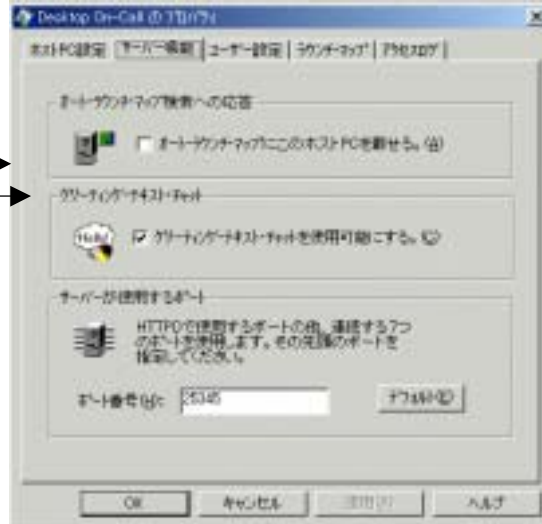
- **自動始動**  
選択すると、コンピュータの起動と同時に Desktop On-Call 待機中状態にします。
- **HTTPサーバー**  
ホスト PC のポート番号を設定することができます。通常、インターネットのホームページなどにアクセスする場合のポート番号は 80 です。

☞ ホスト PC をインターネット・ホームページ・サーバーとして使用している場合は、ポート番号が重複してしまいます。これを避けるため Desktop On-Call 初期アクセス用のポート番号を(5000-65535)指定します。例えば、5000 を指定した場合は、IP アドレスの後に :5000 を付けてアクセスします。

- **アクセスを許す IP アドレスを設定**  
ホスト PC にアクセスできる IP アドレスを制限したい場合、このリストに許可する IP アドレスを指定することができます。「IP アドレスを以下で始まるものに制限する」を選択し、アクセスを許す IP アドレスを「追加」することによりその他の IP アドレスからのアクセスを制限できます。  
例 1 : アクセスを許す IP アドレスを、10.10.10.1, 10.10.10.2, 10.10.10.3 の 3 つに制限する。3 つの全ての IP アドレスを入力し「追加」ボタンを選択してリストに追加してください。  
例 2 : 10.10.10.1~10.10.10.255 の IP アドレスのみアクセスを許す。  
10.10.10 と入力し「追加」ボタンを選択してリストに追加してください。

## サーバー機能

- オート・ラUNCH・マップ 検索への応答  
Desktop On-Call はオート・ラUNCH・マップ を作成する際に、ブロードキャストして Desktop On-Call が動作している PC を検索します。ここにチェックマークをつけると 検索に対し応答しラUNCH・マップ に載ることになります。



- グリーティング・テキスト・チャット  
グリーンティン・グテキスト・チャットが 使用可能になります。
- サーバが使用するポート  
Desktop On-Call は、7つの連続するポートを使用します。ここに指定するポートの 先頭の番号を記入してください。初期値は25345です。

## ユーザー設定



「セキュリティチェックしない」を選んだ場合、ログオン・パネルは表示されず、リモート・コントロール画面になります。

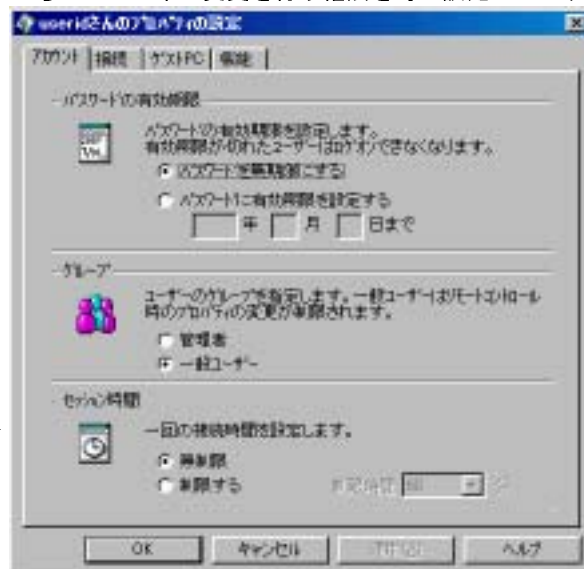
「セキュリティチェックする」を選んだ場合、必ず1つ以上のユーザーIDを登録してください。

個々のユーザーIDごと、あるいは省略値のプロパティを設定することができます。

個々のユーザーIDごとのプロパティを設定する場合は、ユーザーIDを選択し、「xxさんのプロパティの設定」を選んでください。省略値のプロパティを設定する場合は、「デフォルトユーザーの設定」を選択してください。

## アカウント

- **パスワードの有効期限**  
タイトル・バーのユーザーIDのパスワードを設定することができます。「パスワードに有効期限を設定する」を選択し、期日を入力してください。
- **グループ**  
「管理者」あるいは、「一般ユーザー」を選択します。管理者は、リモートからプロパティの変更を行う権限を可に設定できます。



- **セッション時間**  
一回のセッションに制限時間を設定できます。「制限する」を選択し制限時間を選んでください。

## 接続

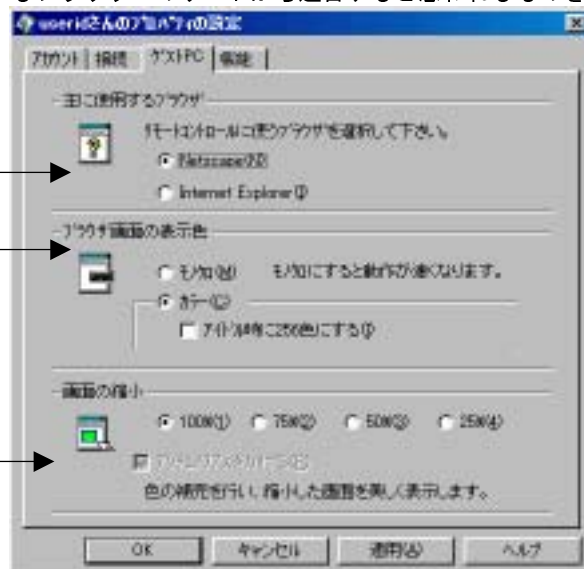
- **SSL**  
選択すると 128Bit SSL 通信が ON になります。



- **自動壁紙解除**  
壁紙が設定されていると、壁紙イメージを毎回送るので通信データ量が増えます。「壁紙を自動解除する」を選択するとリモート・コントロール時に壁紙を解除します。
- **接続表示**  
「接続表示ウィンドウを最小化」を選択するとリモート・コントロール開始時、接続表示ウィンドウを最小化状態で表示します。

## ゲストPC

- 主に使用するブラウザ  
ブラウザによって、色が不自然なことがあります。その場合、主に使用するブラウザのリストから適合すると思われるものを選んでください。

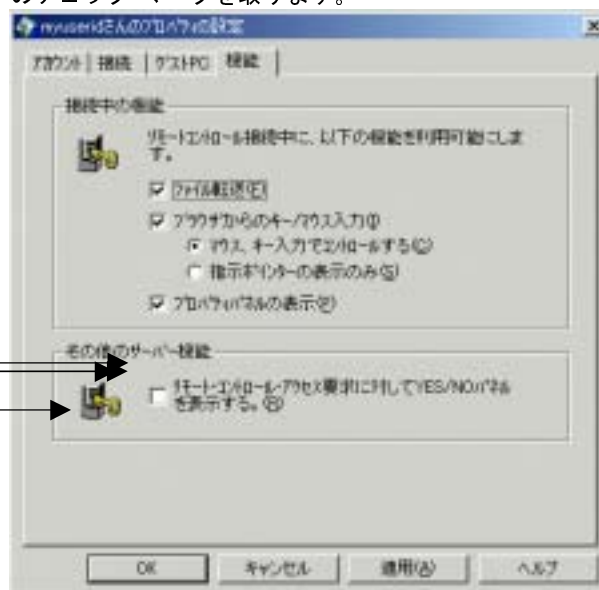


- ブラウザー画面の表示色  
「カラー」が選択されていると、画面の色は16色に減色されてブラウザに転送されます。「アイドル時に256色にする」を選択すると、マウス入力、キー入力、画面変化が検出されないアイドル状態になると、256色情報が追加転送されます。
- 画面の縮小  
コントロールする側の画面の方が狭い場合、画面を縮小すると全体がブラウザ内に入り操作しやすくなります。しかし、単純に縮小すると文字等がつぶれて読めなくなってしまう。「アンチエイリアスをかける」を選択しておくともより滑らかに縮小され見やすい画面になります。



## 機能

- **ファイル転送**  
チェック・マークを取ると、ファイル転送は禁止されます。
- **ブラウザからのキー/マウス入力**  
チェック・マークを取ると、リモートからの一切の操作はできなくなります。  
監視のみの機能となります。  
指示ポインタを選択すると、手の形のもう一つのポインタを表示し位置を指示できます。
- **プロパティパネルの表示**  
リモートから Desktop On-Call のプロパティーを変更されたくない場合、このチェック・マークを取ります。



- リモートコントロール・アクセス要求に対してYES/NOパネルを表示する。

## ラUNCHマップ

ブラウザからアクセスされた場合のHOST PCの最初の動作を選択します。

- リモート・コントロール：ラUNCHマップを表示せず、直接リモート・コントロールを開始する。
- ラUNCH・マップ：標準のラUNCH・マップを表示する。
- オート・ラUNCH・マップ：オート・ラUNCH・マップを表示する。
- オリジナル・ラUNCH・マップ：オリジナル・ラUNCH・マップを表示する。



## アクセスログ

アクセス・ログを表示する。



## 第9章 注意事項

この章では、Desktop On-Call を使用する上で、ヒントとなる技術情報、トラブル回避方法などを説明します。

### 技術情報

#### **Windows2000 SP1/2でログオンパネルのとき表示されない**

Windows2000 起動直後、Web ブラウザーからリモート・コントロール接続し、Ctrl+Alt+Del でログオンパネルを表示させてからキャンセルすると、何も表示されない。この場合は、一端Windows2000をログオフし、再ログオンしてください。Windows2000 のサポート技術情報 Article ID:W189290 にある通り、Windows 側で表示ハンドルの混乱を起こしているためです。

また、この現象はキャプチャーエンジンのスクリーンビューでも起こります。

#### **WindowsXPで簡易ログオンが使用できなくなります。**

Desktop On-Call V5 を WindowsXP にインストールすると簡易ログオンが使用できなくなります。

#### **Netscape 6.1で使用すると不安定**

Netscape Communicator 6.1 は、仕様のには Desktop On-Call が動作するはずですが検証中に以下のような現象がおきました。

- ログオン・パネルが表示されない
- ログオフするとエラーが出る。その後応答しなくなる。
- 字化けを起こす

#### **Conqueror Browser (Turbo Linux 7.0J)/ Opera 5.12で動作しない**

Desktop On-Call は Conqueror Browser/Opera 5.12 をサポートしていません。

## OS/2で削除したとき、不完全で再インストールできない場合

デスクトップ上に“Desktop On-Call”オブジェクトが残っていましたらそれを削除した後、OS2 コマンドプロンプトから“regedit2.exe”を実行して、以下のキーを削除してください：

```
HINI_USER_PROFILE¥DesktopOnCall50
```

## ActiveDesktopがOnの場合、壁紙自動解除が効かない。

ActiveDesktop が On の場合、壁紙自動解除が効かない。ActiveDesktop を off にしてください。

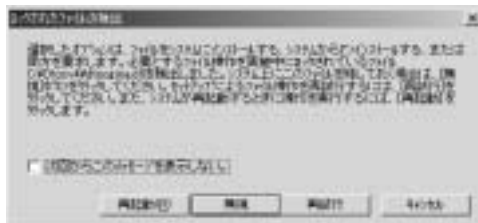
## Redhat 6.2Jでのカメラサポート

USB カメラはサポートされません。

Bt878チップを搭載しているビデオキャプチャーカードの場合、カーネル2.2では自動認識では正しく認識しませんが、bttv のドライバをロードする場合は `insmod bttv card=1` と設定すると動作します。(0と10以外)。

## 削除中のパネル

Desktop On-Call を削除する場合は、Desktop On-Call メインパネルで接続拒否を押して Desktop On-Call を休止中にしてから削除してください、



特にバージョンアップ版のインストールの再上記パネルが出た場合は再起動を選んでください。

## OS/2の場合のバージョンアップ

---

リモートブラウジング版が入っている場合、一端削除してからインストールしてください。

## 携帯電話から監視カメラ履歴を見る場合

---

携帯電話から監視カメラ履歴を見る場合、履歴画面が非常に多くあると携帯に読み込めない場合があります。キャプチャーエンジンで「カメラログファイルの削除」を選択して履歴を少ない状態に保ってください。

## デジタル・ビデオ・カメラを監視カメラとして使う場合

---

キャプチャー・エンジンが動作中にデジタル・ビデオ・カメラの電源が切れると以下のメッセージが出ます。

キャプチャーを停止します。 デバイスがみつかりません。

キャプチャー中エラー エラーコード=x x x x x x

復活させる方法は、一度、キャプチャーエンジンを終了させます。タスクトレイに無いことを確認する必要があります。デジタル・ビデオ・カメラの電源を上げます。再度、キャプチャーエンジンの起動をします。

## Linuxでインストールする場合、kpackageを使わない。

---

Caldera OpenLinux 3.1 等で kpackage が標準インストーラーになっていますが、tar.gz か rpm でインストールしてください。

## Webcam Extension Pak

---

Webcam Extension Pak がインストールされている場合、Webcam Extension Pak を一端削除してから Desktop On-Call V5 をインストールしてください。

## CDE環境で起動時にDesktop On-Callを自動始動する方法

ここに記述してある設定を行うと、ログオン後 Desktop On-Call が自動始動します。

CDE (Common Desktop Environment) は、AIX と Solaris で共通です。

CDE 環境の起動時に特定のコマンドを実行するには、`$HOME/.dt/sessions/sessionetc` ファイル<sup>\*1</sup>を作成してください。このファイルは、実行可能なスクリプト・ファイルとして

作成します。（このファイルから実行されるプロセスはバックグラウンドで実行する必要があります。）

手順は以下の通りです。

1. `$HOME/.dt/sessions/sessionetc` ファイルに、以下のストリングを書きこみます。

```
dtoc &
```

2. `$HOME/.dt/sessions/sessionetc` ファイルのパーミッションを変更します。

```
chmod 755 $HOME/.dt/sessions/sessionetc
```

3. CDE 環境を終了して再起動をおこないます。

また、ログアウト時に Desktop On-Call を停止させたい場合は `$HOME/.dt/sessions/sessionexit` ファイルを作成して下さい。sessionexit は sessionetc と同様に、実行アクセス権を持つスクリプトです。

1. `$HOME/.dt/sessions/sessionexit` ファイルに、以下のストリングを書きこみます。

```
dtocstop
```

\*1 `$HOME/.dt/sessions/sessionetc` ファイル: ホーム・セッションでは設定できないコマンド（`xsetroot` コマンドなど）を CDE 環境起動時に実行するには、このファイルに記述します。

## Desktop On-Call Linux版をX-Window起動時に自動始動する方法

Desktop On-Call をLinux の X-Window 起動時に自動始動する方法の例を示します。

Linux では、ディストリビューション、バージョン、またデスクトップ環境、設定によって動作しない場合もありますのでこの方法をヒントとして実際の設定を行ってください。ここでは redhat を例に説明します。

また、Linux の X-Window の起動方法にも2通りの方法があり、それぞれ自動始動する方法が異なります。まず、第一に一端 CUI ベースのコンソールが立ち上がり、そこからログインする場合、第二に GUI インターフェースが立ち上がりそこからログインする場合の方法をそれぞれ例として示します。

### ●CUIベースのコンソールからログインする場合

1. ホーム・ディレクトリにデフォルトのX起動時スクリプト(`$HOME/.xinitrc`)を用意します。オリジナルのファイル(`/etc/X11/xinit/xinitrc`)をコピーしてください。

```
cp /etc/X11/xinit/xinitrc $HOME/.xinitrc
```

☞ . (ドット) が付いていることにご注意ください。

2. `.xinitrc` ファイルを編集します。“`dtoc`” を追加してください。

以下に編集例を示します。

----- (省略) -----

```
# The user may have their own clients they want to run.
```

```
# If they don't,
```

```
# fall back to system defaults.
```

```
dtoc
```

```
if [ -f $HOME/.Xclients ]; then
```

```
    exec $HOME/.Xclients
```

----- (省略) -----

これで、startx などのコマンドにより X-Window が始動と同時に Desktop On-Call が自動始動するようになります。X-Window を終了したときには (Ctrl+Alt+Backspace など) 自動的に Desktop On-Call は終了します。

### ●X-Windowが立ち上がりGUIベースのログイン画面からログインする場合

1. ホーム・ディレクトリにデフォルトのX起動時スクリプト(\$HOME/.Xclients)を用意します。オリジナルのファイル(/etc/X11/xinit/Xclients)をコピーしてください。

```
cp /etc/X11/xinit/Xclients $HOME/.Xclients
```

☞ . (ドット) が付いていることにご注意ください。

2. .Xclientsファイルを編集します。“dtoc”を追加してください。

編集例を以下に示します。これはあくまでも一例です。

----- (省略) -----

```
# The input method server will die with X
dtoc

# Determine the LC_CTYPE locale category setting
tmplang="en_US"

if test x$LC_ALL != x ; then
    tmplang=$LC_ALL
elif test x$LC_CTYPE != x ; then
    tmplang=$LC_CTYPE
elif test x$LANG != x ; then
    tmplang=$LANG
fi
```

----- (省略) -----

これで、ログイン画面よりログイン後 X-Window が始動し同時に Desktop On-Call が自動起動します。

X-Window を終了したときには (Ctrl+Alt+Backspace など) 自動的に Desktop On-Call は終了します。

☞ \$HOME/.xsession ファイルが存在するときは.xsession のほうに"dtoc"を付け加えてください。



## Linux版の技術情報

- VirtualScreenを用いたときはVirtualScreen画面すべてがブラウザに表示されます。
- 2ボタンマウスを使用している場合は、Altキーを押しながらマウスの左右どちらかのボタンを押すと3ボタンマウスのエミュレーションを設定したことになり中央のボタンを押した操作と同じものとみなされます。
- ゲストPC側のブラウザが異常終了した場合で、ブラウザを再起動しても、ホストPCと再接続できないことがあります。この場合ホスト側でDesktop On-Callを再起動する必要がありますが、telnetのデーモンなどをインストールしておけばリモートからDesktop On-Callを停止できます。

☞ RedHat6.2Jでワークステーションインストールを選択するとtelnetなどのネットワーク関連サービスはインストールされません。

## Linux版での制限事項

- LinuxがホストPCの場合、グリーンティング・テキスト・チャットは、サポートされていません。
- LinuxがゲストPCの場合、グリーンティング・テキスト・チャットで、DBCS文字が表示されなかったり、入力することができない場合があります。これは、ブラウザのJava仮想マシンが正しくDBCSをハンドリングしていないためです。
- リモート側から遠隔操作ログアウトすると、ログアウトパネルが出たところでリモート側からは何もできなくなってしまいます。
- リモート側から、Ctrl+Alt+BackspaceでXの画面をCUIコンソールなどに切り替えることはできません。
- リモート側からKDEでのCtrl+Esc(現在のセッションの表示)を使用すると、セッション表示が出たところでリモート側から何もできなくなってしまいます。
- グラフィカルログインの画面はリモート・コントロールできません。
- 仮想コンソールの切り替え(Ctrl+Alt+F1,F2..)、解像度の変更(Ctrl+Alt++)はGuestPCから行うことはできません。

## **Mac版IE5からAIX Host PCをリモート・コントロールする場合**

---

接続中に切断が起き、その後再接続できない現象が起こることがあります。MacからAIXに接続する場合はNetscapeを使用してください。

## **ゲストPCがMac OSで使用する時**

---

### **ブラウザのメモリー必要条件を変更する**

1. ブラウザーのアイコンを選択する。
2. 「ファイル」を選択する。
3. 「情報を見る」-「メモリー」を選択する。
4. 最小サイズ、使用サイズをそれぞれ、8000KB～12000KBにセットしてください。

### **仮想メモリーを増やす**

1. 「コントロールパネル」-「メモリー」を選択する。
2. 仮想メモリーを「入」を選択し 100MB以上の十分なサイズを指定してください。

### **Internet Explorer**

Mac OS 付属の Internet Explorer で使用するときは、RMJ( Mac OS Runtime for JAVA)をインストールしてください。最新の MRJ2.1.1 以上をお使いください。

### **Netscape Communicator**

システムフォルダの中の機能拡張フォルダに Netscape Communicator 付属の [Java Accelerator for PowerPC](#) をドラグ&ドロップで入れてください。

## **マルチ・ディスプレイについて**

---

Desktop On-Call は、Windows 98 のマルチ・ディスプレイ機能をサポートしていません。

## **全画面表示のセッションに行ってしまった時の対処方法**

---

Desktop On-Call は全画面表示をサポートしていません。全画面表示になってしまったときは、以下の方法で対処してください。

### **Windows 95/98 および Windows NTの場合**

Alt + Enter を押してください。

### **OS/2 Warpの場合**

Ctrl + Esc を押してください。

## **ゲストPCから日本語入力をする**

---

ゲストPCの日本語入力システムをオフにしてください。

ホストPCコントロール画面にあるホストPC側のデスクトップの日本語入力システムをオンにしてください。

ホストPC側日本語入力のオン／オフの切り替えは、ホストPC・コントロール画面の[漢字]エミュレーション・キーをクリックすることにより行うことができます。

リモートから漢字入力をしている場合、エミュレーション・キーの変換を用いるよりスペースキーを変換キーとして用いると便利です。(ただし、お使いになっているかな漢字変換プログラムによっては、スペースキーが変換に割り振られていない場合もあります。)

## **DOSプロンプトにDBCS入力に関する制限**

---

リモートから Windows の DOS プロンプトにかな漢字変換をして入力すると文字が2回入ってしまいます。

### **リモートからディスプレイ・モードの変更は避ける**

---

ディスプレイ・モードのブラウザーからの変更はテスト用ビットマップの表示がうまくでないことがあります。また回線スピードの関係で、ダイアログからの問いに対してタイムアウトで答えられないこともありますので、あまりお勧めできません。

### **ブラウザーに表示される画面に縦横の色むらが表示される**

---

「PC リモコンのプロパティ」の「ゲスト PC」ページで設定する「主に使用するブラウザー」として、現在使用中のブラウザーが正しくセットされていますか。これが異なる場合には、色むらが発生する場合があります。なお、この設定を変更した場合には、ブラウザーから再ログオンしてください。Netscape を 16 色や TRUE カラーで使用している場合は、その他を選択してください。

### **「既にユーザーXXXXにコントロールされています」と表示される**

---

ゲストPC側のブラウザーのリロードボタンを押すと、「このマシンは既にユーザーXXXX にコントロールされています。」と表示されてしまう場合は 再度リロードボタンを押してください。

### **「TCP/IPがインストールされていません」と表示される**

---

Windows 98SE あるいは NT に TCP/IP が正しくインストールされていません。Windows のマニュアルに従って、TCP/IP を正しくインストールして下さい。

### **「DHCPサーバーと接続できない」「IP Address を取得できない」と表示される**

---

Desktop On-Call は、DHCP サーバーから IP アドレスを動的に割り振られる環境でも正しく動作します。しかしDHCPサーバーが正しく動作していなかったり、もともとDHCPサーバーがないのにDHCPサーバーからIP アドレスを取得する設定になっている場合に、Desktop On-Call を起動したとき、以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

「DHCP サーバーと接続できません。IP アドレスを指定して下さい。詳しくはマニュアルを参照して下さい。」あるいは Desktop On-Call のメイン画面の URL アドレス欄に、「IP Address を取得できません。」

DHCP サーバーがないのに DHCP サーバーから IP アドレスを取得する設定になっていませんか。以下をチェックしてください。

#### **Windows 98 の場合：**

「コントロールパネル」 -> 「ネットワーク」 -> 「ネットワークの設定」 -> 「TCP/IP」 -> 「IP アドレス」の設定が「自動的に IP アドレスを取得」になっていませんか。

#### **Windows NT の場合：**

「コントロールパネル」 -> 「ネットワーク」 -> 「プロトコル」 -> 「TCP/IP」 -> 「IP アドレス」の設定が「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」になっていませんか。

これらが設定されていて、ダイヤルアップでプロバイダに接続していない、DHCP サーバーが無効であるなどの場合、サーバーに IP アドレスが割り振られていないため、このようなメッセージが表示されます。正しく IP アドレスがセットされている環境でご使用ください。

#### **ブラウザに URL を指定しても反応がない**

「PC リモコンホスト PC の状況」が「待機中」になっているか確認してください。

#### **指示ポインターの背景が実際の背景色とマッチしていない場合がある**

減色しているため、このような現象が起こることがあります。

#### **ネットスケープでアプレットが反応しなくなる。IE でブラウザ自体が停止**

Desktop On-Call は、ゲスト側のプログラムとして Java アプレットを用いているので、ご使用のブラウザおよびその JVM (Java 仮想マシン) の品質に左右されます。以下の操作をした場合にアプレットが反応しなくなったり、ブラウザ自体が停止することがあります。

- 画面拡大・縮小ボタンを繰り返し押す。
- セッション制御画面で、ファイル転送停止、開始を繰り返し押す。
- SSLオンの時、NSで接続に失敗する。その後NSが停止。
- ログオン後、リモート・コントロール画面がでる前にリロードボタンを押す。
- 同時に2箇所のホストPCをリモート・コントロールする。
- 同時に2箇所のホストPCとテキスト・チャットを行う。

### **「Java.Lang.OutOfMemoryError」と表示して止まる**

---

ゲストPC側のマシン上でホストPC画面を表示するための十分なメモリが確保できていません。次のいずれかの方法を試してみてください。

- ゲストPCマシンのスワップ領域 (Windows 95/98 の場合はCドライブの残り容量) をハードディスク上に十分に確保する。
- ゲストPCマシンの画面モードが 32K 色表示モード以上の場合、256 色表示モードにする。
- ホストPCマシンの画面解像度を落とす。
- ゲストPCマシンのメモリを増設する。

### **IE使用時、スクロール・バーを使用すると画面表示が乱れることがある**

---

もう一度、スクロールし直す。あるいはブラウザのウィンドウを一端最小化し、復帰させて画面を更新させてください。

### **動画再生ウィンドウが正しく表示されないことがある**

---

QuickTime などの動画再生プログラムによって表示される動画エリアがグラフィック・カード上の RAM エリアを使用し表示している場合は、正しく表示されないことがあります。

### **DirectX について**

---

- Desktop On-Call V5がサポートするDirectX は DirectX 8です。
- Windows MEには、Direct X 7.1が入っており、Desktop On-Call V5はDirect X 7.1でも正しく動作することが検証されていますので、

Windows MEの場合は、そのままお使いいただけます。

- 2001年4月現在、マイクロソフトのサイトから、DirectX 8aがダウンロード可能です。DirectX 8aでも正しく動作することが検証されています。
- 他のアプリケーションがDirectXを使用している場合、同時にDesktop On-Call V5を使うとエラーが出る場合がありますので、同時使用は避けてください。
- リモート・コントロール画面にDesktop On-Callキャプチャー・エンジンに映し出されている画像が映らず、黒く見えることがあります。これは、DirectDrawアクセレレータを使用している場合にそうなります。以下の手順でDirectDrawアクセレレータを無効にすれば画像がリモート・コントロール画面にも映るようになります。

1. 「スタート」-「ファイル名を指定して実行」を選択
2. 「dxdiag」と入力し実行
3. 以下のパネルのDirectDrawアクセレレータを無効にしてください。



### スクリーン・ビューのちらつき

スクリーン・ビューで画面がアップデートされる際、一端白くなり再び描画されることでちらつくことがあります。これは、IEの5.0以前のバージョンまたは、ゲストPCのCPUがPentium II相当以下の場合に起こりやすい

ことが報告されています。IE 5.5 以降のバージョン、あるいはゲスト PC の CPU が Pentium III 相当以上をお使いになることをお勧めします。

### **メルコ キャプチャーボードCBP-AVご使用の場合**

---

Windows 98/Me 上の試験でキャプチャー・エンジン起動時にエラーが報告されています。Windows 2000 上での使用をおすすめします。

### **iモード使用時のパケット料金について**

---

2001 年 4 月現在、NTT DoCoMo の i モードデータ通信料金は、1 パケット (128byte)あたり、0.3 円です。

カメラの画像を 1 回見た場合、画像のサイズは約 6K バイト程(画像によって多少サイズは異なります)で約 14 円かかります。スクリーン・ビューでスクリーン横一列見た場合は、約 13K(画像によって多少サイズは異なります)で約 30 円かかります。

その他、最新情報は、Readme.txt 又はホームページを参照してください。



---

## Desktop On-Call Linux版エラーメッセージ

Linux 版では、以下の message がターミナル上に表示されることがあります。

その場合の意味と対処方法を説明します。

Desktop On-Call is already running.

- Desktop On-Call がすでに動いています。そのまま御使ください。
- 他のユーザーが Desktop On-Call を停止させていない可能性があります。"dtocstop"で一度停止させてから再度"dtoc"で開始してください。
- Desktop On-Call を正しく停止させていない可能性があります。"dtocstop"で一度停止させてから再度"dtoc"で開始してください。Ctrl+C または kill コマンドにより Desktop On-Call を停止させたときにこの現象は起ります。

Desktop On-Call is already running by the other user.

- Desktop On-Call は他のユーザーによって使われています。

unable to open display

- DISPLAY 環境変数が正しく設定されていません。設定後、"dtocstop"で一度停止させてから再度"dtoc"で開始してください。

## 用語集

NAT	Network Address Translator
PDA	Personal Digital Assistant
SSL	Secure Socket Layer
エミュレーション・ボタン	AltキーやCtrlキーなどゲストPC側で機能してしまうキー、漢字キーなどJavaでサポートされていないキーをボタンとしてサポートしたもの。
オート・アップデート	Desktop On-Callのホームページに最新モジュールを用意しています。この機能により最新かを確認、最新モジュールを適用することができます。
オート・ラウンチ・マップ	サブネット内をブロードキャストし、自動的にDesktop On-Callがインストールされたマシンのマップを作る機能。
オリジナル・ラウンチ・マップ	標準ラウンチ・マップの代わりに、自ら作成したHTMLをラウンチ・マップとして使用する機能。
拡張コネクト・モード	拡張機能(複数ウィンドウ、SSL通信、ファイル転送)を使用できるモード。Javaスクリプト1.2、LiveConnect、JDK 1.1以上が必要。
低リソース・モード	PDA等の小さいデバイスからリモート・コントロールを行う場合のモード
基本コネクト・モード	リモート・コントロールのみのモード
グリーティング・テキスト・チャット	リモート・コントロールの前に簡単な挨拶、コミュニケーションをとるための機能。
ゲストPC	コントロールする側のマシン。Javaブラウザが必要。
ネットワークカード経由	イーサネットやトークンリングのようなネットワークカードを経由してリモート・コントロールを行う
ホストPC	Desktop On-Callがインストールされ、コントロールされる側のマシン。
モデム経由	モデムを経由してリモート・コントロールを行う。
ラウンチ・マップ	複数のDesktop On-Callがインストールされたマシンにアクセスする際、マシンをマップ上に配置しアクセスしやすくしたマップ機能。
リモート・ブラウジング専用版 指示ポインター	ホストPCの画面を見るだけで、操作できないバージョン手の形のもう一つのポインターで位置を指し示すことができます。
指定ブロードキャストアドレス	オート・ラウンチ・マップで現サブネット以外に指定ブロードキャスト・アドレスを追加することによって、ブロードキャストするサブネットを追加することができます。

---

## 商標

IBM, AIX, Aptiva, ThinkPad, OS/2, Desktop On-Call、PCリモコン、ホームページ・ビルダーは、IBM Corp.(米国)の商標です。

Solaris, Java は、Sun Microsystems, Inc(米国)の商標です。

Apple, Mac, Macintosh, PowerMac は、Apple Computer Inc, (米国)の商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited がライセンスしている米国ならびに他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

X Window System は、X Consortium Inc. の登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows NT は、Microsoft Corp.(米国)の商標です。

製品名または会社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この「プログラム」は、RSA Data Security, Inc. からライセンスされた機密保護技術を含んでいます。この技術は、以下の著作権表示とともに同社からライセンスされたソフトウェアにより提供されます。

Copyright (c) 1998 RSA Data Security, Inc. All Rights Reserved.

---

## 特記事項

本書で言及されるIBM\*製品、プログラム、またはサービスのなかには、日本で発売されていないものも含まれます。このことは、弊社がこれらの IBM 製品、プログラム、またはサービスを、日本で発売する意図があることを示すものではありません。

本書で、IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、該当製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、又はサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらの製品、プログラム、またはサービスの評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

本書で解説される主題について IBM がその特許権(特許出願を含む)を所有していることがあります。本書は、これらの特許権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权の照会は、下記の宛先に書面にて行ってください。

〒106-8711

東京都港区六本木 3-2-31

IBM ワールド アジア トレードコーポレーション

コマмерシャル リレーションズ